

289

明治廿七年七月

農報

第壹號

出雲有志地主農辰談會

農報 第壹號

目次

| | |
|---------------|-----|
| 農報發行ニ就キテ | 一 |
| 齋藤勝廣氏ノ農話 | 四 |
| 地主ト小作人トノ關係ニ就テ | 十七 |
| 耕地區劃改正ニ就テ | 三十四 |
| 豪農階級ニ告ク | 四十二 |
| 勸勉貯蓄ニ關スル主意 | 四十八 |
| 貯蓄法 | 五十六 |
| 米ニ就テ前田氏ノ意見 | 六十三 |
| 陸地棉ノ栽培法及成績 | 六十四 |
| 縣下重要作物驅除法摘要 | 六十七 |

一
四
十
三
四
四
五
六
六
七
七



農報第一號

| | |
|----------------|------|
| 杉檜栽培實驗講義 | 九十丁 |
| 澤野氏麥奴豫防ノ話 | 九十六丁 |
| 適切ナル麥奴豫防法 | 百一丁 |
| 螟虫浮塵子驅除法 | 百二丁 |
| 烟草虫驅除法 | 百三丁 |
| 秧ノ移植ニ就テ | 百三丁 |
| 液肥施用ニ就キテ | 百五丁 |
| 大小麥ノ移植ニ就キテ | 百六丁 |
| 茄子ノ栽培法 | 百八丁 |
| 茄子ノ色變セス生ノ儘貯フル法 | 百九丁 |
| 食物貯藏法 | 百十丁 |
| 葡萄蛾ノ驅除法 | 百十一丁 |
| 玄米播種成績ニ就テ | 百十二丁 |
| 養雞ノ好飼料 | 百十二丁 |

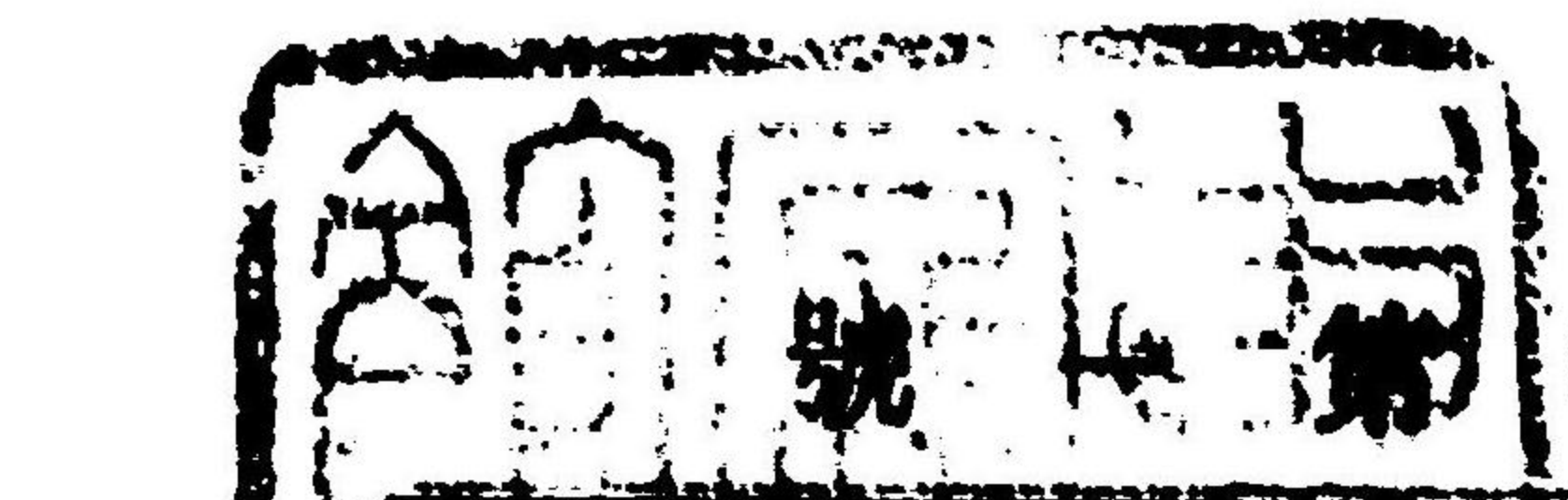
農報第一號

| | |
|-------------------|-------|
| 出雲農作物被害額 | 百十三丁 |
| 各府縣牡牛馬頭數 | 百十四丁 |
| 全國米產額 | 百十五丁 |
| 農學校及獸醫學校一覽表 | 百十五丁 |
| 安來地主組合規則 | 百十六丁 |
| 荒島村地主組合規則 | 百十九丁 |
| 荒島村有志地主組合規則實施方法 | 百二十一丁 |
| 勸農社々々則 | 百二十二丁 |
| 勸農社擴張主旨書 | 百三十二丁 |
| 農商務省告示第七號 | 百三十五丁 |
| 農商務省告示第十九號 | 百三十九丁 |
| 大日本農會ヨリ各地老農ニ質セシ問題 | 百四十一丁 |
| 本會記事 | 三 |

農報 第一號

●農報發行ニ就キテ

我出雲國有志地主農談會客年第九回定期會ニ於テ本報發行ノコトヲ決シ其方法順序ヲ定メタリ是ヨリ先キ第一回集會已來毎回談話ノ要領ヲ錄シ以テ會員ニ頒ツコトナリシモ時勢ハ漸ク擴張ヲ促シ乃チ茲ニ本報ヲ發兌スルニ至レリ亦已ニヘカラサルノ必要ヲ認メシニヨル



抑本邦今日ノ形勢無事昌平ナリト謂フト雖モ潛心各種ノ現象ヲ窺ヘハ即憂慮ノ措ク能ハサルモノ之レナシトセス試ニ看ヨ人口ノ増殖ハ平均一年三拾八萬ヲ超ヘ中外ノ交渉ハ年ニ繁雜ヲ告ク之ニ伴フテ高般ノ經費亦多キヲ要スルハ免ルヘカラサルノ事實ナラン而シテ之ヲ供給スルニ他ナシ唯農商工ノ事業ニ在ルノニ農商工業ハ即立國ノ基礎々々ナラサル乎輸兵ノ建設モ亦安キヲ得ス況ンヤ天災地變ノ之ヲ保スヘカラサルニ於テアヤ之ニ起居スルモノ豈枕ヲ高シテ眠ラ得ンヤ

然リ而シテ世ノ有力者口ヲ開ケハ輿政治ノ事ニ及ヒ律令典型國防風教

農報第一號

等利害ヲ議シ得喪ヲ評スル噴々トシテ復到ラサルナシ而シテ農商工業ニ至テハ則之ヲ論スルモノ寥寥星ノ觀アリ之ヲ論スルモノ已ニ然リ之ヲ實地ニ試ミ之ヲ經驗ニ問ヒ以テ之カ發達ヲ圖ルモノ四千萬人中果シテ幾何カアル政ヲ論スル固ヨリ其必要アリ然レトモ其基礎ノ如何ヲ顧ミス從ニ建設ノ宏壯ヲ欲シ外觀ノ粉飾ニ汲々タルニ至テハ抑何ノ意タルヲ解セサルナリ

農商工ノコト之ヲ振興シ之ヲ擴張スル何レモ急務トスル所アリ一タヒ殖産界裡ニ立テ其真相ヲ熟視セハ一トシテ改善ヲ待タサルナシ而シテ其最も重要ノ位置ヲ占メ最も不振ノ境遇ニ在ルモノヲ農業トナス本會ノ主トシテ之カ振振ヲ圖ル所以亦此ニ存ス

且夫レ現今農業ノ狀態其發達ノ遲々タル所以ノモノ主トシテ地主小作ノ關係ニアリ何トナレハ農ノ實務ニ從事スルモノ古來多クハ下流ニアリ農地ヲ所有シ座食ニ堪ユルモノニ至テハ概シテ之ヲ顧ミス土地ヲ貸付シ作益ヲ收入スルヲ以テ自ラ足レリト爲シ耕耘栽培ノコト一ニ小作ノ爲スニ任シ敢テ問フ所ナシ然シテ小作者ハ自己ノ生計ニ拮据シ星ヲ戴キ月ヲ踏ミ周歲勞役スルモ猶動スレハ菜食ヲ免レサルモノ其多キニ

農報第一號

居ル之ニ向テ改良ノコトヲ責ムル抑亦難シト謂フヘシ吾情之ヲ憾トシ今ヲ距ル六年前同志相議シテ本會ヲ組織シ地主自ラ率先シテ改良ノ事ニ從ヒ以テ他ヲ誘接センコトヲ期ス而シテ本報ハ其旨趣ニヨリ或ハ意見ヲ發露シ或ハ功程ヲ報道シ或ハ發明實驗ノ事實ヨク地方ノ農況ニ適シ裨益アルヘキモノヲ採録シ以テ會員ニ頒テ相提携シテ改善發達ヲ圖ルノ機關ナリ

嗚呼農業ノ前途急要措クヘカラサルノ事務益々多端ナルハ全邦ヲ通シテ皆然ラサルナシ特ニ我地方ノ如キ最も其然ルヲ見ル加フルニ今ヤ陰陽聯絡ノ鐵路將ニ布設セラレントシ久シカラスシテ其開通ヲ見ン惟フニ其期ニ至テハ殖産上著シキ變動ヲ來シ農業ノ如キハ最も甚シキモノアリシト豈悠々寢食ヲ安スヘキノ秋ナランヤ本會ノ如キハ將ニ益々奮勵シ之ヲ小ニシテハ地方ノ利益ヲ増進シ之ヲ大ニシテハ立國ノ基礎ヲ鞏固ニシ以テ邦家ノ旺盛ヲ期セサルヘカラス而シテ本報録スル所ノ事實ヨク會員相互ノ參考トナリ斯業振起ヲ促スノ曉鐘トナラハ則發行ノ勞空シカラサルナリ庶幾クハ與ニ俱ニ之ヲ勉メン

會長 佐藤喜八郎

● 齋藤老農の講話

○ 稻作改良談

農報第一號

稻作改良ノ事ヲ述フルニ嘗テ先ツ余カ村ニ於テ之ヲ試驗實行シテ野
 結果ヲ得タル始末ヲ陳センニ村民ノ耕作スルトコロノ田地ハ山ト山ト
 ノ間ニ在リテ往昔ヨリ米質重ツテ悪シク青米赤米俗ニ所謂死米ト稱ス
 ルモノ非常ニ多クシテ價格ノ低廉ナルハマダシモ世ノ漸次進歩スルニ
 隨ヒ品質ノ劣等ナル者ハ追ヒテ需用ノ途ヲ失ヒ爲ニ豐作ノ年ニハ賣
 却方ニ困難ナル有様ニシテ村民ノ不幸ハ此上モナカリシガサテ之ヲ改
 良セント欲スルモ前述ノ如ク其原因ハ地勢上土質ト云フガ如キ人力ノ
 タヤスタ左者スベカラザル點ニアレハ中ノ一朝夕ニ能ク遂行スヘキ
 容易ノ業ニアラズサレハトテ打捨テ置クヘキニアラザレハ村内有志ノ
 連中ハ種々ト苦慮協議シテ試驗ニ志ラザリシガ遂ニハトウテ其效ヲ
 奏シ今日トナツテハ先ツ立派ナル米ヲ産スルニ至レリ而シテ初メ米質
 ノ劣等ナルハ重ニ地勢土質ヨリ來ルノ結果ナラント信ゼレハ全ク我々
 ガ研究ノ足ラザリシモノニテ今自ヨリ之ヲ見レハ全然種子ノ選擇ヲ志
 シシカ爲メニ外ナラス即チ種子ノ蒸シキヨリ赤米死米等ノ多カラシニ

農報第一號

外ナラス而シテ其種子選擇ノ要ハ大穂ヲ撰ムニアリテ他ニ勝レタル大
 穂ハ其實大低善良ナルモノ、如シ之ヲ採ルニハ稻穂已ニ十分ニ熟スル
 時ハ幾分ガ米質ハ下劣ニ趨クモノナレハ未ダ十分ニ熟セザル時期即チ
 穂ニハ凡ソ二三粒ノ青穂アルノ時ヲ以テ尤モヨシトス之ヲ採ル方法ニ
 ツキテ一言シ置カンニ婦人ハ小ヤカナルハリコヲ腰ノ邊ニツケテ稻穂
 ノ中ニ別入リテ二本ノ竹箆ヲ以テ之ヲ扱ギ彼ノハリコノ中ニ入ル、ナ
 リ而シテ何等ノ必要アリテ面倒ニモ之ヲ立穂ノ内ニ扱ギ蒔リ取りタル
 後ニセザルヤト云フニ斯ル未熟ノ稻ヲ刈取ル時ハ收穫減シテ非常ニ損
 失アル者ナレハ少シノ手数ニハ相違ナキモ是非トモ之ヲ立穂ノ内ニ扱
 取ラザルヘカラサルナリ而テ已ニ之ヲ扱キタル上ニテ又最モ注意セサ
 ル可ラサルハ干燥ノ方法ナリトス乾燥其度ニ過クル時ハ米粒ハ横ニ審
 割ヲ生ジ甚タ種子トシテ害アレハ極晴天ニテ三日位ヲ以テ適當トス決
 シテ三日ヲ超過スヘカラザルモノナリ而シテ此度合ノ干燥ヲナス時ハ
 量數ハ凡ソ二割位ノ減耗ニ止マルモノトス以上ハ重ニ原種ノ選擇法ナ
 ルガ此上尙ホ鹽水選ヲナスハ尤モ必要ノコトナレトモコハ已ニ諸君ノ
 御承知ノ事柄ナレハ今之ヲ贅セズサテ次ニ尤モ面倒ナルハ苗代ノ仕方

ニシテ其種ノ蒔方ノミニテモ之ヲ薄蒔ニスル時ハ虫害(サシ虫)ヲ被ルノ虞アリ又之ヲ厚蒔トナス時ハ收穫減スルノ損失アリト云フカ如ク到底一定ノ方法ヲ以テ適當ノモノナリト斷言スルヲ得ズ畢竟スルニ此等ハ其地方ノ氣候土質肥料稻ノ種類等ニ最モ重大ノ關係アルモノナレハ余ハ一定ノ方法ヲ定メスシテ之ヲ土地ニ間フト云フノ方針ナリ之ヲ土地ニ間フトハ苗代ヲ六尺四方即チ一坪宛ニ區畫シテ第一ノ坪ニハ五合ヲ蒔キ次ニ八合次ニハ一升ト云フカ如ク試驗的ニ播種シテ蒔秧ノ際ニモ矢張田面ヲ六尺角ニ組ミ甲ノ坪ニハ五合蒔乙ハ八合蒔丙ハ一升蒔ト各々區別シテ植ヘ之ヲ植ユルニモ又三十株五十株ト種々蒔試スルナリ而シテ其肥料手入等一切ハ必ス何レモ同様ニスヘキハ勿論タリトス斯クシテ秋期收穫ノ際ニモ各々區別シテ刈取リ一々其收量米質等ヲ比較スルトキハ必ス其間ニ差異アルヲ見ル可シ即チ其米質ノ最モ善良ニシテ收穫ノ多量ナルモノヲ選ンテ之ヲ採用シ其方法ニヨリテ播種耕作スルナリ之レ即チ土地ニ間フノ方法ニシテ尤モ確實ナラント信セラルル其次ニ來ルモノハ植方ナリ之レ又ナカク面倒ニシテ先ニモ述ヘシ如ク土地ニ間フノ外ナシ即チ坪ヲ畫シテ三十株五十株ト種々ニ試ミ且地味ノ

異ナルニ隨ツテ試驗シ好結果ヲ得タルモノヲ以テ最良法トナシテ採用スヘシサテ斯クシテ其改良法ノ試驗ヲ終リ愈々之ヲ實行スルノ方法ヲ述ヘンニ先ツ苗代ノ片隔ヲ六尺四方ニ區域シテ縱令ハ五合蒔ナラハ五合六合ナラハ六合ト其成績ニ依テ最モ均平ニ其粉ヲ蒔キ之ヲ手本トシテ其通りニ蒔クナリ

次ハ蒔秧ノ方法ニシテ之レ又恰モ苗代ノ如ク田面ノ一隅ニ坪ヲ畫シ五十株トカ三十株トカ各試驗シテ其株ト株トノ距離ヲ度リ夫レノ定木ヲ製シテ使用スルナリ而シテ此定木ハ何時ニテモ用ユルヲ要セス單ニ苗一把ヲ蒔ム間之ヲ用ヒ其後ハ嚴重ニ既蒔ノ株ニ倣ツテ蒔秧スルニアリ斯クスル時ハ一人ニテモ其規矩ヲ誤ルモノアルトキハ直チニ隣ノ人ニ影響ヲ及ホスヲ以テ容易ニ之ヲ正スヲ得テ最モ嚴重ニ蒔スヲ得ルナリ蒔秧順序ノ正不正ハ實ニ收穫ノ多寡ニ關係アルノミナラス後日ノ除草及ヒ刈リ揚ケ等ニ最モ不便ヲ感スルモノニシテ即チ順序正シキ田ハ雁爪ヲ以テ除草ヲ得ルノ便益アルモ若シ其ノ順序不規律ナレハ斷シテ之ヲ使用スヘカラス我地方ニ於テモ初メハ田面ノ除草ハ盡ク手ヲ以テナセシカ一度雁爪使用ノ利益ヲ知得セシ以來又乎ヲ以テ除草スルモノ

無キニ至レリ序手ニ命其使用ノ方法並ニ利益ヲ一言シ置カンニ此雁爪ハ恰モ熊手ノ小形様ノモノニレテ長キ柄ヲ着ケ之ヲ以テ稻株ノ間ヲ攪キ返スナリ而シテ其時期ハ播秧後十七日乃至二十日頃ヲ以テ最モヨシトス若シ二十日ヲ超ユルトキハ稻根播カリテ之ヲ絶テ切ル害アルナリ此器具ヲ除草ニ使用スルトキハ草ノ生シタル上部ノ土ヲ下ニ草ニキ下部ノ土ヲ上ニ翻スヲ以テ害ニ除草トナルノミナラス上部ニ在リテ日光ニ遇ヒ肥ヘタル土ハ下部トナリテ稻根其肥ヘタル土ニ根ヲ生シテ非常ノ培養トナリ又下ニアリテ日光ニ遇ハサリシ土ハ更ラコ上部トナリテ日光ニ遇ヒテ肥ユルヲ以テ其利益トスルトコロ決シテ妙カラサルナリ殊ニ其除草ニ効アルコトハ此器具ヲ使用スルコト五年以上ニ渉ルノ田地ハ殆ント絶草ノ姿トナルヲ以テモ其利益ノ一斑ヲ知り得ヘシ此順序ヲ以テ改良スルトキハ第一米質ヲ佳良ニシ收穫ヲ増シ搗減ヲ減スル等其利益決シテ一二ニ止マラサルナリ諸君幸ニ試ヨラレンコトヲ云々

○水田ト干田

次ニ御話レセント欲スルハ水田ト干田ノ利害ナリ之レニ余ガ實驗談ヲ述ヘテ御參考ニ供センユ余ノ所有ニ属スル田地ニ一反ノ水田アリ此水

田ハ古ヨリ四時トモ未ダ嘗テ干キタルコトナク此狹隘ナル田中ハ種々ナル地質ヨリ成立シ淺キトコロ深キトコロ或ハ金氣水ノ湧クトコロ冷水ノ出ツルトコロ杯アリレ其米質ハ至ツテ劣悪ニシテ收穫モ亦寡額ナリシガ余ハ五年以前ニ晴溝坡溝等種々ナル方法ヲ以テ其一半ヲ干田トナシ其年ヨリ一半ノ水田ト同量ノ肥料ヲ施シ又同様ノ手入ヲナシテ播秧ニ其結果ヲ試驗セシガ村民等種々ニ批評セシニモ拘ラス其成績ハ至ツテ宜ロシク(詳細ナル比較統計アレドモ之ヲ略ス)茲ニ初メテ干田ノ大ニ利益ナルヲ知り得タリ而シテ余ノ村ニハ一望廿四丁歩ノ水田アリテ此土地ハ其側ヲ流ル川床ヨリモ地面低キガ爲メニ河水堤防ノ底ヲ潜リテ浸入スルヨリ四時絶テ乾クコトナキ次第ナルガ余ガ試驗ノ結果ニヨリテ其干田ノ利益アルヲ知リ之ヲ干キント欲スルモ何分廿七八名ノ作人アルトテ容易ニ其議難ル可クモアラサルヨリ種々協議ノ上世話人ナルモノヲ選ミ之レニ一切ノ事ヲ托スルコトナリ余モ亦其一人コシテ種々ト盡力シテ溝等ヲ穿テ終ニ立派ナル干田トナシ得タリサテ此水田ヲ矢張余カ所有スルモノト同シク深キ處淺キ處冷水金氣泉ノ湧ク處種々難多ナル土質ヨリ成立シ居リシカ之ヲ干田トナシタル後ニ檢ムル

ニ土深クシテ屢ヲ没スルカ如クナリシ場所ハ粘土非常ニ深ク又淺クシテ足ノ甲ヲ没スルニ足ラザリシ箇所ハ石ナリシカス其土質ニ種々異同アルヲ以テ隨ツテ米質一定セスシテ不揃ナラサルヲ得ス依ツテ干田トナスト同時ニ土工ヲ起シテ土地ヲ淺シテ石アル箇所ハ之ヲ除キテ土地深キ箇所ノ粘土ヲ以テ埋ムルカ如ク其土質ヲ一定セシメタルヨリ分ケテ好結果ヲ得タルニヨリ今一二年ノ内ニハ悉皆之ヲ二毛作トナスノ胸算ナリ併シナカラ此水田ヲ變シテ干田トナスニハ其費用モ少カラサルコトナレハ到底一年二年ノ間ニ之ヲ償フ能ハスト雖モ五六年ヲ經過シテ其處土ト上土ト自然ニ判別シ得ルニ至レハ利益ヲ見ルヲ得ルコト決シテ疑ヒナシ此干田法ニツキテ最モ疑ヒノ起リ易キハ灌溉ノ一事ニシテ一言辨シ置カサル可ラス余カ居村ハ賦ニ水ニ乏シキノ地ニシテ夏時一ヶ月以上モ降雨ナキトキハ飲用水ニサヘ欠乏ヲ告タルノ有様ナレハ此三十余町歩ノ水田ヲ干田トナスノ際ニモ之カ爲メニ旱魃ノ虞レハナキカトノ心配モナカリシニハアラスナリシカ其結果ハ却ツテ之カ反對ニ出テ水田ノ時ヨリモ旱魃ノ患少ナクナリヌ借テ开ハ何故カト云フニ干田トナストキハ稻ノ發育十分ニシテ勢ヨキヨリ少シノ旱魃ニハ更ニ其害ヲ被ラサル等最モ重ナル原因ナリト云々

○深耕ト淺耕

深耕ト淺耕トハ何レカ稻作ニ利アリヤトノ議論ハ古クヨリ地方農業者ノ間ニ熾マレル一ノ疑問ニシテ世間未タ一定ノ確説アルヲ聞カス勿論耕種ノ方法ハ植物ノ發育上種々ノ關係アルモノニシテ一概ニ是非スル能ハスト雖モ數年來ノ余カ實驗ハ兎ニ角深耕ヲ以テ余程利益ナルコトヲ示セリ播秧ノ際淺耕ナルモノハ最初ハ稻草ノ勢ヒ至ツテヨロシク緑色蒼然トシテ莖葉ノ肥大ナルコト逆モ深耕ノモノニ比スヘシモアラサレド漸ク八月九月ニ至リ稻ノ穂胎シテ花ヲ開カントスル頃ヨリシテ初ノ勢ハ何處ヘヤラ拔去リ至ツテ勢ヒ惡シク其結果ハ徒ラニ莖葉ノミ大ニシテ捻粉ノ小ナル稻把ヲ得ヘシ深耕ハ全ク之カ正反對ニシテ播秧後二三ヶ月間ハ至ツテ勢ヒ惡ルク莖葉モ小ナリト雖モ已ニ穂胎ヲナシテ開花セントスルノ際ヨリ漸ク色ヲ出スト其ニ發育前日ニ倍シテ此生育力ハ長ク刈取ノ際マテ止マラサルヲ以テ莖葉ハ至ツテ練小ナルモ捻粉ハ肥大ナルノ結果ヲ得可シ諸君幸ニ一驗セラレンコトヲ

○麥作ノ改良

麥作ノ改良モ亦稻ト同シク選種ヲ以テ第一トス併シ其選擇ノ方法ニ至
 ヲテハ米作ト少シク異ル處アリ即チ稻ニ在リテハ毎年立穂ノ間ニ一々
 之ヲ點檢シテ選擇スルヲ可ナリトセルモ麥ニ至リテハ毎年之ヲナスモ
 其効薄シトス故ニ初メ稻ト同シク其穂ノ最モ大ニシテ均一ナルモノ
 ミテ一二合丈ク選ミテ翌年之ヲ蒔ク時ハ其收穫ハ莫大トナル可シ即チ
 此收穫ヲ以テ種子トナスナリ次ニ畦ノ仕方ニ就キテハ其地勢土質氣候
 等ニ關係アルモノナレハ一概ニ是非スル能ハサレハ其地ノニヨリテ
 試驗シタル上定ムルノ外ナシ而シテ其試驗方法ハ恰モ稻株ノ試驗ト同
 シク一間ノ三畦四畦五畦ト幾ツモ之ヲ作り又播種モ一坪ニ二勺三勺四
 勺五勺ト種々ニ蒔テ各々區別シテ收穫シテ其穀質收量等ヲ試ミタル
 上最良ノ者ヲ採リテ翌年ヨリ實行スルナリ其方法ハ稻作ト敢テ異ナル
 處ナシ又麥作ニ尤モ患ヒトスルトコロ黒奴病ノ驅除法ニツキテ一言セ
 シニ木灰一斗ニ熱湯一斗五升位ノ割合ヲ以テ製シタルアクトヲ以テ種子
 ヲ浸スナリ而シテ其時間ハ凡ソ三日三夜即チ七十時間内外ヲ以テ最モ
 適當トス而シテ此浸水ハ收穫ト播種ト何レノ際ニ行ヒテ尤モ効能多キ
 ヤト云フニ余ノ試驗ノ結果ニテハ收穫ノ際ニ行ヒタルヲ以テ尤モヨシ

トス次ニ麥ノ苗植ハ頗ル利益アルモノナルカ諸君モ御存シノ通り麥ノ
 播種期ハ恰モ秋期收穫ノ際ニシテ農家ニ在リテハ年中ノ多忙期ナレハ
 稍モスレハ種下シノ期ヲ後レテ非常ノ減收ヲ見ルノ不幸ニ陥ラントス
 ルハ何地トモ殆ント免レサル處ナルカ苗植トナストキハ殆ント此等ノ
 虞ナシ實蒔ノ麥ハ十一月二十日頃マテニ苗植ハ十二月二十日頃マ
 テニ植ユル時ハ其收穫ニ影響スル處ナク而シテ其間ニハ即チ一ヶ月間
 ノ差違アルヲ以テ苗植トナストキハ繁忙ノ際不完全ナル播種ヲナスヲ
 要セサルナリ又之ヲ大根綿等ノ跡ニ植ユル時ハ一層ノ利益ト便利アル
 モノナリ而シテ其苗ノ蒔付クハ秋ノ彼岸後十日頃ニ三尺幅ノ畦ヲ作り
 土ヲ耕シテ一坪八勺ノ割合ヲ以テ播種シ底肥ノ上マキヲ以テ掩ヒ置ク
 トキハ直チニ一粒ヨリ七八本宛ノ芽ヲ發スルモノナリ之ヲ引テ植ヘキ
 ル後ノ手入ハ中打肥料等毫モ普通實蒔ノモノニ異ナルトコロナシ

○牛ハ農家ノ重寶

次ハ牛ノ話ニシテ余ハ牛ヲ以テ農家ノ最モ尊ムヘキ寶ナリト信ス故ニ
 余ハ數年前以前ヨリ牛ヲ飼養セサル人々ニハ唯ノ一步ノ地所モ決シテ預
 ケサルコトトセリ今牛ヲ飼ハサル人ニ就キテ其理由ヲ尋スルトキハ牛

ヲ養フモ收支相償ハスシテ結極損失トナルヲ以テ之ヲ養ハスト云フニ
 アリ此等ノ人々ハ底肥ヲケレハトテ敢テ金肥ヲ施スニアラス偶々山野
 ヨリ刈草ヲナシ來ルモ之レヲ其儘ニ施スヲ以テ其効能至ツテ薄ク且サ
 シ虫ノ繁殖スルコト夥タシクシテ稻ノ不作ナルハ勿論其土地ハ年ヲ
 追フテ殆セ大ニ田地ノ價值ヲ落スモノナリ故ニ牛ヲ飼養セサルモノニ
 ハ一切田地ヲ作ラシメサルコトセシニ小作人モ止ムナク之ヲ飼養スル
 ヲリ自然ト肥料モ出來稻モ豐作ニシテ隨ツテ田地モ肥ヘテ双互ノ利益
 ヲ増進スルコト誠ニ少カラサルナリ之ヨリ聊カ飼牛ト農家ノ經濟上ニ就
 イテ御話セン

余ハ飼牛カ果シテ收支相償ハサルヤ否ヤヲ確メシカ爲メ十一月一日ヨリ
 リ翌年四月末日ニ至ル滿六ヶ月間即チアマリ耕作ニ使役スルコトナク
 シテ多クハ底肥ニ起臥セシメテ飼養スル間ノ費用ヲ計算セシコトアリ今
 之ヲ御話センニ體幅ノ大小ハ素ヨリ均一ナラスト雖モ其年齒ハ悉ク六一
 歳以上ノ牛七頭ヲ養ヒシニ之カ食料ノ糞ハ一日ニ十把此重量二貫五百
 目ヲ要シ一貫目ノ價六厘トスレハ一日ノ糞代一錢五厘次ニ糠六合代價
 八厘人夫賃一頭割一錢四厘次ニ日々其底中ニ撒布スル藁乾草等ニ八百

目ヲ要ス此代價五厘余ニシテ合計一日一頭ニ要スル費用ハ四錢二厘ニ
 シテ之ヲ百八十日間ニ積算スルトキハ七圓五斗二錢余トナル可シ而シ
 テ之ヨリ得ル處ノモノハ如何ニト云フニ六ヶ月間ニ一頭ノ糞ヨリ出
 トヨロノ底肥ハ八百三十一貫六百目ニシテ之ヲ稻田ニ施ストキハ一反
 歩ニ二百貫目ヲ以テ十分ナレハ一頭ノ底肥ハ四反餘ノ肥料ニ充ツルコ
 トヲ得ヘシ而シテ余ノ試驗セシ結果ニヨレハ無肥料ニテ耕作セシ稻ハ
 一反歩ニ一斗八升七合ノ收穫アリ施肥即チ一步反ニ二百貫目ノ底肥ヲ
 施シテ耕シタルモノニハ一石九斗七升四合ノ收穫アリシヲ以テ其一反
 歩ノ差五斗八升七合ニシテ四反歩ノ差ハ一石三斗四升八合ニシテ此差
 ナルモノハ即チ七圓五十二錢余ノ費用ヲ支出シテ造リ出シタル底肥ノ
 價ナリトス故ニ米ヲ假リニ一石五圓ト見積ルモ尙一頭ニツキ三圓余ノ
 利益ヲ得ヘシ此統計ハ數字ニ小異ナキヲ保セス唯大體ニ就キテハ毫モ
 誤ル處ナシ(其他人力ヲ省キテ耕鑿ヲ助シル等ノ利益ニ至ツテハ殆ント
 枚舉ニ違アラヌ云々)

○牛飼費用及底肥代價比較

六歳以上牛飼料一日分

一 糞拾把

此量目貳貫五百目

此金壹錢五厘

壹貫目ニ付六厘

一 糠六合

此金八厘

石ニ付壹圓三十三錢三厘

一 飼夫賃金壹錢四厘

但 給米一日二升宛一人七頭飼ニシテ
壹頭分二合八勺五才米一石五圓宛

小以金三錢七厘

右ニテ百八十八日間飼料計算(自十一月至四月)

一金四圓拾四錢

壹頭分即百八十八日間飼料

內

(壹圓四十四錢
貳圓七拾錢)

糠代

一金貳圓五拾貳錢 前同上飼育者給

但一人ニ付七頭飼一日米二升ノ積尤石五圓ヲ、

一金八拾六錢四厘 駄厩ヒロケ柴草代

但一日ニ乾草柴八百目宛百八十八日間散布スル積百四十四貫目十貫

目ニ付六錢宛

小以金七圓五十貳錢四厘 他費用金高

駄厩肥代價積ヲ(百八十八日間ノ積)

一 糞四百五十貫目 一日飼料貳貫五百匁

此ヲ千八百把 但飼料

一 駄厩ヒロケ柴草百四十四貫目 同一日八百目宛

五百九十四貫目

此駄厩肥八百三十一貫六百目

此代金八圓四十八錢貳厘 十貫目ニ付拾錢貳厘

但澤野農學士ノ他價也

內

金七圓五拾貳錢四厘 前ニ記載有之飼料費

差引九十五錢八厘

所得

●地主ト小作人トノ關係ニ就キテ

田中房太郎

今ヤ百業日進ノ世ニ當レリ農業モ亦益々改良シテ利益ヲ加ヘサルヘカ
ラス之レヲ圖シニハ先ツ資本ヲ有シテ且ツ多クノ田畑ヲ所持スルモノ
ヨリ始メザル可ラス如此キ人ハ即チ地主ナレハ地主諸士ハ我國ノ農業
ヲ改進スヘキ率先者ト謂フヘシ故ニ平常之ヲ覺悟シテ能ク耕作ノ道ニ

注意シ又農學ノ一班ヲ學ヒテ漸次ニ改良ノ途ニ就カサルヘカラス故ニ
夙ニ佐藤氏發起トナリ出雲地主農談會ヲ開設セラル、ニ至レリ予ハ茲
ニ縣下地主ト小作人トノ關係ニ就キ先年農商課ニ於テ調査シタルモノ
借覽摘要シテ諸君ノ參考ニ供ス

農報第一號

(能義郡) 地主カ小作ニ付スルハ郵重ノ取扱ヲナスモノハ小作人ヨシテ
證文ヲ入レシムルアレハ大概地主ヨリ小作人ニ向テ掛米狀ヲ渡スカ若
クハ口約束ニ止ムルノ慣例ニシテ互ニ德義ヲ重ンシ紛争ヲ生スルコトナ
シ但意外不作ノ年ニ逢ヒ立見當毛引ヲ地主ニ乞フタル時地主其乞ヲ許
サ、ル場合ニ於テ往々紛争ヲ起スコトアレハ概テ多少ノ負引ヲナシテ止
ム只平常ニ在テ小作料不納勝ナルトキハ土地ヲ引揚タルコトアリ
本郡ハ概シテ小作料多キニ居リ動モスレハ立見當毛引ヲ乞フニ至ル然
レトモ極不作ナラサルヨリハ容易ニ負引ヲ與ヘス地主ノ所爲不當ナル
ヲ往々聞クコトアリ

(島根、秋鹿、意宇郡) 二者ノ關係ハ古來德義ヲ重シ會テ紛争ヲ生セシ事ナ
シ故ニ地主小作間耕地貸借ニモ小作人ヨリ小作證ヲ差入ル、トイフコ
トモ概シテナク却テ地主ヨリ掛狀ヲ毎年舊正月十一日ニ掛定ト稱シテ小
作人ニ渡スノ習慣アリ而シテ小作人ニ於テ小作料未納セサル限リハ狹
リニ掛替ヲナスコトナシ

農報第一號

(仁多郡) (二) 二者ノ關係ハ古來德義ヲ重ンシ會テ紛争ヲ生セシコトナシ故
ニ口約ノミニシテ規約書ノ授受ナカリシカ近來人情狡猾ニ進ムヲ以テ
小作人ヨリ證書ヲ假シ受人ヲ立シムルニ至レリ然レハ尙未タ甚タ小數
ナリトス小作人若シ怠納タルハ其地ヲ引上クルモ未タ曾テ訴訟ヲ起
セシコトナク小作人ニ於テモ作毛ヲ抵當トシテ金穀ヲ借入スルカ如キ事
ナキハ古來習慣ノ徳ト云フヘシ
(二) 地主ハ土地ノ管理ニ注意セス規約ヲ結フモ只小作料ノ定額納期及ヒ
怠納ノ際受人ヨリ辨償スヘキコトヲ約スルノミニシテ耕耨肥培作物等ノ
農法ハ小作人ニ放任シテ會テ關涉スルコトナシ
(三) 往年ハ小作料低廉ナリシカ近時地主ハ漸ク掛上ケヲナスモノ多シ而
シテ大地主從來ノ繼續小作ハ尙舊法ヲ因襲シ敢テ異動セサルモノアリ
舊時小作料ノ算出法種量ヲ標準トセシカ方今ハ專ラ反別ヲ用フ處シテ
其小作料ハ全收量十分ノ三ニ該當ス而シテ凶荒ニ罹ルキハ立見ト稱シ
實地臨檢シ其現況ニヨリ幾分ヲ増減ス之ヲ「スタラ」ト稱セリ若シ二者ノ

間立見ヲ異ニスルハ作毛中麻ノ場所ニ就キ坪刈ヲナシ全收量ヲ積算シ「スタリ」ノ率ヲ定ム又水損崩潰等ニヨリ欠損アルハ其地積ニ應シテ減額シ餽饒甚シキ時ハ稻分ト稱シ刈稻束數ヲ以テ二ト三者クハ五ト五ノ比例ヲ以テ分取スルヲアリ

(四)種子ハ小作委員ノ當初地主ヨリ相當ノ料ヲ貸與シ解止ノ時返還スルヲ法トス但シ畑小作ニハ種子ヲ給セス

(五)地主ヨリ肥料ノ手當トシテ耕地一反歩ニ付草山三反乃至四反歩ヲ貸與ス

六)用水井手作道畦畔ノ修繕ハ悉皆地主ノ負擔トナス所アリ又人夫二人以上若クハ五人以上ヲ要スル修繕ハ地主ヨリ辨償シ其以下小破修繕ハ小作人ノ義務トスル所アリ

(七)小作ニ二種アリ曰ク株小作振掛小作是ナリ株小作トハ一家ノ耕作地ハ悉皆一地主ヨリ掛渡スモノヲ云ヒ振掛小作トハ一ヶ所若クハ二三ヶ所ヲ、掛渡スモノヲ云フ株小作ニハ耕牛一頭糞一ヶ糞桶二ヶ確一ヶ若クハ操水一ヶ所宅地及ヒ居家一棟小屋一棟ヲ貸與シ其修繕モ亦地主ヨリ之ヲナス所アリ又建物屋根修繕ハ地主ヨリ補助シ其他ノ修繕ハ小作

人ノ自辨トスル處アリ又家屋ノ屋根修繕ハ草山ニシテ薪料ナキ所ハ別ニ薪山ヲ附貸スルヲ常トス以上ノ事實ニヨリ地主ニ於テハ振掛小作ニ利益多シトス然レハ大地主譜代ノ株小作ニ至テハ地主威令ノ行ハル、
「猶ホ藩主ノ家臣ニ於ケルカ如ク小作ノ地主ニ對スル最モ尊重ヲ加ヘ嚴然トシ君臣ノ風ヲ存ス

(大原郡) (二)二者ノ關係ハ古來德義ヲ重シ會テ紛爭ヲ生セシコトナシ其約諾ハ掛開キト稱ヒ陰曆正月十一日ヲ期シ小作人ノ衣服ヲ改メ地主ノ居宅ニ就キ地主ニ對シ懇懇ニ曰ク今日ハ結構ナル作日ナリ猶從來ノ如ク作ラシメラレヨト地主答テ曰ク然リ相變ラス頼ムト茲ニ於テ地主ハ酒肴ヲ供シ小作人ニ愉快ヲ與ヘ以テ約了リシモノト爲ス又當初地主ヨリ小作人ヘ掛狀ナルモノヲ渡ス例アリ其主題タルヤ字某田畑若干ヲ掛渡ス然ル上ハ耕耘施肥除草培養等懇切ニ怠ル可カラス而シテ掛米ハ陰曆十一月廿日限精良ノ現米ヲ以テ納ムヘシ尙地所ニ増減異動無キ限リハ幾年モ改メス此掛狀ヲ以テ効トス而シテ之ニ對シ小作人ヨリ地主ニ證書ヲ差入ル、ノ例無カリシカ近年偶々受人連署ノ證書ヲ徴スルモノアルモ甚タ少數ナリ小作人怠納スルキハ其地ヲ引上クル未ダ會テ訴訟

號一第報農

ヲ起セシメテ小作人ニ於テ作毛ヲ抵當トシ金穀ヲ借入スルカ如キ事
 ナレ(二)約諾ノ掛米ヲ減額スルノ方法ニ二アリ其一ハ累年地味ノ衰ヒタ
 ルモノニ向テ春引ト稱シ所謂正月十一日掛開キノ際一カ年或ハ數ヶ年
 其期限ヲ定メ一反乃至三反等ヲ減額(一)反歩ニ付一斗ヲ一反ト稱ス(其
 二ハ凶荒ニ罹ルトキ立見ト稱ヒ實地臨檢シ其現況ニヨリ幾分ヲ減額ス
 若シ地主小作人ノ間立見ヲ異ニスルトキハ作毛中庸ノ場所ニ就キ坪刈
 ナレ全收量ヲ積算シテ減額ノ率ヲ定ム又水損崩潰等ニ至リ欠損アル
 トキハ其地積ニ應シテ減額スルノ慣行ナリ
 (三)畑作ノ風水旱蟲害等ニ係ルトキハ其年末一村毎ニ頭分ノ協議ヲ以テ
 歩合ヲ定メ惣掛米ノ一割乃至三割ヲ減却ス其他ノ一ハ仁多郡ニ同シ
 (飯石郡)二者ノ間ハ概シテ德義ヲ重シ折合惡シカラス小作米ノ如キ
 モ多クハ口約束ニ成リ立證書ヲ欲スルハ與飯石南部地方ニ限リ殊ニ近
 年ニ始マレリ掛米ハ地方ニ依リ懸隔著シク三刀屋近邊ノ如キ膏腴ノ地
 ニ在テハ其收穫一反歩ニ多キハ二十五少ナキモ十一二ニ下ラス爾ルニ
 掛米ハ毎ニ收穫ノ七八分以上ヲ充テサルヲ得キルヲ以テ小作人ノ所得
 ハ僅ニ一步内外ニ過キス與飯石地方ハ一反歩收穫平均十二内外ニシテ

號一第報農

小作米ハ六歩小作人所得ハ四歩ノ割合ニシテ偶々折半ニ至ルモノナキ
 ニアラヌ
 與飯石地方ニ小作證書ヲ徵スルニ至リシ起因ヲ尋スルニ明治十五年中
 赤名村大字上赤名小作人某惡意ヲ播キ突然掛米ヲ地主ニ納メス促問數
 回終ニ法庭ヘ持出シタルモ證據ノ據ルヘキナキヲ以テ原告ノ敗訴ニ皈
 シタリ然ル後引續キ安濃郡佐比賣村大字多根和田リ(年齡七十餘歲)ナ
 ル者該地方ニ入來シ小作人ヲ煽動シ稍不穩ノ舉動ニ至ラントセシモ其
 目的ヲ全フセスシテ去レリ然ルニ此機ニ際會シ所謂三百代言各地ニ生
 出シ前者ノ隣ヲ逐フ者多ク一例ヲ掲クレハ甲家小作人ノ家ニ至リ米俵
 ノ現在ヲ見俄カニ一計ヲ案出シ徐ロニ問フニ證書ノ有無ヲ以テシ若シ
 ナシト答ヘンカ即チ告テ曰ク此米當分地主ニ納入ニ及ハス左スレハ地
 主ニ談判シテ子ノ所得數俵ヲ加増セシメント小作人ノ諾答ヲ得更ニ地主
 ニ到リ告タルニ小作人某證書ナキヲ口實トシ掛米ヲナサ、ル胸算ナル
 旨ヲ以テス地主驚キ措置ヲ是ニ依頼スレハ即チ過分ノ手数料ヲ確收シ
 相互示談ヲ遂ケタル如ク取成シ幾分小作人ノ所得ヲ増サシメ局ヲ告ク
 ルカ如シ此類点々是アリ爲メニ小作人ヲ誑惑セシム蓋シ僅少ニアラス

號一第報農

爾後勤勉貯蓄ノ誘導ニ際シ村々規約ヲ結ヒ凡テ證書ヲ繳スル事ニ定メ
タリ然レモ其實今尙ホ舊慣ニ安ンシ之ヲ徹セサルモノ多シ
證書ハ掛作ノ期限ヲ定ムルモノアリ否ラサルモノアリ定期限ノ内又毎
年限リト數年間ヲ期スルトノ二種アリ其地所掛リ受證式ハ左ノ如シ
地所掛リ受證

一田反別何町何反步

此掛米高若干

右ハ明治何年ヨリ前書ノ地所掛受申候處實正ナリ然ル上ハ掛米ノ義ハ
毎年十一月廿日切速ニ相納可申候若シ其節期限ニ相納不申候節ハ受人
ハ引受責成へ速ニ皆済可仕候爲後日印紙貼用掛受書一札相渡シ置如件
年號月日

何村大字何

地所掛リ主 何

某印

同村大字何

受人 何

某印

何村大字何

號一第報農

何 某 殿

畑宅地建物及山林掛受證文

何村何番字何々

一田反別何反何畝步

(以下例ニ依リ一筆毎ニ列記ス)

合

田反別何反何畝步

畑反別何畝步

宅地反別何畝步

山林反別何町何反步

建物何棟

此種物何石何斗何升

此掛米何石何斗何升

但四斗入一籠トシテ何十何俵何斗何升青米粉交リ等無之精米ヲ
以毎年十月三十一日限リ計リ入上納可仕候

右ノ畑宅地其他建物山林ハ何屋(名稱)小作シテ該地ニ付屬セル物品ハ

左ノ如シ

牛壹頭 此代金何拾圓ヲ以當方へ引受作付差支無之様可仕候
稻架道具一切 俚長何間ノモノニシテ松材何十本

右ハ今般前記ノ掛米ヲ以掛受申處實正也爾ル上ハ但書ノ通り毎年期月
限日無相違計リ入止納可仕掛リ受中田畑出精ハ勿論肥料等充分施之決
シテ粗漉ナル取扱不仕候勿論山林等ニ至リテハ平素之レカ注意ヲ爲シ
盜伐等ニ罹ラサル様保護可仕候而シテ期日ニ至リ收納スヘキ米穀不納
或ハ不足等仕候節ハ保證人へ引受本人ノ資格トナリ速ニ辨納皆濟可仕
候勿論地所御入用ノ節ハ其年十二月迄ニ御沙汰被下候得ハ速ニ返上及
種別トモ返還可仕候素ヨリ該掛リ米ノ義ハ年ノ豊凶ニ拘ハラヌシテ定
メタルモノト雖ハ平年ヨリ三步以上ノ不作ト認メタルハ收入前檢見
ヲ乞へ其上ニテ繰入可致候自然繰入ノ後不作ナルヲ訴へ出タルモ前無
断ニシテ繰入候儀ナレハ引方申上間敷候ノ定約ニ相違無之尙ホ又掛リ
受人ニ不慮ノ義有之貴殿へ損耗等相掛候節ハ保證人へ負擔決シテ御迷
或相懸申間敷候仍テ小作掛リ受證如件

年號月日

何郡何村何番屋敷

小作掛受人

何

某印

何郡何村何番屋敷

保證人

何

某印

地主

何某殿

(出雲、神門、備前) (二)二者ノ關係ハ古來徳義ヲ重シ會テ紛争ヲ生スルナ
レ是ヲ以テ耕地貸借ノ際ニモ小作人ヨリ小作人證ヲ地主ニ差入ルト云
フ事モナク却テ地主ヨリ段別及斗代ヲ記シタル一年切掛狀ヲ毎年舊正
月十一日掛定トテ小作人ニ渡スノ慣習アリ尤モ掛狀ハ一年切契約ナリ
レモ小作料未納セサル限リハ獲リニ掛替ヲナサ、ルヲ以テ掛狀ハ總テ
初回分ヲ幾年間モ費用セリ
(三)斗代ハ舊治時代ノ如ク尙ホ六尺三寸竿一反歩ニ付ノ算出ニシテ田畑
共米ヲ以テ何石何斗何升ト定ムルヲ普通トスト雖モ山村落及海濱諸村
ノ畑地多キハ大豆若クハ麥ヲ以テ斗代ヲ定ムルアリ然ルニ其斗代ニ京
掛掛ト初掛掛(初掛ハ京掛ヨリ一割一步多量ノモノ)ノニアリ京掛掛ハ一

農報第一號

反歩何石何斗ノ量切ナリシモ粉糶量ハ何石何斗ノ掛斗代ヲ一割一步延米ニシ且此外ニ一石ニ付米五升乃至三升ノ足子若クハ口米ト唱ヒ増米スルノ慣アリ足子口米トハ藩政納米ノ納米人所在地ヨリ藩ノ府庫ニ至ル間ノ雜費ニ該當セシモノヲ費用スルモノナリト云フ

(三) 糯米ハ地主ヨリ小作ニ與フル地方ト與ヘサルモノトアリ其與フルモノハ一反ニ付米二升五合乃至五六升トス

(四) 湖河畔水害地及山間乾水ノ恐アリ豫メ見定カタキ場所ノ如キハ斗代ヲ定メス見立ト唱ヒ肥料種米ヲ地主ヨリ支辨シ秋收ノ時立合小作米ヲ定ムルモノアリ

(五) 非常凶年若クハ米價騰貴シテ小作人生活上困難ヲ告クルノ際ハ耕作地一反ニ若干米(地主ニ於テ各自ノ見込ニヨルヲ以テ一定シ難シト雖モ一斗乃至二斗餘)ヲ地主ヨリ無利息小作人ニ貸與シ翌年ノ收穫ヲ以テ返納セシメ一時饑ヲ救フノ慣行稀レニコレアルヲ見ル

(六) 六月下旬七月頃氣候不順爲メニ害虫(浮蠶子ナリ)發生スルアルハ地主ハ油入ト唱ヒ段油二合若クハ河豚油若干ヲ與ヘテ驅除セシムルヲ常トス

農報第一號

(七) 藩治貢米ノ制行ハレ米質品位ノ吟味嚴密ナリシ時ニ當テハ地主ハ豫テ小作人ニ注意シ早中晚稻等ノ如キ品質良好ノ者ノヨリ耕作セシメシカ貢米ノ制廢スルト同時ニ其慣例自ラ弛シ今ハ晚稻ノ收穫多キ者ヲ專ラ播種スルニ至レリ

(通廉郡) (二) 明治十四年頃ヨリ同十七年頃迄隣郡安漢郡ニ於テ小作人ノ紛議アリシカ爲其餘藩本郡ニ波及セントセシモ幸ニ未發ニシテ止ミ二者ノ間古來德義ヲ重シ紛争ヲ生セシコトナシ舊幕中ノ畑石ト盛石一反歩二斗餘乃至一石ニシテ一石ニ對スル公租ハ判銀八匁目今ノ金ニ換算シテ凡拾貳錢トナル此時ニ當リテ上畑一反歩凡六拾錢位ノ小作料ナリシモ慶長ノ頃長州ノ支配タリシ時一倍四割増トナリ隨テ小作料モ増加シ改租後ハ石盛一石位ノ所地價凡三拾八圓トナリ此八掛金三圓四錢ノ小作料トナリ殆ント五倍以上トナレリ如斯漸ヲ以テ増加シタルニ依リ甚シキ苦情ナカリシモ或ル地方ノ如キハ改租ノ際小作人ハ地主ニ對シテ苦情ヲ訴ヘタレトモ此事タル元來地主ノ負擔増加ニ原因スルヲ以テ時ノ官吏及ヒ地主ハ改租ノ趣旨ヲ懇説シテ履行セシムルヲ得爾後更ニ苦情ナシ

號一第報農

(二)田租ハ舊幕時代ニ比シ減少シタレトモ其額僅々ニシテ小作料ハ概シテ以前ノ儘ニ繼續シ來リテ異動ナシト雖モ地方ニ依リ若クハ人ニ依テ改租又ハ地押調査ノ際幾分ノ増額ヲ爲シタルモノアリ

(三)畑ノ小作料ハ從來金ヲ以テシ穀物ヲ以テスルモノ乏シク一部分ノミ麥ヲ以テ收納セリ

(四)郡ノ西部各村ハ概シテ小作人ノ家屋ハ地主ノ建築ニ係リ隨テ其所有權ハ地主之レヲ占ム而シテ其家屋ハ捨モ耕地ノ附屬物タルノ意様ニシテ地所ヲ賣買スル時ハ其家屋モ共ニ之ヲ買受人ノ所有ニ歸スルノ例ナリ又或ル部分ノ如キハ田地ヲ小作掛ト爲ス時ハ家屋ノ外畑若干山木山若干ヲ付シテ渡スノ慣行ニシテ今尙ホ現存シ賣買ニ際シテハ田畑山林宅地ノ揃フタル者ニアラサレハ充分ノ價值ヲ得ヘカラサルカ如シ田地ノ多ク其附屬スル者ヲ大屋敷ト云ヒ其少キ者ヲ小屋敷ト稱セリ又或ル地方ハ耕牛ヲ購求シテ小作人ニ貸付タルコトナリシモ近來漸ク價額騰貴スルニ隨ヒ是等ノ事ヲナス者寔ニ稀ナリ然レトモ牛代トシテ若干ノ金員ヲ貸付タルノ慣習ハ今尙行ハル

(五)郡ノ西部各村ハ概シテ地主ト小作人トノ間ハ殆ント藩主ノ其臣ニ於ケ

號一第報農

ルト一般ノ有様ニシテ其間ノ懸隔遠ク束縛モ亦甚シトス今其一二例ヲ舉クレハ小作料ノ未進アルトキハ其土地ヲ引揚ケ之ヲ他ノ小作人ニ付スルヲ得ルハ勿論地主ハ本人及ヒ受人ニ對シテ督促シ本人ノ財産ヲ盡シテ勘定セシメ甚シキハ地主隨意ニ小作人ノ家財ヲ賣拂フノ特權ヲ有スルノ地方アリ又地主ニ事アリテ小作人ヲ雇ヒ入ル、時ハ小作人ハ男女ト其多少ニ拘ハラス必ス其命ニ服從セサルヲ得ス又地主ニ依リテハ家屋賃ト稱シテ毎月若干多キ時ハ十二人ヲ人夫ヲ無賃賄ハ地主之ヲ辨求ニヨリ賄ヲ爲サスシテニテ使役スルモノアリ其他地主ハ小作人ヲ呼立米ヲ給スルコトアリ捨トシテ或ハ下駄ヲ穿ナテ家庭ニ入ルヲ許サ、ル等ノ風習アリ近來漸ク其風ヲ改メントスルノ傾アレトモ其大體ニ至ツテハ依然トシテ尙其餘習ヲ存セリ

(六)小作證文ハ從來之ヲ授受シテ其約束ヲ鞏固ニスルモノアリ或ハ然ラサルモノアリテ一定ナラス年期ハ概シテ三年乃至五年ナレトモ年期ハ實際有名無實ニ屬スル者多ク違エハ永小作トナレリ

(七)作柄十分ナラスシテ約束ノ小作料ヲ納メ難キ年ニハ小作人ハ地主ニ踏査ヲ請フテ減量ヲ求ム此時若シ地主ト小作人トノ間ニ於テ收穫量ノ

見込ヲ異ニシ協議ノ關ハナル場合ニ於テハ地主ハ之ヲ刈リ採リ四分ノ一乃至六分ノ一ヲ小作人ノ與フルノ慣行ニシテ之ヲ刈作法ト稱ス是レ即氣候ノ不順等天然ヨリ來タル凶作ノ時ニ於テ施スノ方法ニシテ若シ作人ノ怠惰不注意等ニ原因シテ定額ノ小作料ヲ納メ難ク双方ノ見込ヲ異ニスルハ夫食ト稱シテ一反歩ニ要スル種子量ニ應シテ一反歩一斗苗ハ玄米一玄米ヲ給ス既ニ刈作法ヲ行フハ其土地ヲ引揚クルヲ常トス

(八)地主ノ都合ニヨリ地所ヲ引揚ケントスル時又ハ小作人轉任等ニテ掛受地ヲ返サントスル時ハ六月末日迄ニ申込ムノ慣行ニシテ獲リニ引揚ケ又ハ返スヲ得ス

(九)毎年々頭ニハ地主小作人ヲ自宅ニ招キテ充分ニ飲食セシム此時小作料ヲ未納スル者ハ上座ニ着カレメスシテ末席ニ列セシムルモノアリ又平素農業ニ精勵シテ小作料ヲ嚴重ニ納ムル者ニハ插秧前作付貸ト稱シテ食料ヲ貸與シ若クハ六月頃次年ノ肥料ニ供スル柴草刈採ノ期ニ於テ三升乃至五升ヲ給與スルモノアリ是レ皆獎勵ノ一端トナスモノナリ

(十)地主ト小作人トノ所得ノ割合ハ地味ニ依リ一定ナラスト雖モ概テ上地ハ地主七分小作人三分中地ハ地主六分小作人四分下地ハ地主五分小

作入五分ナリトス

(十二)小作証書ニ記スヘキ要領ハ左ノ如シ

- 一 田圃反別若干耕作スルコト
- 一 田方附屬ノ肥草山保護ノコト
- 一 小作借家ヲ保存スルコト
- 一 小作米ハ毎年十二月廿日畑掛金ハ翌年二月廿八日限り完納ノ事
- 一 種籽若干貸與ノコト
- 一 小作掛渡年季ノコト
- 一 居宅納屋無料貸與ノコト
- 一 凶作ノ年ハ地主小作人立會稍檢見ノ上定期米ヲ減スルコト
- 一 耕種ニ志ラサルコト
- 一 保証人連署ノコト
- 一 小作米金不納ノ時ハ保証人引受辨償ノコト
- 一 地主ニ於テ地所必要ナルハ及小作人違約等場合ニ於テハ年季ニ拘ハラズ掛渡地返還ノコト
- 一 建物其他貸渡物品鄭重ニ取扱フコト

一 小作地運送ノ節ハ建物破損個所修補ノ上返還ノ一
 一 田圃小作米金並口米納額ノ一
 (十二) 田圃ヲ賣却スルルキハ其旨ヲ小作人ニ談シ解約スル者多シ前小作人
 フシテ更ニ其地所ヲ耕作セシムルト否トハ新地主ノ意見ニアリトス(未完)

● 耕地區劃改正ニ付テ

我帝國農業地ノ狀態如何ヲ查察スルニ明治廿年五月ノ調査ニ依レハ山
 間溪畔ヲ除キ平畑ノ場所ノ一ニ於ケル全國田地ノ平均面積ハ一段三畝
 一步最廣三段三畝二拾四步最狹一步ニ過キス又明治廿一年ノ調査ニ依
 レハ一筆ニ對スル平均面積田ハ六畝〇二步畑ハ五畝二十一步ニシテ實
 際ハ一筆中猶ホ數區畫ニ分割セルモノ多シ又同調査ニ依レハ全國平均
 田一段歩以上ノ區畫ハ二割一分一段歩以下五畝歩以上ハ二割六分五畝
 歩以下ハ五割三分即チ過半ナリトシ畑ハ二段以上八分一段以上一割八
 分一段以下七割四分即チ四分ノ三ナリトス以テ我田畑ノ區畫甚タ細少
 ナルヲ察知スヘシ
 加之田地ハ每區畦畔ヲ繞セリ其畦畔ノ幅員タル全國最廣三尺五寸最狹
 一尺一寸平均二尺一寸ナリ又以テ地積ヲ察フノ大ナルヲ察知スヘシ

農報第一號

之ヲ要スルニ本邦ニ於テ土地整理ヲ實行スルトキハ關係農家ハ少クモ
 左ノ十大利益ヲ享受スルヲ得ヘシ(此利益ハ田畑ニ通スルモノアリ又田
 地ノミニ關スルモノアリ)

- (一) 畦畔幅徑ノ員數ヲ削減シ及ヒ此際不毛地ノ地積ヲ増加ス
- (二) 地積ヲ増加シ地積目ヲ一新スルモ三十年内地價擡置ノ恩典ヲ蒙ル
- (三) 區畫廣潤正形トナルカ故ニ播種耕耘及牛馬耕ニ便利ナリ
- (四) 迂曲ノ細徑ヲ省キ縱橫ノ濶路ヲ開キテ田圃ノ往來農車馬ノ出入農具
 肥料收穫物等ノ運搬ヲ自由快速ニス
- (五) 溝渠ヲ改造シテ灌水排水ニ便利ヲ與ヘ以テ用水量ヲ減シ灌排ノ時機
 ヲ誤ラナラシメ濕田ヲ乾田ニ變シ一毛地ヲ二毛地ト爲ス
- (六) 遺跡畦畔溝渠ヲ堅固直線トシテ其間敷ヲ省キ又平素出入ノ時間及毎
 年修繕ノ手數ヲ減ス
- (七) 適宜土地ヲ分合シテ所有地ノ散在スルコトナカラシメ以テ土地改良
 ヲ行ヒ易カラシメ各所往來ノ勞費ヲ減シ人夫ノ監督蟲害ノ驅除ヲ容
 易ニス
- (八) 地價ヲ騰貴シ融通賣買ニ利益多カラシム

農報第一號

農報第一號

(九)小作人ニ満足ヲ與ヘ以テ小作料ノ息納ナカラシム

(十)境界論水論ヲ絶テ丈量製圖ヲ容易ニス

土地整理ノ事業タル工費ノ多寡ニ依リ五個年乃至七個年間ハ現地價ニ据置キ其滿期ノ翌年ヨリ増租スルコトニナサハ人民爭フテ之ヲ實行スルニ至ルヘキハ信シテ疑ハサルナリ茲ニ大藏省ハ石川縣廳ノ伺ニ對シ五個年以内其實況ニ從ヒ現地價ニ据置ノ備特別ヲ以テ總許スト指令セリ此特許ニ接スルヤ石川縣知事ハ左ノ縣令ヲ發セリ

一 耕耘ノ便利ヲ計ラシメ爲メ耕地區畫ヲ大ニシ畦畔溝渠作道ヲ改築修成セントスル者ハ其改正ニ因テ反別ヲ増加シ又ハ變換ヲ生スルモ事業ノ實況ニ應シ五個年以内地價據置年期ヲ付與スヘキニ付其改正目論見製圖ヲ添付別紙書式ニ依リ願出ツヘシ

今試ニ全國ノ田地ヲ以テ推算センニ假リニ全國田地ノ整理レ得ヘキモノ三割五分トシ増歩ヲ生スルコト百分ノ五法定價平均一反步四拾圓ト見做シテ計算スルトキハ其得數左ノ如シ

全國田地(廿三年間) 二七、五二〇、七三六
此三割五分 九、六三二、二五八

此百分ノ五

四八一、六一三

此地價

一九、二六四、五二〇

此租額

四八一、六一三

農報第一號

蓋シ耕地ハ其地價大ニ田地ニ下リ加フルニ田地ノ如ク整理ヨリ生スル所ノ増歩多カラサルカ故ニ之カ整理ノ結果ハ田地ノ如ク利益ノ極メテ多キヲ期スヘカラス然レハ茲ニ右田地ノ概算ヲ以テスルモ耕地面積ノ増加スルコト四萬八千六百六十一町三反此地價千九百貳拾六萬四千五百貳拾圓此租額四拾八萬壹千六百拾三圓ノ多キニ達ス又右ノ増地ヨリ生スル毎年收穫上ノ利益ハ米穀一反壹石五斗ノ收穫トシ七十二萬二千四百二十石米價一石六圓トシテ四百三十三萬四千五百二拾圓トナル地區整理ヨリ生スル利益十個條中唯一個ノ利益ニ就テ論スルモ尙斯ノ如シ

明治二十二年十一月法律第三十號改正地租條例第十六條ニ左ノ如ク制定セリ

耕地ノ區畫若シクハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞力ヲ要スルモノハ本條例第三項ニ準シ三十年以内ノ地

農報第一號

價揚量年期ヲ許可スルコトアルヘシ
 又土地整理ヲ行フ者ノ一ノ記應スヘキ制定アリ此制定ニ據ルトキハ自
 然増歩ヲ生スルニ利益多カルヘシ乃チ明治二十三年七月二十一日勅令
 第三百三十五號官有地特別處分規則第三條ニ曰ク府縣郡市町村又ハ公共
 組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直
 接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上ニ必要ノモノヲ除ク外之レヲ其費
 用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂
 ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス
 土地整理事業ハ左ノ標準ニ依リ執行スルモノトス
 (一)着手前現狀地圖ト整理豫定地圖トヲ製シ事務所ニ備フルコト
 (二)耕地一區劃ヲ一反歩以上トシ每區五畝歩以下ノ端數ヲ有セサル様爲
 スコト
 (三)耕地每區ノ形狀ハ方形又ハ長方形ト爲スコト
 (四)耕地ノ一方ハ必ラズ道路ニ沿接セシムルコト
 (五)田地ノ一方ハ灌水渠ニ他ノ一方ハ排水渠ニ沿接セシムルコト
 (六)道路ノ幅員ハ本道何尺支道何尺ト定ムルコト
 (七)灌水渠ノ幅深本支何尺排水渠ノ幅深本支何尺ト定ムルコト
 (八)畦畔ノ幅員ハ何尺ト定ムルコト
 (九)區畫廢合ノ際耕地ノ高低ヲ平均スルニハ一旦表土ヲ掘リ除ケ高所ノ
 ノ土ヲ低所ニ田舟ニテ轉送シ更ニ表土ヲ平均スルコト
 (十)在來ノ畦畔江敷ハ現狀ノ儘丈量シ其持主地面ヘ繰込ムコト
 (十一)増歩ハ地面ヲ以テ又ハ入札拂ノ上其收入金ヲ以テ整理費負担額ニ
 應シ割當ルコト
 (十二)整理終了後ハ直ニ地所ヲ配當ス成ハ爾後何年間共有地ト爲シ地味
 審査ノ上配當スルコト
 (十三)地所ノ配當ハ舊所有ノ面積ニ割當増歩ヲ加ヘタルモノヲ以テスル
 コト
 (十四)土地交換即チ分合ハ成ルヘク地位同等ノ備所ニ於テ行フト雖モ若
 シ不問ノ場合ニ於テスルハ地味評價ノ上舊所有ノ面積ニ等シカラ
 ナル地所ヲ配當スルヲアルヘキコト
 (十五)地所ハ成ルヘク各地主ノ居宅ニ接近シタルモノヲ配當スル様注意
 スルコト

農報第一號

價揚量年期ヲ許可スルコトアルヘシ
 又土地整理ヲ行フ者ノ一ノ記應スヘキ制定アリ此制定ニ據ルトキハ自
 然増歩ヲ生スルニ利益多カルヘシ乃チ明治二十三年七月二十一日勅令
 第三百三十五號官有地特別處分規則第三條ニ曰ク府縣郡市町村又ハ公共
 組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直
 接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上ニ必要ノモノヲ除ク外之レヲ其費
 用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂
 ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス
 土地整理事業ハ左ノ標準ニ依リ執行スルモノトス
 (一)着手前現狀地圖ト整理豫定地圖トヲ製シ事務所ニ備フルコト
 (二)耕地一區劃ヲ一反歩以上トシ每區五畝歩以下ノ端數ヲ有セサル様爲
 スコト
 (三)耕地每區ノ形狀ハ方形又ハ長方形ト爲スコト
 (四)耕地ノ一方ハ必ラズ道路ニ沿接セシムルコト
 (五)田地ノ一方ハ灌水渠ニ他ノ一方ハ排水渠ニ沿接セシムルコト
 (六)道路ノ幅員ハ本道何尺支道何尺ト定ムルコト
 (七)灌水渠ノ幅深本支何尺排水渠ノ幅深本支何尺ト定ムルコト
 (八)畦畔ノ幅員ハ何尺ト定ムルコト
 (九)區畫廢合ノ際耕地ノ高低ヲ平均スルニハ一旦表土ヲ掘リ除ケ高所ノ
 ノ土ヲ低所ニ田舟ニテ轉送シ更ニ表土ヲ平均スルコト
 (十)在來ノ畦畔江敷ハ現狀ノ儘丈量シ其持主地面ヘ繰込ムコト
 (十一)増歩ハ地面ヲ以テ又ハ入札拂ノ上其收入金ヲ以テ整理費負担額ニ
 應シ割當ルコト
 (十二)整理終了後ハ直ニ地所ヲ配當ス成ハ爾後何年間共有地ト爲シ地味
 審査ノ上配當スルコト
 (十三)地所ノ配當ハ舊所有ノ面積ニ割當増歩ヲ加ヘタルモノヲ以テスル
 コト
 (十四)土地交換即チ分合ハ成ルヘク地位同等ノ備所ニ於テ行フト雖モ若
 シ不問ノ場合ニ於テスルハ地味評價ノ上舊所有ノ面積ニ等シカラ
 ナル地所ヲ配當スルヲアルヘキコト
 (十五)地所ハ成ルヘク各地主ノ居宅ニ接近シタルモノヲ配當スル様注意
 スルコト

(十六) 正事ハ特ニ熟練者ヲ要スルモノヲ專門者ニ受負ハシムヘシト雖普
通ノ仕事ハ各地主ノ出働ヲ許ルシテ賃錢ヲ給與シ若クハ入費ヲ扣除
シ以テ負担ヲ輕カラシムルコト

(十七) 整理費ハ各地主舊來所有ノ面積若クハ地價ニ應シテ課スルコト
(十八) 本事業ハ成ルヘク農閑ニ施行シ田地ハ秋奉ノ間ニ於テスルコト
右ノ標準ニヨリ整地ノ費用ハ平均一反歩三十人ヲ要シ一人拾五錢給ト
見做シテ四圓五拾錢ナリト云フ

右地劃改正ノ參考トシ石川縣石川郡ニ於テ兼農高多久兵衛ナル人ノ主
唱シテ進行セシ處ノ地區改正ノ結果ヲ記サシニ田畑合舊田別六拾町壹
反八畝拾貳步ヲ改良ノ新段別六拾貳町八反七畝壹步トナリ差引増反別
貳町六段八畝拾九步ヲ得其筆數舊貳千五百卅壹筆ハ新筆數壹千五百七
十貳筆トナリ差引九百五拾九筆ヲ減セリ而シテ其改良事業ニ係ル總費用
ハ金八百壹圓八拾五錢ヲ要セシモ此費用ノ消却ニ見合ス可キ増段別貳
町六段八畝九步ニ便リシ地價ヲ附スルモノト計算スレハ實ニ壹千六百
餘圓ヲ得タリト云フ其得失想フ可キナリ就中石川郡金石町ノ改良地
ノ難キハ其改正區舊實ニ整然タリ然シテ其改良地々主ト小作間ノ感情

如何ヲ開闢タリトテ樋田魯一氏ノ記載セル處ヲ約言セハ

第一 耕耘ニ便ナリ從來ハ他人ノ地ヲ越テ僅ニ我耕地ニ遠スルノ地
多カリシモ今ヤ道路ニ沿ハサルノ耕地ナシ從來ハ區區屈曲ナリシ
モ今ヤ長方形トナリ從來ハ牛馬耕適セサリシモ今ヤ牛馬耕ニ最モ
適セリ從來ハ日向悪カリシ耕地モ今ヤ日向能クナレリ

第二 一毛作ノ地ハ變レテ二毛作トナリ從來ハ肥料ヲ得ルノ途無カ
リシモ今ヤ紫雲英ヲ作リテ大ニ肥料ニ富メリ從來ハ麥作シ能ハサ
リシモ今ヤ麥作ヲナシテ大ニ收穫ヲ得ルニ至レリ

第三 灌溉ノ便用水ノ乏シキヲ充足シ且ツ灌溉ニ至便トナレリ從來
ハ乏シカリシ用水モ今ヤ充足セリ從來ノ用水量ニ比例シ三分ノ二
ニシテ足ルノ實證ヲ舉ケタリ蓋シ其理由ハ數多ノ畦畔ハ多分ノ水
分ヲ吸取リ蒸發セシモノナラン乎

第四 畦畔ノ數減セシニ却リテ畦豆ヲ多ク作り得ルナリ從來ハ各畦
畔ニ一並ノ畦豆ヲ栽ウルニ過キナリシモ今ヤ排水溝ノ底際マテ幾
並モ栽ウルヲ得テ實際ノ收穫大ニ増セリ

第五 土地乾燥等ノ爲メ收穫ヲ増シ地主及ヒ小作人ヲ潤シ且耕耘ノ

農報第一號

勞力ヲ省キ得タリ

第六 改良ノ爲ニ得タル増反別ハ三十ヶ年間無稅地トナリテ其收益ハ悉ク人民ノ所得ニ歸ス

第七 耕地ノ實價三割以上ヲ騰貴シ地主ノ身代増殖シ若シ賣買スルモ其増價ヲ得即チ國ノ財本ヲ増セリ

第八 増反別ノ地價ヲ以テ改良費ニ充テ猶半額以上ノ剩餘ヲ得タリ

第九 据置年期明ノ上ハ増反別ノ地價ニ係ル地租及ヒ諸稅ハ國庫及ヒ府縣稅ノ稅源ヲ新開スルモノタリ

石川縣ニ於ケル成績已ニ斯ノ如シ之ヲ我全國ニ普及セハ其實益タルコト舉ケテ數フ可カラヌ且ツ已ニ千葉縣ニ於テモ漸ク此事業ヲ行ハントス又靜岡縣ニ於テハ昨年八月度ニ於テ耕地區劃改良地價据置年期出願手續ヲフ縣令ヲ發付シテ其實施ヲ促スコト急ナリ然レテ此改正事業ヲ遂行セントスルニ欠ク可カラサルモノハ各郡村地主ノ聯合協力ニアラフ記置セントラ望ム (農商務省土地整理論參照)

●豪農諸氏ニ告ク

農學士 米國理學士 玉利善造

農報第一號

回顧スレハ今ヨリ十餘年前農業雜誌記者ハ日本帝國ニ豪農ナシト唱ヘタリ其論旨蓋シ我邦所謂豪農ト稱セラルヘキ一種族ナキニアラサルモ彼等ハ所有セル農地ヲ自ラ耕作スルニアラサレハ眞ノ農業者ニアラサルヲ以テ豪農トハ稱シ難シ故ニ宜シク名實相合フテ自ラ未籽ヲ執ルヘシト勸告スルニアリシカ如シ余ノ豪農ト云ヘルモ等ク此種ノ族ヲ意味スルモノニシテ直ニ普通ノ稱呼ヲ採用シテ今更ソノ名實有無ヲ論スルニアラサルナリ然レトモ未籽ヲ自ラスヘシ即チ自作スヘシト云フ之レ大ニ講究スヘキノ問題ニシテ今日ノ我農法ヲ以テセハ僅々三四町歩ヲモ有リ的ニ自作シ難ハナルヘシ況ンヤ數十百町歩ヲヤ余カ豪農諸氏ノ猛省ヲ促サントスル所以ノモノ實ニ此ニアリ

我カ豪農即チ大地主ノ現状及將來ヲ察スルニ轉タ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ諸氏ノ家名ハ農地ニ依テ發顯シ諸氏ノ素封ハ小作人ノ收納ニ依テ維持セラルヘシ而シテ是等小作人ハ果シテ利益ヲ收メツ、アルヤ小ニシテ利益アラハ積シテ大ナルニ至テ利益彌々大ナルハ理ノ當然ナルニシノ實際ハ之ニ反シ自作農地ノ廣大ヲ加フレハ損亡彌々大ナリト云フ然ラハ則チ小ナルモ業已ニ利益ナキモノタラン只其下作人ノ損亡ヲ

感スルコトノ大ナラサルハ己レカ勞力ヲ些少ナカラモ金錢ニ變換レ得ルヲ以テナリ良シヤ損得ナレトスルモ彼等カ勞力ノ價值ハ我カ普通農事ニ依テ推算スルトキハ漸ク一日五六錢内外ナラン嗚呼諸氏ノ富豪ハ是等低廉ナル勞力者ヲ依テ始メテ維持シ得テ諸氏ノ農地ハ素ト利益ナキ農事ニ依テ利用セラレカ諸氏ノ後來亦危カラスヤ

我カ豪農ノ依頼スル處ハ只一小作人アリ我カ大地主ノ安心ハ下作希望者ノ多キニアルナラン此小作人ハ是マテノ如ク將來ニ於テモ果シテ同一ノ事情ヲ有スルヤ余ハ産業開刊ニ於テ今日ハ百事變遷ノ時代ニシテ我カ農界モ亦此一大旋渦中ニ在リト陳シタリ故ニ諸氏カ是迄經歷シ來リタル事情ハ將來ニ於テハ之ヲ期シ能ハサルナリ已ニ余自身ニ於テモ我邦農民ノ數ハ他業者ニ比シテ過多ナルヲ感スルモノナリ即チ農ノ收利ヲ増進センニハ工商業大ニ發達シ今日ノ農產物供給者多ク位地ヲ轉レテ之レカ消費者タランコトヲ希冀スルモノナリ而シテ此二業ハ今著シク發達シツヽアリ假令年々人口増殖ノ員數卽チ三十四五萬人ヲ新業ニ就カシムル丈々年々發達セサルモ之ヲ農業已外ニ職業ナキ時代ニ比スルトキハ轉業ノ容易ナル固ヨリ同日ノ談ニアラサルナリ況ンヤ往日

ハ概チ農民ノ他業又ハ他郷他領ヘ轉スルコトヲ嚴禁シタルヲヤ

農民ノ他業ニ轉スルハ固ヨリ余ノ希望スル處國家經濟上ノ慶事之レニ勝レタルハナシ我カ大地主ハ均ク大ニ之ヲ企圖スヘキ筈ナルカ其實際ハ果シテ然ルヤ余疑ヒナキ能ハス然リ而シテ此喜フヘキ正順ノ轉業モ諸氏或ハ却テ之ヲ忌ムナランニ万一小作人等カ同盟借地ヲ企テタルトキハ諸氏如何ニ之ヲ處理スルヤ諸氏ハ地主下作人ノ情誼往日ノ如ク温カニ之ヲ維持シ得ルト思ヘルヤ若クハ下作人ニ依頼セスシテ諸氏自ラ農地ヲ利用シ得ルノ方策アルヤ余ハ諸氏ニ向テ米籽ヲ自ラスヘシトハ云ハス然レトモ諸氏大地主タル以上ハ少クモ此等ノ諸點ニ就テハ大ニ熱慮セサルヘカラス然ルニ諸氏多クハ冷然之ヲ顧ミサルノヨカ却テ縁ナキ政談等ニ心酔シ祖先傳來ノ實產ヲ蕩盡スルモノ比々之レアリ思ハサルノ甚シキニアラスヤ假令諸氏政治界ノ紛擾ニ關セサルモノ急迫ニ及ヒテハ之カ繁累ヲ免カレサルモノ幾ト稀有ニシテ一ヒ之ニ從事スレハ騎虎ノ勢ト違ニ之ニ狂奔スルニ至ラン蓋シテ本意ヲ察スルニ志士トシテ政治ヲ談セサレハ人後ニ嗤若タリ名家トシテ之ニ盡力セサレハ他ノ批難指彈ヲ恐ルヽヲ以テナラン嗚呼諸氏ノ意志モ亦拙ナラスヤ

諸氏ハ素ト產業界ノ人物ナリ然ルニ諸氏カ不本意ナカラモ政治界ニ聚
 累ヲ有スルニ至ルハ諸氏カ恣々無爲ニ日子ヲ消スルヲ以テナリ諸氏若
 シ政熱沸騰中ニ在テ冷然ソノ繁累ヲ免カレント欲セハ宜シク殖産業ハ
 實利的ナリ國家富強ノ基一ニソノ振興ニアレハ如何ナル高尙ノ政談モ
 諸氏ノ志望ニハ抵抗シ能ハサルヘシ諸氏若シ相當ノ資本ト事情アラハ
 新ニ工商業ニ着手スル敢テ不可ナカラシ然トモ農事ハ諸氏ノ本業ニシ
 テソノ前途困難ナルハ既ニ諸氏ノ知了スル處是ヲ以テ諸氏カ最モ熱心
 ニ從事スヘキ適當ノ業務ハ農業改良ニシテ諸氏ノ名望ト資産ハ率先他
 ヲ誘導スルニ最便利タラン果シテ然ラハ諸氏ノ從事スル農業改良ハ所
 謂公益事業ニシテ商工業ノ私利ニ營々タル觀アリト同日ノ談ニアラス
 然レトモ其結果タルヤ直ニ諸氏カ農地ノ生産ニ影響スヘシ
 我カ農業ノ改良セサルヘカラサルハ人ノ唱フル處ナリ爾レテ諸氏ハ僅
 ヲ三四町歩ヲモ自ラ耕作スルノ不利益ナル狀態ヲ知リナカラ何故ニ之
 カ改良ノ必要ヲ感セタルカ抑農業改良ハ普及的ナラシレハソノ實ヲ期
 シ難ハサルモノニシテ下作小農等ノ自ラ企圖スヘキ所ニアラス宜シク
 地主諸氏自ラ率先シテ之ニ從事セハ我カ農業ノ改良期シテ俟クヘキノ

農業改良上ノ要件千百言ナラス余ハ一々記述シ能ハスト雖茲ニ諸氏ノ
 熱慮ヲ乞ハサルヘカラサルノ要件アリ案スルニ諸氏ハ諸氏ノ祖先ト社
 會トニ對シ是迄諸氏カ有シ來レル家名ト位地ヲ維持セント欲スルノ念
 慮ハ現在ニ於ケルヨリ寧ロ後世子孫ニ關シテ益深ク且切ナルモノアラ
 シ果シテ然ラハ諸氏カ子弟ヲ教育スルニ就キテハ最慎重ヲ要セサルヘ
 カラス余ハ是ニ於テ更ニ諸氏ニ忠告セシ諸氏ハ代々家業又ハ大地主ニ
 シテ後代モ亦同様家運長久ナランヲ希望セハ諸氏カ子弟ハ宜シク農
 業教育ヲ受クシムヘシ之レ固ヨリ當然ノ義ナリ然レモ今日天下書生ノ
 氣風ヲ察スルニ概テ政治法律文學等ヲ以テ高尙ナルト稱スルモ諸氏ノ
 子弟ニシテ此種ノ學問ヲ専攻セシムルハ余ノ危懼ニ堪ヘサル處ナリ縱
 ヒ之ヲ學ブノ必要アルモ先ツ一ヒハ農學ノ門ニ入ラシメサルヘカラス
 家業ノ子弟農學ヲ修メ茲ニ改良ノ効顯ハルニ於テハ自作收利ノ道閉
 ケテ一ニ小作人ニ依頼スルノ必要ナキニ至ラン家業諸氏若シ長ヘニ農
 地ヲ以テ家名ヲ維持スルノ實トセハ宜シク余ノ言ヲ熟考スヘシ
 左ノ一編ハ小林善郎氏カ青森縣上北郡ノ各地ニ於テ勤勉貯蓄ヲ論説

セシ主意ノ要領ニシテ同氏奔走ノ勞空カラス一昨年中國郡下ノ人民
ニテ郵便貯金ニ預托セル金高壹万四千四百餘圓ニ上リ昨年ハ預入ノ數
及ヒ金高トモ一層多キヲ増シタリト云フ氏カ篤行決シテ没スヘカラ
ナルナリ

●勤勉貯蓄ニ關スル主意

小林壽郎

夫レ貯金ノ大要ハ積蓄爲邸ニアリ人々日常必需ノ費用ヲ節シ即チ減省
シ難キノ費途モ猶能ク之ヲ減省シ些少ノ金錢ナリトテ輕忽ニ附セス之
ヲ厲シテ貯金預所ニ託シ以テ其レカ保殖ヲ計ラサルヘカラス其美德勤
用ノ大ナルニ至リテハ之ヲ國家ヨリ謂ヘハ經濟ノ要具タリ之ヲ風俗ヨ
リ謂ヘハ篤厚ノ良媒タリ蓋シ政府力數多ノ貯金預所ヲ設置スルノ深意
實ニ茲ニ存セン人民タルモノ其利便ニ依リ其盛意ニ報シ小ハ自家ノ幸
福ヲ増進シ大ハ國家ノ富強ヲ致スヲ勤メサルヘカラサルナリ夫レ人ハ
何時迄モ少壯ニシテ強健ナルヲ得ルモノニアラス又不虞疾病禍害ナキ
能ハサルヲ思ヘハ平常無事ノ日ニ於テ之カ豫備ノ謀ヲ爲サハカ
ス然ルニ我國下等社會ノ有様ヲ觀ルニ偶々多少ノ餘金アルハ酒食ニ
濫費シテ一時ノ快ヲ取り毫モ他日ヲ顧慮セサルハ地方一般ノ情況ニシ

轉々憂フヘキナリ今此即チ無教育ノ人民ヲ誘導シテ勤勉ト節儉トノ兩
主義ヲ服膺セシメ少金トテ忽ニセス應分ノ貯蓄ヲ爲サシメ未來ノ困厄
ヲ平時ニ豫防シ老後ノ資本ヲ壯年ニ積蓄スルノ思想ヲ養成セシムルハ
實ニ今日ノ急務ナリ最モ人ハ幼年ノ時ヨリ貯蓄ノ念ヲ起サシムルヲ必
要ナリトス語ニ曰ク國ニシテ九年ノ食ナキハ國其國ニアラス家ニシテ
三年ノ食ナキハ家其家ニアラスト前年佛國土寇ノ舉アルヤ無産ノ徒ハ
争ヒ起テ之レニ應シ暴動至ラサル所ナカリシモ獨リ貯金通帳ヲ所持ス
ル者ニ至テハ一人トシテ其暴舉ニ加ハラザリシト云フ節儉貯蓄ノ美德
亦偉大ナリト云フヘシ又風俗ノ點ヨリシテ之ヲ謂ヘハ凡ソ人強壯ニシ
テ衰老後ヲ考ヘ健康ニシテ疾病ノ時ヲ慮リ妻子アリテ之カ養育ヲ思ヒ
堪ニシテ寒暑ニシテ凶皆其後ヲ顧ミサル者アラス一念苟モ此ニ至レハ
則節儉貯蓄ヲ冀圖スルノ良心其端ヲ發ス世間往々既ニ其端ヲ發シ從テ
之ヲ實踐スルモノアルモ或ハ忍耐ノ力ニ乏シク積蓄ノ微ヲ今日ニ忘リ
爲邸ノ大ヲ後日ニ忘レ一朝揮テ放恣瀆煤トナシ終ニ瑣少金錢ハ貯蓄ス
ルモ其効少ナレトシ老病寒凶之ニ備フルノ資ナク泣テ妻ヲ去リ子ヲ棄
テ窘迫凍餓スルモ猶恬トシテ怪マサルノ惡慣習爲セリ道德頹敗此ニ至

テ極マレリ今ヤ此ノ洗滌ノ俗ヲ救済シ多數ノ細民ヲシテ篤厚着實ナラシメント欲セハ周ク勤勉貯蓄ノ必要ヲ知ラシメ細民獎勵誘導シテ各人固有ノ良心ヲ發セシメ能ク瑣少ノ金錢ヲ貯蓄シ又安全ニ之ヲ増殖スルノ道ヲ示サハルヘカラス而シテ其預所ハ貯金預所ヲ措テ他ニ最良ノ機關之レアルヲ見ス今之ヲ證明センタメ英人某ノ言ヲ左ニ記シテ參照ニ供セントス

我國(英國)貯金預所ヲ驛遞院ニ屬シ其規則ヲ鞏固ニシ其貯蓄ヲ安全ナラシメシヨリ細民ノ預主ハ大ニ其數ヲ増加シ信任ノ思想ヲ彼我ノ間ニ堅カラシメ其効驗タルヤ間接ニ彼等ノ志操品行ヲ一變セシムルニ至リ姑ク之ヲ例シテ言ハ、彼等細民ノ今日婚約ヲ爲スヲ見ルニ男ハ百磅ヲ貯ヘ女モ五十磅ヲ貯ヘ合シテ百五十磅ハ託シテ貯金預所ニアリ頼テ借老ヲ約ス生兒ノ養育ヲ爲スニ足ルヘキヲ以テ早ク合意ヲ爲スヘシト言ヒ或ハ未タ貯金多カラサルハ數年ヲ俟テ合意ヲ爲スヘシト言フヲ以テ今日我國細民普通ノ情況トナス夫レ人ニシテ忍ビ難キノ情慾ヲ忍ビ遠ク老後ノ今日ノ如クナラサルヲ慮リ又生子ヲ愛育セサルヘカラサルヲ知ル皆是天賦良心ノ致ス所ニシテ之ヲ外ニシテハ

法典ヲ畏レ長上ヲ敬ヒ朋友ヲ愛シ交際ヲ慎ミ其行狀ニ現ハルハ百般善良ナル者皆此効ニ非ナルハナク而シテ其之ヲ擴充スルニ及ヒテハ終ニ温厚篤實ノ美風ヲ長レテ大ニ洗滌懶惰ノ弊習ヲ一洗スルニ足ルモノアリ抑々斯著大ノ効其萌芽スル所ハ果シテ何レニアルヤ僅々一志ノ小貨ヲ貯蓄スルヨリ始マルニ過サルノミ之ヲ以テ見レハ貯金預所ノ設ケタル其要ヲ言ヘハ學校ノ上ニ位シ其徳ヲ言ヘハ小學ノ教育ニ多ク座ヲ讓ラサルナリ

之ヲ以テ是ヲ觀レハ貯金預所ノ要ト徳ト又糺述ヲ待タス然レハ世人或ハ謂ハン今日我國貧窮ノ小民ニシテ六七百圓ノ預金ヲ爲スハ蓋シ至難ナリト夫然リ豈夫然ランヤ是自棄者言ノミ人若シ果シテ其念ノ萌芽スルアラハ之ヲ行フニ於テ又何ノ難キコトカ之レアラン但シ其之ヲ短折中廢セシメサランカ爲メニ能ク之ヲ獎勵シ或ハ之ヲ勸誘シ彼レヲシテ忍耐不屈ノ力ヲ養成セシムルニアルノミ

方今我國細民ノ實況ヲ觀察スルニ一日三錢若シハ四錢ヲ節儉シテ一月或ハ一圓ヲ贏シ得ル者雇職工社會ニ於テ尙且少トセス假ニ其人ヲシテ毎月壹圓ヲ預所ニ託セシメ而シ其規則ニ從ヒ毎一年四歩二厘ノ利子ヲ

算、三十年ヲ壽ルニ及ハハ元利合シテ七百九圓七拾八錢八厘(元金三百六拾圓利金三百四拾九圓七拾八錢八厘)ニ達ス。ヘシ毎月壹圓ノ微三十年ヲ經レハ終ニ中人一家ノ産トナル能ク獎勵ノ法ヲ盡シ勸誘其宜キヲ得テ廣ク此事業ヲ施スニ至ラハ人皆喜ンテ此事ニ從フヲ願ハサルモノナケン人タルモノ男ヲ舉クレハ之ニ家産ヲ授ケ女ヲ舉クレハ之レカ良姻ヲ求メサルヘオラス兒ヲ奉タルノ時ヨリ毎月壹圓ヲ預ケ滿二十年ニ達スレハ終ニ金三百七拾壹圓八拾壹錢九厘(元金二百四十圓利金百參拾壹圓八拾壹錢九厘)得下等社會ニ於テ此貯蓄ヲ以テ一家ノ産業ヲ營ムニ足ル又嫁娶ノ盛儀モ之ヲ整頓スルニ足ルニ非スヤ若シ夫レ中等ノ人毎月五圓ヲ預クルニ於テハ金千八百六十餘圓ノ多額トナリ別ニ心思ヲ勞セス危險ヲ踏マスシテ此幸福ヲ享受スル豈ニ善良ノ便法ニアラスヤ人既ニ子弟ノ冠婚ヲ思念セハ奈何ンソ父兄ノ喪祭ヲ願慮セサラン既ニ俯仰此二儀ヲ重ニスルヲ知レハ奈何ンソ吾ノ貧寒ニ甘心スル者アラン既ニ貧寒ニ甘心セサレハ豈吾カ本分ノ事業ニ拮据從事セサル者アランヤ吾既ニ拮据勉勵ス志懈放恣ノ人ノ見ハ誰カ之ヲ欣羨セサランヤ其情勢ノ力大ニ篤厚忍耐ノ風ヲ振作シ獨立ノ氣象ヲ旺盛ナラシムルヤ疑

フヘカラヌ
我國目下中等以下ノ民俗タル會テ不羈獨立ノ氣象ニ乏シク無事健全ノ日ハ倫安シテ其後ヲ思フヲ知ラス一旦禍害病患ニ遭遇スレハ恬然首ヲ俯シテ他ノ救済ニ之レ頼リ其窮窮ヲ告タルノ羞耻タルヲ知ラス滔々闔國皆是ナリ政府已ニ救済ノ設ケアリ其惠澤カラサルニ非ス其典美ナラサルニアサスト雖モ慮ハ恐ル末カ爲メ倫安ノ民俗ヲ養生スルコトアルヲ抑々周濟ノ方ハ必ス其時ヲ擇ムサルヘカラス能ク之ヲ周濟スルモノハ禍害病患ノ日ニ施サスレテ無事健全ノ日ニ行フヲ要ス而シテ其之ヲ行フ處ノ方法トハ何ヤ廣ク勸勉貯蓄ノ徳ヲ養ハシメ能ク獎勵ノ術ヲ盡シテ各人業ヲ屬シ應分ノ貯金ヲ爲ス日常備急ノ良心ヲ涵養スルニアルノミ果シテ此ノ如クナレハ救済ノ跡ナクシテ周濟ノ實舉リ昔日窮窮ノ民ハ皆卑屈ノ域ヲ出テ驕々如トシテ不羈獨立ノ民タルヘシ之ヲ彼ノ倉庫ヲ發イテ米粟ヲ當日ニ販貸スルニ比スレハ其濕惠其美典固ヨリ日ヲ開フレテ語ルヘカラサルナリ今又其人某ノ言ヲ左ニ舉ケ之ヲ確實ニ

政府ノ貯金預所ヲ開設スルノ事ハ實ニ經濟風俗ノ二點ヲ善良ナラシ

農報第一號

ムルノミナラス正ニ真理公道ニ據リテ施行スル濟貧賑窮ノ良法典ナ
 然リト雖モ大ニ新業ヲ行ヒ廣ク斯民ヲ導カンタメニハ決シテ短小ノ時
 間ニ之ヲ望ムヘカラス要ハ能ク人ヲ振作シテ經久忍耐ノ風ヲ興サシム
 ルニアリ
 又貯蓄心ノ美德教育上ニ及ホスヘキ關係ヲ述ヘンニ教育ナキノ窮民ハ
 其子弟教育ノ必要ヲ知ラス故ニ強制教育ノ必要茲ニ生ス是レ固ト子弟
 保護ノタメナリト雖窮民タル無學ノ父兄ハ却テ之ヲ喜ハス必需ノ書籍
 モ之ヲ與ヘサレハ從學スル者隨テ少ナシ遂ニ愚昧ヲ以テ成長セシムル
 ノ不幸ナル有様ヲ示サントス其有様ハ彼レ無學無識ナルカ故ニ人間ノ
 享クヘキ歡樂即チ其愉快ノ疆界極メテ狭ク學問ノ何物タルヲ知ラサル
 ニヨリ教育ヲ受タルモノ、大ナル天福ヲ享クルノ時ニハ彼ハ反テ甚シ
 キ損害ヲ享ケリ而シテ彼等日々勞力ヲ以テ生計ヲ立ル所ノ窮民者ノ閑暇
 ナル時ハ大ニ殖産工業上ノ妨ケヲ爲スヲ著シトス何トナレハ無學ニシ
 テ書ヲ讀ミ能ハサルヲ以テ閑暇ナルキハ飲食ノ爲メニ閑ヲ遣ルノ外術
 ナケレハナリ今農民ノ閑暇無事ナルキハ有様ヲ見ルニ一モ有益ノ事ニ

農報第一號

利用スルモノアルヲ認メス且ツ夫レ閑暇ナルモノハ教育ヲ受ケタルモ
 ノ、爲メニハ實ニ無價ノ賜ニシテ大ニ利益アルモノナリト雖モ彼ノ窮
 民ノ無學者ニ至テハ閑暇徒然ニ耐ヘスシテ飲食店ニ遊フノ心ヲ起スハ
 亦止ムヲ得サルモノト云フヘシ一タヒ飲食店ニ遊ヘハ此ニ遊蕩子ト相
 會シテ其社會ノ人トナリ遂ニ放蕩無賴ノ醉漢トナルニ至ル是レ實ニ勤
 勉貯蓄ノ人世ニ必要ニシテ爲サ、ル可カラサルヲ知ラサルニ基クト雖
 畢竟彼レヲレテ斯クノ如クナラシムルハ彼ノ幼少ナル時ニ於テ其父兄
 タルモノカ其子弟ニ教育ヲ受ケシメサルニ原因シ自身亦飲酒放蕩ノ惡
 規範ヲ示シ愚昧ヲ以テ成長セシムルヲ意ニ介セサルノ結果ナリトス實
 ニ不教育ハ大ハ國家ヲ害キ小ハ其子孫ヲシテ不具不道德不義其他ノ惡
 行ヲ以テ其身ヲ終ラシメ人ト俱ニ生存競争スル能ハサラシムルニ至ル
 以上陳フルカ如ク無賴ノ小民ヲ夥多ナラシムルモノハ實ニ勤勉貯蓄ノ
 美風ヲ欠キ隨テ教育ノ何タルヲ知ラサルヨリ起ルモノタル多言ヲ要セ
 ス教育ノ實業ニ及ホスノ利害實ニ容易ナラサルヲ信シ其教育ヲ旺盛ナ
 ラシムルハ勤勉貯蓄ニ基クテ知ラハ今日ノ要ハ之ヲ懈ムルヲ急務中ノ
 急務ナリト言フモ亦過言ニアラサルヘシ語ニ曰ク衣食足リテ禮節ヲ知

ルト有志諸氏自身ヲ愛シ子孫ヲ念ヒ奮テ勤勉貯蓄ノ美德ヲ一般ニ周行
セシメシヨト國家ノ爲メ切望ニ堪ヘサルナリ

●貯蓄法

古ヨリ六十年間ニハ必ス一回ノ大饑饉アリト言ヒ傳フ果シテ信スヘシ
ト見做シ天保七年ノ大饑饉ヨリ數ヘ來ラハ來ル二十八年ハ六十年目
ニ當レリ而シテ其說ニ曰ク六十年ヲ二期ニ分テ先キノ三十年ヲ陽ト云ヒ
後三十年ヲ陰トナス陽ノ三十年間ニハ農産豐饒ナルモ陰ノ三十年間ハ
災害屢々來リ途ニ大凶荒ニ至ルト今此說ニヨレハ天保七年ヨリ慶應元
年ニ至ル三十年ハ陽ニシテ慶應二年ヨリ明治廿八年ニ至ル三十年ハ陰
ナリ之レヲ事實ニ徵スルニ明治二年ニ凶荒アリ全三年ニ外國米ヲ輸入
セルモノ二百十五萬石此金四百五十九萬八千圓ニシテ全廿二年ニ又凶
荒アリ全廿三年ニ輸入セルモノ百八十四萬石此金千二百三十萬圓ナリ
一昨年ノ洪水昨年ノ大旱魃此等考一考スレハ實ニ塞心スヘキナリ
回顧シテ天保七年以前ノ饑饉ヲ攷フレハ欽明天皇廿八年ヨリ天保七年
マテ一千二百九十二年間ニ大饑饉ノ數三十三回此平均四十年〇六ニ付
キ一回ノ割合トナリ最近七十七年目最近ハ九年目ナリ此上ノ事實ニヨ

農報第一號

リ六十年間ニハ必ス一回ノ大饑饉アルヲ知リ得ヘシニ宮傳德翁曰ク人
々ノ饑饉ヲ用心スル内ハ饑饉來ラス平年豐熟ニ馴レ五穀ノ貴ト饑饉ノ
憂トヲ忘レ凶年ノ何物タルヲ知ラサルニ至レハ必ス饑饉來ルモノナリ
ト嗚呼天ノ未タ雨ラサルニ先テ屬戸ヲ網羅スルハ吾人ノ當サニカムヘ
キ急務ナラスヤ

凶荒ノ豫備ニ關シテハ京都府ハ明治十八年以來屢々警戒ヲ加ヘ昨二十
六年ニハ特ニ愛媛縣老農丹生安彦氏ヲ派遣シテ備荒ノ必要ヲ説カシメ
又第三課農商係員各町村ニ出張シ之レカ實施ヲ促シタレハ今又更ニ費
辨ヲ費サハルヘシ唯參考トス靜岡縣ノ實例ヲ示サンニ靜岡縣ハ夙ニ二
宮傳德翁ノ遺法ニヨリ各所ニ報德社ヲ結ビ備荒ノ法ヲ設ケリ夫レ傳德
翁ノ遺法ハ凶年ノ夫食ハ常食ノ半數ヲ以テ法トシ村内總人別一人粉六
俵ノ割合ヲ以テ通計ノ俵數ヲ備ヘ置キ廣ハ樹林ノ中ニ建ツルヲ可トス
樹枝層ヲ掃ヘハ永年ヲ保ツヘシト又翁ノ門弟福住正兄翁ガ安政ノ初メ
湯本村ニ實施セル方法ハ村内ノ人民各其分限ニ應シテ五升一斗二斗三
斗一俵若クハ二俵ト隨意ニ積立テ一村百戸ニ付キ二百俵ニ止メ之レヲ
完備ト爲シ而シテ粉借用ヲ希望スル者ニハ年々六月ニ粉一俵ニ對シ大麥

農報第一號

二俵ヲ抵當ニ取リテ之レヲ貸與シ十二月ニ至リ之レヲ返納セシメ其際
 貸與米一俵ニ付キ豐年ハ六升上年ハ五升中年ハ四升下年ハ二升ノ報德
 ノ起米ヲ納メシム又元恕米ハ水難火災又ハ貧困者ノ長病ナトナルル村
 内協議ノ上之レヲ施與スル者トセリ但粉ノ積立ハ兼メ日限ヲ定メ當日
 ハ一同積立粉ヲ持參シ其高ニ對シ帳簿ノ記載ヲ乞ヒ又六月粉借用ノ時
 ハ善良ノ大麥ヲ選ミ借用人ノ名票ヲ附シ後日相違ナカラシム高一納期
 ヲ遲延シ若クハ元恕米ヲ不納スル者アラハ担當ノ麥ヲ沒收シ退社セシ
 ム

以上ハ專ラ積米ノ方法並ニ其必要ヲ陳述シタレハ更ニ進ンテ貯金ノ欠
 ク可ラサル所以ヲ述ヘン夫レ貯金ハ富ニ備荒ノ爲メノミナラス世ノ開
 明ニ進レテ教育ノ擴張道路ノ改修年事ノ擴張其他萬般ノ改進ヲ要スル
 ノミナラス一家ノ經濟ト雖モ世ノ風潮ニ伴フテ日ニ奢侈ニ傾キ日ニ入
 費ヲ増加ス況ンヤ平生ニ於テ臨時ノ用意ヲ爲シ置カサレハ一朝天災病
 凋等ノ不幸ニ際會スルコトアルニ於テヲヤ予輩ハ是等ノ豫備トシテモ大
 ニ貯金ノ必要ヲ感スルナリ今ニ於テ宜シク貯金ノ法ヲ設ケスンハ遂ニ
 倒産ヲ免レサルニ至ルヘシ而シテ予ノ所謂貯金ハ刻苦勉業以テ額ノ

汗ヲ積ミ質素儉約以テ出ルヲ制シ庶積爲山点備作江河ノ主義ニヨリ貯
 金スル者ニシテ一攫千金一時万金ノ僥倖ヲ恃ムモノニアラサルナリ胃
 險偶中シテ得タル富豪ハ一夜ノ春夢ニ消ヘ勤儉ニ由テ積タル富貴ハ永
 久ニ穩澤ヲ及ホスヘシ二宮尊徳翁曰ク百万石ノ米モ粒ノ大ナルニアラ
 ス高町ノ田モ一畝ノ功ヨリ來ル小ナリトシ之レヲ忽セニセハ大ナルコ
 ハ必ス出來スモノナリト金言ナリ雖ニ二東三文ト謂ヒ三文位ナリトテ
 絶エテ注意スルモノナシ然レモ世人賤視スル此三文ノ錢モ日々之レヲ
 蓄積セハ實ニ巨額ニ達スヘシ今一日三厘ヲ積ミ之レニ年六米ノ利子ヲ
 附シ半期毎ニ重利セハ十年ニシテ拾四圓拾六錢壹厘廿年ニシテ四拾圓
 參拾參錢三十年ニ八拾八圓七拾八錢壹厘四拾年ニ百七拾七圓拾六錢ト
 ナルヘシ又遞信省爲換貯金法ニヨレハ毎月拾錢ヲ積メハ四十年ニシテ
 元利百貳拾貳圓九拾六錢七厘トナリ毎月五拾錢ナレハ四十年ニ六百拾
 五圓五拾六錢六厘毎月壹圓ナレハ四十年ニ壹千七百七拾八圓五錢貳厘ト
 ナル又在大阪某富豪家ノ貯金法ニヨレハ母金壹圓ヲ備ヘ一ヶ月ニ一步
 八米ノ利息ヲ附ケ年毎ニ利ニ利ヲ加ヘ五十年ニ達スルキハ金壹萬七千
 六百四拾圓四拾錢參厘ヲ得又其母金ニ年々金壹圓ヲ加ヘ前ノ如クセハ

號一第報農

五十年ニシテ金九萬九千三百四拾壹圓九拾七錢四厘ヲ得ヘシ即チ
 母金壹圓
 母金壹圓ニ付年壹圓ヲ加ヘタルモノ

| | | |
|-----|-------------|-------------|
| 初年 | 金壹〇〇〇 | 金壹〇〇〇 |
| 十年 | 金七、〇六六 | 金三五、壹六四 |
| 二十年 | 金四九、九四六 | 金貳七六、六五七 |
| 三十年 | 金三五三、〇五〇 | 金壹、九八三、六八八 |
| 四十年 | 金貳、四九九、五八七 | 金壹四、〇五〇、〇七貳 |
| 五十年 | 金壹七、六四〇、四〇三 | 金九九、三四壹、九七四 |

此貯金法ニヨレハ母金僅少ニシテ巨額ノ元利ニ達スル實ニ驚クヘキナ
 リ然レトモ一ヶ月一步八朱ノ利ヲ得ルハ甚タ困難ニシテ決シテ通常ノ
 貯蓄法ニヨリ得ル能ハサルナリ是レ此法ノ最モ新奇ナル所以トス今其
 法ヲ聞クニ例令ハ元資ヲ極メテ信用家ニ貸附ヶ月八朱ノ利子ヲ得ルト
 セハ殘ル一步ノ利子ハ自ラ勤儉シ其補充トシテ元資ニ繰込ムモノトス
 此ノ自ラ勤儉シ補充スルハ即チ該貯蓄法ノ最モ主眼トスル點ニシテ之
 レヲ行フコト能ハサルハ巨額ノ元利ヲ得ルト得ル能ハサルノ境界ナリ
 富貴ナルト貴賤ナルト分レ目ナリ有志者ハ宜シク己レカ心ヲ鞭撻シ

號一第報農

勉メ勵ムヘキナリ
 今ヤ終リニ臨ミ静岡縣ニ於ケル報德社ノ結社法概要ヲ述ヘンニ先ツ朋
 友若クハ親戚ニシテ且ツ正直ニ活計モ豊ニ暨キモノ、ミ申合セテ結社
 シ社員五十戸トスレハ該社員ノ身元ニヨリ上中下ノ三等ニ區別シ上等
 一ヶ月二十錢中等十錢下等五錢ト定メ六月十二月ノ兩月ハ休月トナシ
 一ケ年十ヶ月分ヲ積立ルモノトス而シテ上等十戸中等十五戸下等二十
 五戸ト假定セハ一月ヨリ五月マテ五ヶ月ニ積立タル金員ハ三圓七十五
 錢トナレハ此金ヲ以テ一手ニ肥料ヲ買入レ六月ニ社員ニ分配シ十二月
 米收納ノ時ニ至リ其代金ヲ返納セシム斯クシテ肥料共同購入セハ銘々
 各戸ニ之レヲ購入スルヨリ低廉ニシテ精良ノ品ヲ得ヘキナリ又七月ヨ
 リ十二月ニ至ル五ヶ月ノ積立金並ニ肥料代返納金ヲ合セタル七圓五十
 錢ハ十二月ニ於テ社員寄集リ社員中農業精一ニシテ村ノ總額トモナル
 ヘキモノヲ投票シ票數最モ多キモノヲ第一トシ票數同一ノモノハ抽籤
 ニテ甲乙ヲ定メ順次貸附タルモノトス貸附金額ハ積金ノ多少ニヨルハ
 勿論ナリト雖モ駿東郡報德社ノ法ハ一番札四拾圓二番札三十五圓三番
 以下七番マテハ三十圓宛トシ貸付ノ際ハ銀錢各一毫宛ヲ當選人ニ附與

六十二

ス但シ一旦貸附ヲ得ルモノハ毎月貸附ヲ終ラサル間ハ被選人タルヲ得
 ス之レヲ旋回法ト云フ貸付金ハ年賦ト爲シ年々十一月三十日限リ返納
 セシメ三ヶ年賦トナスカ四ヶ年賦トナスカハ社員ノ協議ニヨリ之レヲ
 定ム尤モ抵當トシテ田地ヲ書入レタル保証人連署ノ証書ヲ差入レシム
 貸付金ハ無利息ニシテ恩貸ニ属スルモノナレハ元恕金即チ酬謝又ハ恩
 禮金トシ皆済ノ翌年ニ至リ一ヶ年ノ額ヲ差出サシメ資本金トナス此報
 徳實本金ハ村内ニ於テ品行方正能ク家業ヲ屬ムモ不幸ニシテ艱苦ニ迫
 ルモノニ特ニ米穀ヲ助成ス其方法亦タ社員ノ投票ニヨリ一番札四俵二
 番三俵以下二俵ツ、五番マゾトセリ
 旋回法ニヨリ一順若クハ二順セハ之レヲ永安法ト爲スヘシ永安法トハ
 貸付金ノ高ヲ積立金ノ一倍ニ貸付年賦ヲ以テ返納セシムルノ方法ナリ
 即チ積立拾五圓ナレハ貸附拾圓貳拾圓ノモノハ四拾圓ニシテ貧富ヲ
 論セス加入金ノ一倍ナレハ利益平等ナルカ右ニ苦情ナク永遠ニ行ハル
 ヲナリ以上ハ結社ノ大要ニシテ此方法ハ農者ヲ獎勵スルニハ最モ良法
 ナリトス此法ニシテ行ハレ風俗ハ敦厚トナリ村民ハ富貴スヘシ然レハ
 此結社ニ就キ最モ注意スヘキハ結成ノ順序ニシテ結成宜シキヲ得サレ

ハ漸次退社人ヲ生シ社ノ勢力衰フヘシ又結社後三四年目ハ社員倦怠心
 ヲ生スルモノナレハ六七年ヲ過キハ基礎確立スルモノナレハ宜シク堅
 固不拔ノ人ヲ選ンテ結社スヘキナリ尙ホ結社ノ詳細ヲ知ラント欲セハ
 静岡市報徳社ニ於テ發賣セル富岡捷徑並ニ結社問答ニ就クヘシ(京都府
 農商課員村上小源太氏ノ演述概要ナリ)

●褒賞ノ貯金法

京都府熊野郡ノ農産品評會ニテハ其授與セル褒賞ニ一等ヨリ五等マゾ
 ノ差アリシカ其賞品ハ稻葉會長ノ注意ニヨリ普通トハ大ニ趣キヲ異ニ
 シ一等ハ金五十錢トシ以下遞減シテ五等金拾錢トナシ更ニ郵便局長ニ
 賦シ之レヲ一時預リノ手形トナシテ一々受賞者ニ下附セルナリ然ルレ
 ハ此手形及貯金通帳ヲ以テ郵便局ニ至リ貯金ノ登記ヲ請ヒ又通帳ナキ
 モノハ此手形ト願書トヲ出シテ通帳ノ下附ヲ請ヒ受ケシムル都合ナリ
 此ノ如クスレハ二三十錢ノ者ト雖モ無益ニ消費スルヲナク遂ニ積ンテ
 善良ノ農具ナリ肥料ナリ購フヲ得ヘク且ツハ未ダ貯金セサル者ニ向ヒ
 貯金ノ便法アルヲ知ラシメ即チ拾錢以上ノ金子ハ何時ニテモ預ケ得ル
 ノ道ヲ開カシメ其手續ヲ煩ハシトシ未ダ貯金セサル者多シ以テ少金ト

雖モ常ニ貯蓄セシムルノ念ヲ惹キ起サシメントノ意ナル由是レ亦農産品評會ノ褒賞ニ取り勤勉貯蓄法ヲ兼テタル唯一ノ便法ト云フヘシ

●米ニ就テ前田氏ノ意見

古來我國ニ於テ米ヨリ貴重ナルモノアラヌ此ク最重至貴ノ物産タルニモ關セス一村一郡到ル處注意ノ十分周到ナルモノ曾テ無シ米作段別全國ヲ通シテ二百八拾萬町歩餘其收穫ハ平均一歲ニ三千八百萬石ニシテ一段ノ平均凡ソ一石五斗許ナリ今一段歩ノ收穫ノ最大ナルモノヲ舉レハ四石五斗四石八斗四石乃至三石六斗ナル其最少ナルモノハ一斗一斗五升二斗乃至三斗ナリ日本ノ大切ナル農産物スラ尙ホ此ノ如シ其他萬般ノ事推シテ知ルヘキノミ蓋シ一斗ヲ收穫スル田地ヲ以テ四石五斗ヲ收ムルノ田地ト爲スハ到底成レ得ヘキニアラス是レ地質氣候水利等ノ關係アリ人力ノ及フ所ニアラサレハナリ然レトモ數年間試驗ノ末近來各所ノ成績ヲ見ルニ從來一段ニ附キ二石ヲ收穫セルモノハ二石五斗トナル一石ノモノハ一石五斗トナレリ是ニ由テ之ヲ觀レハ假令新ニ一段歩ヲ増サ、ルモ二三割ノ增收ヲ成シ得ヘキナリ毎村ノ遺利ニ屬スルモノ豈ニ莫大ナラスヤ

農報第一號

農報第一號

悔トモ及ハサル事ナカラ藩政ノ時ニハ米ノ性質佳良ニシテ品位ノ區別、判然ト立テ製俵堅固ニシテ賣買ノ方法其當ヲ得タリシカ米納ヲ改メテ金納ト爲スニ當リ其主旨ハ大ニ農家ヲ發達セシムルニ在リシモ爾來米質其他總テ變惡シ今日ハ二十年前ニ恢復スルコトタモ容易ナラサルノ情況ナリ凡ソ多年ノ習慣ヲ廢シ成法ヲ更革スルニ當リテハ民力知識等ヲ熟考シテ施行セサレハ福反テ禍ト爲ルコトアリ注意セサルヘカラス藥ヲ與ヘテ毒トナルノ結果ハ今日現ニ見ル所ナリ此ノ貴重ナル農産物ノ改良ヲ施コサシムルニハ如何ナル手段ヲ以テスヘキカ他ナシ品物ヲ價ヒスヘキ價ニ賣リ農家ヲシテ其利益ヲ十分ニ得セシムルニ至レハ米質ノ改良隨テ行ハルヘシ今日改良米ハ普通ノ米ニ比シテ四十錢ノ高價ナリ是レ實ハ一圓高ニモ賣ルヘキモノナレトモ如何セン其數量僅少ニシテ品物齊一ナラサルカ故價ニ四十錢高ニ止マルナリ今日農家ノ有様ハ概シテ改良米量目ノ重キモノヲ作ルヨリハ普通升目ノ多キモノヲ欲スルカ故非常ニ石灰ヲ施用セリ若シ今日ノ如ク用フルコト止マサルハ十年ノ後ニハ地質一變シテ惡土ト爲リ復如何トモスヘ

カラナルニ至ラン恐レナルヘケンヤ
 現ニ外國ノ得意先ハ品質ト外貌ノ良好ナル米ヲ嗜好セリ而シテ此得意
 先ニ於テハ數量僅少ニ品物不齊一ナレハ賣レ難キコトヲ知ラサルヘカ
 ラス我日本ノ商人ハ同胞人ト互ニ競争シ同胞人ノ利益ヲ奪フコトニ汲
 ヲタレトモ商品ヲ一手ニ取纏メ數量ヲ巨多ニシ品物ヲ齊一ニシテ外國
 ニ賣ルノ有力者ハ殆ト絶無ナリ希クハ一村一郡若クハ一縣ノ有志者發
 奮興起力ヲ一ニシ事ヲ共ニ成ルヘク同一ノ品ヲ作ラシメテ販賣セヨ
 利益ヲ得ンコト必定ナリ而シテ其結果タルヤ終ニ彼ノ憂フヘキ石灰ノ
 使用ヲ節シテ品質ノ改良ヲ圖ルニ至ラン
 以上述フル如ク我國ノ商品ハ一トシテ數量ノ巨多ニシテ品物ノ齊一ナ
 ルモノ無キカ故偶々精良ノ品アルモ價ヒスヘキ價ニ賣ルコト能ハス看
 利益ヲ失フモノ多シ豈ニ獨リ絲茶紙米ノヨナランヤ例ヲ舉ケテ類ヲ
 推セハ皆然ラサルハナシ外國ニテハ日本ト異リ織物ノ如キモ同一ノ品
 物幾十萬ヲ製造スルカ故其原料タル生絲モ隨テ齊一ナラサルヘカラス
 又米茶ノ如キモ日用ノ消費品ナルカ故數量ノ巨多ニシテ齊一ナルハ論
 ヲ待タサルナリ讀者若シ能ク本論ヲ熟讀セハ余カ多年來熱心ニ唱道ス

ル實業團結ノ必要ヲ感知スルニ餘リアラン

●陸地棉ノ栽培法及成績

陸地棉ハ元ト北米合衆國暖帶地ノ産ニシテ氣候乾燥風雨少ナキ期節ニ
 成熟スル者ナレハ既ニ我邦ニ適シ其性強壯能ク風雨ニ堪ヘ肥料ヲ要ス
 ルニ極メテ少ナクシテ收穫頗ル多シ綿毛細長ニシテ紡績用ニ適セリ然
 ルニ明治七年米國ヨリ傳來セシ以來試作經驗ヲ遂ケ我國ニ適セル成績
 ヲ證明セリ此ノ陸地棉ハ在來ノ棉花ニ比シ其ノ強壯ナレハ風雨ノ害ヲ
 受クルヲ少ナキハ勿論其發芽シテ二三葉ヲ出セル頃ヨリ已ニ風雨ニ堪
 ヘ又能ク旱害ニ堪レ在來棉花ハ沙交リノ土地ニアラサレハ能ク成育セ
 サルモ陸地棉ハ沙質地ニ限ラス眞土ニテモ瘠土質ニテモ作り得ラル、
 ナリ唯病カ綿ヲ吹クノ際ニ霖雨ニ遇フキハ腐敗スルノ虞レアリ是レ在
 來種ト同様ナレハ是等ノ害ヲ避ケンカ爲メ務メテ早く成熟セシムルヲ
 要シ下種モ普通ノ期節ヨリ一層早キヲ宜シトス又肥料ヲ多分ニ與フレ
 ハ丈ク四五尺ニ伸ヒ多ク花ヲ附ルモ悉ク開クニ至ラスシテ氣候既ニ寒
 冷ヲ催シ爲メニ成熟ヲ遂ケサル者アリ故ニ瘠地ハ却テ之レヲ作ルニ便
 利ニシテ肥料ハ大抵當初一回ノ後ハ施サ、ルヲ宜シトス其肥量モ在來

種ノ四分一位ニテ足リ沃土ニ於テハ總ニ肥料ヲ施サ、ルヲ宜シトス
 澆水モ在來種ノ如ク數回ヲナスニ及ハス土地ニヨリテハ大抵澆水セサ
 ルモ可ナリ凡ソ柿ノ木ハ直根ナキモノ成熟ノ結果好シテ直根出ツル
 者ハ結果惡シ故ニ下種ノ前能ク地ヲ踏ミ固メ又其發生シ稍成長スルヤ
 其葉ト葉トノ距離近クシテ莖ノ矮キモノヲ存シ其葉ト葉トノ距離遠ク
 莖ノ長サ延ヒタルモノヲ間引クヲ專要ナリ是レ甲ノ形狀ハ直根ナキノ
 微ニシテ乙ノ形狀ハ直根ノ出タル微ナレハナリ又木ノ條暢ヲ制センカ
 爲メ莖頭ヲ摘ミ去ルヲハ在來種モ之レヲ爲セトモ陸地棉ハ殊ニ之レヲ
 勉メ其枝端ヲ摘ミ一枝ニ二個以上ノ萌ヲ附ケサルヲ宜シトス但シ枝端
 ヲ摘ミ去レハ多クノ枝芽ヲ出スガ故是亦勉メテ去ラサル可ラス要スル
 ニ此種ヲ作ルニ最モ注意スベキハ地味ヲ察シテ大ニ肥料ヲ節減シ應サ
 ニ成長シテ勉メテ莖頭ト枝端ヲ摘ミ去リ以テ枝葉ヲ妄リニ長大セシメ
 ス氣候ノ未タ寒冷ヲ催サトル内ニ棉花ヲ充分ニ吹キ熱セシムルニアリ」
 茲ニ近年ノ收穫ニ就テ二三ノ成績ヲ示サンニ攝津武庫郡鳴尾村ノ石橋
 市十郎氏ハ嘗テ棉花ヲ以テ名ヲ得タル人ナルガ其經驗ニ據レハ在來種
 ハ一反歩ニ對シ肥料金七圓ヲ要スレトモ陸地棉ハ僅カニ金二圓弱ニ過

キス而シテ其收量ハ陸地棉一反歩ニ四十九貫八百十五匁(此内上綿ハ四十
 貫目)ニシテ在來種ハ平均三十八貫目ニ過キスト又大阪府農學校員農學
 士岡田鴻三郎氏ハ一反歩ニ金七十五錢乃至一圓三十五錢ノ肥料ヲ以テ
 上綿三十貫匁乃至三十八貫匁五百匁層綿五貫二百匁乃至四貫百匁ヲ得タ
 リ又三重縣ニ於テ農學士柿崎給太郎氏等連年之レヲ試作シ最近三年間
 ヲ平均シテ陸地綿ハ五十七貫匁在來種ハ四十貫匁ノ收量ヲ得タリト又
 タ周防吉敷郡秋穂本郷村天田ノ原田助左衛門氏ハ明治五年圖ラス陸地
 綿種ヲ植始メテ試作シ頗ル好結果ヲ得タルヲ以テ爾來連綿之レヲ作リ
 傳へ明治十年内國勸業博覽會へ出品シテ花紋賞牌ヲ得同十三年ノ棉糖
 共進會ニテモ七等賞ヲ得タルモノナルカ今同人ノ說ニヨレハ陸地綿一
 反歩ノ收量ハ眞土上田ニテ實棉九十五貫匁乃至百貫匁砂質畑ニテ七十
 五貫匁乃至八十五貫匁ヲ最モ多シト眞土上田ニテ五十貫匁乃至五十五
 貫匁砂質畑ニテ三十八貫匁乃至四十五貫匁ヲ最寡トス而シテ在來種ハ
 最多トモ三十貫匁ヨリ三十二三貫匁ニ過キスト云フ又下總香取郡新島
 村ノ平山集吉氏モ去ル明治十六年中大隅贈嶽郡垂水ノ若松善右衛門ヨ
 リ陸地棉種ヲ得テ爾來連作スルヲナルカ一年ニ成熟期ヲ早メ收量モ

漸ク増加セシ由今昨廿六年ノ試作ニ係ル要項ヲ掲レハ作地二畝歩ニシテ其土性ハ河成沖積層質壤土之レニ五月二十七日下種シ六月一日ニ發芽レ肥料ハ糞灰二貫匁縮榨粕一貫匁ヲ施シ九月七日ヨリ十一月十日迄ニ收穫シテ上綿九貫八百匁中綿一貫四十匁下綿一貫五百匁ヲ得タリ之レヲ一反歩ニ積算スレハ即チ四十九貫三百六十匁ノ收量ナリト云フ又武藏國秩父郡太田村ノ富田忠七氏ハ明治廿四年陸地棉ノ良種ナルヲ開キ翌年僅カニ一畝歩許リニ試作シ發芽ノ際根切虫ノ害ヲ被リシモ遂ニ實綿二貫八百匁許ヲ收穫シ其種ヲ同郡大宮ノ人某及三河國ノ有志者ニ分與シタリト此他農學士橫井時敬氏ハ去ル十四年兵庫縣植物園ニアリシ時試ミニ園中最モ瘠地ヲ選ビ陸地棉ヲ栽エ之レニ施スニ些少ノ糞尿ヲ以テシタルニ莖ノ伸フルヲ尺余ニ過キサルモノハ悉ク萌ノ開絮最モ宜シキヲ得風之レカ棉絮ヲ飛スニ至ル而ノ同圃ニ相隣シテ栽ウルモ在來種ハ却テ好結果ヲ得ルコトナカリシト云フ

夫レ陸地棉ノ良種タルコト已ニ前記ノ如シ假リニ其收穫ハ在來種ト差異ナキトスルモ瘠地ヲ町トシ肥料ヲ要スル在來種ノ半量ニモ至ラス且ツ澆水等ノ手數ヲ要スル僅メテ少ナキニ於テモ陸地棉ヲ栽培スルノ利益

タルヲ知ルヘシ況ンヤ其收穫ノ多キヲ察セサル可ラサルナリ

● 縣下重要害蟲要錄
 稻ノ害蟲

一 螟虫(方) (カラ虫) (ズムシ) (ズイムシ) (薑虫) (サシ虫)

前年稻ノ刈株或ハ葉等ノ中ニ蟄伏セシ妙ハ其儘冬ヲ經過シ五月中旬ニ至リ蛹ニ化シ蛹ハ六月上旬ニ至リ羽化シテ蛾トナリ黄昏苗代中ヲ飛翔交尾シ生長能キ苗ヲ求メ苗葉又ハ岐ニ卵子ヲ産附ス其狀ハ尾吼ヨリ粘液ヲ出シ之ヲ葉面ニ塗り其上ニ卵子凡ソ百粒ヲ産附ケ更ニ其上ニ粘液ヲ塗り己カ尾毛ヲ振キテ卵子ノ上ニ覆ヒ蛾ハ數日ナラスシテ死ス卵子ハ凡ソ二週間ヲ經テ孵化シ幼ニ化ス其長サ凡ソ一分淡灰色ナリ此妙ハ漸次稻莖中ニ蝕入シ養液ヲ吸收シ終ニ稻ヲシテ枯死セシム後二週間ヲ經テ一回脱皮ヲナシ更ニ二週間ヲ經テ第二回ノ脱皮ヲ爲シ長サ七八分ニ長シ盛ンニ稻ヲ蝕害シ後二週間ヲ經テ七月下旬乃至八月上旬ニ至テ蛹ニ化ス蛹ハ前ノ如キ順序ヲ經過シ一年凡ソ二期ノ生育ヲ爲ス故ニ害ヲ及ホスヲ甚シク其遅ク孵化セシモノハ刈株又ハ殘株中ニ蟄伏シテ次年ニ生育ス

右島根外二郡役所答申
驅除豫防方法

- (一)五月頃ニ至リ苗代ニ於テ小蛾ヲ發生セハ黃昏ヨリ午後十二時頃燈火ヲ以テ誘殺スヘシ但シ風雨或ハ寒冷ノ夜ハ蛾ハ飛翔セサルヲ以テ点火スルモ其効ナシ別紙第一圖ノ如シ
- (二)毎朝苗代ヲ巡視シ捕虫網ヲ以テ苗ノ上ヲ輕ク拂ヒ蛾ヲ捕殺スヘシ又苗葉ヲ檢シ産卵スル者ハ拔キ深ク燒棄スヘシ別紙第二圖ノ如シ
- (三)稻苗植付後ハ時々田中ヲ巡視シ螟虫ノ蝨入セシ稻ハ拔キ採リ燒棄スヘシ
- (四)稻莖中ニハ第二期ノ螟虫潜伏スルコトアルヲ以テ之ヲ肥料トナスニハ牛馬ニ蹈マシメ堆肥トナスカ若クハ燒テ灰トナシ用ユヘシ
- (五)稻ノ刈株中ニモ潜伏スル者ナレハ被害ノ田地ハ寒中ニ耕シ凍死セシムヘシ
- (六)道路畦畔ノ藁ニモ亦潜伏スルコトアレハ春秋ノ候其枯草ヲ燒キ拂フヘシ
- (七)螟虫ハ肥大ナル稻莖ヲ好テ害ス故ニ細小ナル苗ヲ撰メハ其害少ナシ

以上ノ諸法ハ一人一己ニテ施行スルモ効益少ク殊ニ殺虫燈ノ如キハ僅カニ一二ヶ所ニ於テ施行スルモ遠近ノ螟蛾群飛レ來リ却テ害アリ故ニ一村若クハ一部落共同施行スルヲ宜シトス

右島根外二郡役所答申

又水源ニ糞糞或ハ煙草煙煎シ汁ヲ注キ刈稻ノ後ハ害虫ノ卵ヲ腐敗セシムル目的ニテ田面ニ水ヲ灌注シ翌年植付前マテ流通セシム

右仁多大原郡役所答申(高尾農會)

前年夏期以後水ヲ保タサル田ニ於テ四五月頃耕シテ水ヲ注入シシロ(寫紙ニテ田面ヲ耕紀スルヲ云フ)ヲ爲セハ無數ノ螟虫ハ水上ニ浮フナリ之ヲ蚊帳地ノ古キモノ杯ニテ手網ヲ作り掬ヒテ捕殺スルナリ此虫ハ刈上ケノ際稻根ノ中ニ潛ミ生キ居ルモノカ俄然水ヲ被リ泛キ出ツルナリ此時既ニ蛹トナリテ屠ルモノナリ

右出雲外二郡役所答申

掃秧後七日以内ナラハ秧ノ株上ヨリ刈株虫秧ヲ燒棄シ刈跡ノ田面ヘ水澆シ置クハ一夜ノ内新芽伸長シ秋收ニ大ナル害ナシ

右美濃郡役所答申

一 浮塵子(方) (ウシカ) (糠虫) (小糠虫) (油虫)

鹽極メテ細小恰モ粉糠ノ如シ故ニ方言糠虫ト云フ水氣多キ地窒素質肥料ニ富ム地ニ多ク生シ苗代ノ稻株等ニ卵ヲ放チ孵化シテ後翅ヲ生シ一分許ノ羽虫トナリ稻株ニ群集シテ養液ヲ吸収ス六月ヨリ九月迄ノ間發生シ其蕃殖ノ速カナル實ニ驚クヘシ

右島根外二郡役所答申

又

此虫ハ七月中旬ノ頃ヨリ發生シ仔虫ハ灰色ニシテ脱皮スルヲ四回ニシテ充分成長スレハ一分許トナル飛翔シテ稻ノ莖葉ニ産卵シ其蔓延ハ甚ク速カニシテ稻ノ液汁ヲ吸収ス莖葉悉ク萎凋シ遂ニ良實ヲ結フモノナキニ至ル

右松江市役所答申

發生ハ五月上旬霖雨ノ後南風ノ時必ス發生同月下旬苗葉ニ産卵ス六月上旬頃發生七月中旬蔓延同月下旬害多シ實況ハ養分ヲ吸収スル故ニ大ニ衰弱スルモ全ク枯死セズシテ麻除ニヨリ回復ス又七月下旬或

ハ八月中旬頃氣候ニ依リ再ヒ發生スルコトアリ

右能義郡役所答申(荒島村)

豫防驅除方法

(一)田地ニ水ヲ充タシ壹反歩ニ付三四合桐油又ハ石油ヲ注キ笹ヲ以テ稻莖ヲ掃ヒ虫ヲ落シ後水ヲ排除シテ虫ヲ流スヘシ尙次ノ土地へ該水ヲ送ラントセハ其水口ニ芥ノ類ニテ受ケ此ニ死虫ヲ集ムヘシ此法ハ浮塵子ノ未タ羽化セサル時ヲ良トス

(二)前年此虫ノ發生セシ田ハ稻ノ刈株ニ石灰ヲ施スヘシ

(三)道路畦畔ニアル雜草中ニハ此虫潜伏スルモノナレハ秋期若クハ翌春燒キ拂フヘシ

以上島根外二郡役所答申

(四)松明ヲ照シ其火ニ該虫ノ集リタルキ之ヲ振り廻シテ燒殺ス

右松江市役所答申

油殺法ヲ施スニハ田面ニ水ヲ湛シ日中ニ一人ノ農夫前ニ立テ進行シツ、油ヲ注キ一人ノ農夫後ヨリ箒ヲ以テ拂ヒハ該虫ハ墮落シテ油ノ爲メ死ス而シテ水ハ排出スヘシ油ハ桐油魚油石油何レニテモ可ナリ

只求ムルニ便且ツ安價ナルヲ以テスルニアリ量ハ加害ノ輕重ニヨリ

壹反歩ニ付四合乃至八合ノ間ニアリ

右出雲外貳郡役所答申

一實盛虫(アブラ虫)

大サ四五分形蟬ニ似テ綠色ナリ六七八月ノ交發生シ稻ノ養液ヲ吸收

ス

又

此虫ハ浮塵子ノ種屬ニシテ六月上旬ノ頃卵子ヨリ孵化シ孵化ノ際ハ翅ヲ生スルヲナキモ爾後脱皮スル毎ニ成長シテ終ニ翅ヲ生シ其加害ノ狀況ハ浮塵子ト同シク主ニ稻草ノ養液ヲ吸收ス

右松江市役所答申

豫防驅除法

螟虫ト同シク燒火ヲ以テ誘殺スル外他ニ良法アルヲ聞カス

右島根外二郡役所答申

又

浮塵子ニ同シ

右松江市役所答申

一苞虫一名(ハマクリムシ)

此虫白糸ヲ吐キテ稻ノ葉一枚ヲ綴リ日中ハ此中ニ潜居シ夜間出テ稻葉蠶蝨ス漸次成長スルニ及ヒ更ニ稻葉二三葉ヲ巻合セ其中ニ潜居ス(發生ハ七月下旬ヨリ八月下旬ノ頃マテナリ)六七月ノ頃ハ大サ一寸餘トナリ卷葉中ニ在リテ蛹トナリ羽化シテ蝶トナリ交尾シテ卵ヲ葉裏ニ産附シ數日ニシテ孵化ス

右島根外二郡役所答申

驅除法

田中ニ於テ目撃セハ之ヲ捕殺スルノ外他ニ良法アルヲ聞カス

右島根外二郡役所答申

石油壹反歩ニ三合計ヲ注キテ長壹尺五寸位ノ
四本ヲ集メ中程ヲ
東ヲ恰モ扇子ノ地骨ノ如クナシタルモノヲ持テ稻葉ヲ苞ミ蠶虫ヲ徐
カニ振キ上ルトキハ葉ハ解ケテ虫ハ水中ニ落テ速死スルモノナリ

一螟蛉(青虫)

此虫ハ六月上旬ノ頃秧苗移植ノ后十日許ヲ經テ發生シ其形稍尺蠖ニ類シ概チ二分許ニシテ全身綠色ナリ而シテ該虫ハ北東ノ風連日吹ケハ蔓延シテ稻葉ノ表裏ニ附着シテ莖葉ヲ蝕盡スルモノナリ

右松江市役所答申

又

五月中旬ヨリ發生七月下旬ニ死ス云々

右龍義郡役所答申(龍義村)

毎年定期ニ發生スルモノニアラスシテ五月下旬ノ頃非常ニ冷氣ナルカ成ハ霖雨ノ際發生シ六月下旬蔓延シテ同月中旬加害最モ多シ其害ハ稻葉ヲ喰ヒ落スカ故ニ稻ヲ衰弱セシムルコト甚シ再ヒ六月中旬産卵セシモノ同月下旬發生シテ七月上旬蔓延同月中旬亦前ノ如キ害アリ

右龍義郡役所答申(荒島村)

驅除法

發生ノ當時即チ本月上旬ニ至リ田ニ水ヲ注キ晴天ノ日ヲ撰ヒ米糠ヲ一反歩ニ付二升許ヲ撒布シ直ニ篠竹或ハ草箒ヲ以テ稻葉ヲ攪拌スレ

ハ虫墮落シテ死スルコト迅速ナリ

右松江市役所答申

又

壹反歩之田面ヘ米糠壹斗ヲ能ク煎リ田面ニ撒布シ云々

右龍義郡役所答申(廣瀬町)

四月下旬手網ニテ撈ヘ取り又豫防法ニシテ苗代周圍田畦ノ草ヲ燒キ拂フ等ナリ

右岡郡役所答申(龍義村)

手網ヲ以テ捕獲シ或ハ苗代一坪ニ米糠壹合五勺ヲ撒布シテ葉竹ニテ掃落ストルハ死ス

植付后發生シタルトキハ田面ニ深サ三四寸ノ水ヲ溜メ壹反歩ニ米糠

五斗ヲ撒布シ葉付ノ竹ニテ掃ヒ落セハ死ス而シテ二時間ヲ經テ水ヲ

灌注シ田水ヲ交換セハ第一回ニテ悉ク斃死ス

右龍義郡役所答申(荒島村)

一蟲蠶

此虫ハ六月下旬ヨリ發生シテ十一月頃ニ至テ死ス蔓延スルコトアルモ

原由不詳被害ハ稻葉稻穗ヲ喰ヒ切ル等其害少ナカラス
右能義郡役所答申(能義村)

豫防驅除法

植付後六七月ノ頃糠ヲ種田ニ撒布シテ之ヲ殺シ又豫防法トシテ苗代
田近傍ニテ畦車ヲ燒キ拂フコトアルノモナリ
右能義郡役所答申(能義村)

六月中旬ノ頃該苗五寸位ニ生長セシトキ五六寸ノ水ヲ溜メタルトキ
ハ該虫悉ク水上ニ浮ヒ腫ニ殖集ス其時石油ヲ撒布スレハ死ス

一 泥虫(方) (ワ) (シ) (チ) (サ) (ガ) (ー) (ア)

稻植付後三四十日ヲ經(凡六月下旬)解化シ水中泥土ノ内ニ潜伏シ背ニ
泥土ヲ負フ日没ヨリ出テ稻葉ニ嚙テ翌朝日光ニ照ラルハマテノ間其
軟部ノ液ヲ吸収シ種ノ發育ヲ妨ク甚シキニ至テハ田面白クニ變ス
ルヲアテ然レハ濕潤ノ氣候ニ遇フテ發生シ殊ニ陰虫ナルヲ以テ夏土
層中晴天續クハ自ラ消失シ稻禾ノ生育恢復スルヲ常トス
右能義郡役所答申

豫防驅除法

稻葉ニ露ノアル中風上ヨリ石灰ヲ散布スレハ蟲衰弱シテ消失スルコ
トレハ益々多ク變シ難シ竹竿ニ露ヲ付テ朝露ノアル中稻葉ヲ徐々ニ
攪擾シ該虫ヲ露中ニ搦採シテ火殺スルヲ勝レリトス
右能義郡役所答申

晴天ヲ見計ヒ米糠ヲ一反歩ニ五六升位ヲ蒔キ散ラシ直チニ竹ヲ以テ
苗ヲ掃ケハ容易ク露ヲルナリ米糠ハ此虫ノ最モ忌ムヘキモノカ一時
ニシテ忽チニ死ス其後直ニ排水シテ新水ヲ入ルハナリ
右出雲外二郡役所答申

石灰木灰等ヲ朝露ノ乾カタル内ニ散布ス
右能義郡役所答申

一 尺蠖

此虫ハ採秧后青色ヲ帯ヒタル頃發生シ稻葉ヲ喰ヒ大ニ生育ヲ害ス其
甚シキニ至リテハ一面稻莖ヲシテ赤色ニ變セシム而シテ該虫ハ有機
物肥料ヲ多ク食ヒ腐敗セナル所ニ多ク發生スルモノナリ
右出雲外二郡役所答申

豫防驅除法

藥除法ハ有機物肥料ニ注意スルニアリ而シテ二三ノ該虫ヲ發見セシ
時ニ必ス捕獲スヘシ
右出雲外ニ那役所答申

一 葉捲虫

此虫ハ六七月頃羽化シテ直ニ交尾シ卵ヲ稻葉ノ裏面ニ産卵シ七八
月ニ至リ老熟ス

右美濃郡役所答申

此虫ハ七八月頃葉果劇急ナル候ニ發生シ稻葉ノ裏面ニ産卵シ凡五六
日ヲシテ孵化シ後蛹化蛾成ノ順序螟虫ニ大異ナシ

此虫ハ孵化スルヤ直ニ白糸ヲ吐キ稻葉一枚毎ニ捲合シテ巢トナス
日中之ニ潜伏シ夜間出テ、稻葉ヲ喰ヒ甚シキハ滿田闊脚ノ如キ看ヲ
呈スルニ至ル

右鹿足郡役所答申

驅除法

蛾ヲ點火燒殺シ卵ハ勉テ除草ノ時捕殺ス

右美濃郡役所答申

一 泥虫(方)(ヌマ虫)

此虫ハ春季苗代ニ發生シ卵ヲ稻葉ニ産ミ若ク後孵化シテ稻葉ノ軟部
ヲ喰フ其成長スルニ及ンテハ小笠狀ノ甲虫トナリテ再ヒ産卵ス其成
長速ニシテ四月ヨリ七月迄ノ間ニ數回ノ再生ヲナス然レトモ一朝暴
風ニ遭フコトアレハ忽チ流亡シ又七八月ニ至レハ自然消滅ス

右隱岐嶋縣答申

一 棒象(方)(セントク)

六月初旬頃發生シ最初畦畔ニ接シタル稻株ニ集リ漸次全面ニ蔓延シ
八月頃産卵シテ直ニ孵化シ十月頃卵子成長シテ出穂ノ際再ヒ稻ノ
養液ヲ吸取シテ終ル其害少ナカラス

驅除法

發生スルニ隨ヒ稻ノ每株ニ就キ之ヲ拾取スルカ若クハ田面ニ水ヲ充
滿シ鯨油ヲ流シ置キ掃ヲ以テ掃キ落シテ驅除ス

右隱岐嶋縣答申

一 根虫

入梅后十日頃ヨリ發生スル蛆ニシテ稻株ノ細根ノ間ニ付卵ス其形狀

色澤恰モ小麦粒ヲ連綴スルカ如シ故ニ小麦虫ノ名アリ孵化シテ白蛆トナリ稻根ヲ害ス后一ノ小蛛トナリ飛翔ス此間凡三十日ナリトス尤モ此虫ハ濕地ニ限リ發生ス故ニ雨量多キ年ニアリテハ多ク發生スルヲアリ

驅除法

稻苗植付ノ際灰ヲ散布シ或ハ胡桃木ノ葉ヲ田面ニ散布スレハ之レカ害ヲ免ルヘシ

右隱岐島廳答申

麥虫ノ部

一 根(土)虫

長サ凡八分許色黒ク最モ短キ毛ヲ生ス春四月頃畦畔ニ産卵スト云フ此虫ハ十月下旬稻ヲ刈リ取り麥田トナシタル日ヨリ四五日間ニシテ發生地中ニ潜伏シ麥ノ發生ヲ俟テ根ヲ喰ヒ全圃悉ク枯死セシムルヲアリ濕地ニ多ク生ス

右嶋根外二郡役所答申

驅除豫防法

(一)稻ヲ刈リ取りタルトキハ速ニ麥田トナス等排水ヲ能クシ畦畔ヲ高クスヘシ

(二)麥播種前ニ於テ藪前ノ葉ヲ撒布スレハ根虫其葉ニ喰付ク之ヲ集メテ燒棄スヘシ

(三)播種ノトキ煤油ノ類ヲ上肥トシテ施ス効アリ

(四)播種後石灰水ヲ施スモ効アリト云フ

右島根外二郡役所答申

一 アマコ(方言)

年ニヨリ出穂ノ際麥穗ニ寄生ス此虫ノ寄生スルヤ麥實ノ成育ヲ妨ケ爲メニ熟實セテラシムルニ要ル

右島根外二郡役所答申

驅除法

木灰ヲ撒布スルカ或ハ苦鹽汁一升ヲ水一荷ニ混和シ日中之ヲ撒布スルヲ良トス

右島根外二郡役所答申

一 野虫

五月上旬頃ヨリ十月下旬頃迄時々發生シ其種類モ甚タ多シ何レモ麥大小豆、大角豆、綿、藍其他蔬菜類及菓樹ノ嫩芽等ノ軟部ヲ刺傷シ其養液ヲ吸奪ス其蔓延ノ迅ナルヲ他ノ害虫ノ比ニアラス

驅除法

發生ノ當時煙草ノ莖五十目ヲ水貳升五合ニ煎出シタルモノ或ハ生石灰汁ヲ澆キ又ハ朝露ノ未タ晞カサル間ニ煤ヲ散布ス

右松江市役所答申

一金龜子(コガナムシ)

黒色ノ甲翅虫ニシテ大根類ノ根際土中ニ潛ミ日中ハ出テ喰フ慘害甚シキニ至テハ全圃作物ヲ見サルニ至ル

右島根外二郡役所答申

四月ヨリ九月ニ至ル間ニ蕪菁、蘿蔔其他ノ葉菜類ヲ咀嚼シ其ノ葉脈ニ傷ヲ産卵ス而テ五六日ヲ經テ妙トナリ之ヲ方言(ベクニンムシ)(セカトムシ)ト云フ十五日ヲ經テ土中ニ入りテ甲虫即チ金龜子ニ化成スルモノナリ

右松江市役所答申

球防驅除法

(一)此虫ノ多ク發生スル地ハ普通播種期ヨリ數十日前大根類ノ類ヲ下種發芽セシムヘシ然ルハ該虫多ク集マルヲ以テ其際悉殺シ其跡ヲ掃除シテ播種スヘシ

(二)本圃ニ發生セハ粘土ヲ棧等ノ器ニ容レ水ニ溶キ石油ヲ混シ細竹ニ塗リ付ケ圃中ニ於テ捕殺ス

(三)胡麻ヲ搗碎キ水ニ和シタルモノヲ藪箒ニテ注射ス

(四)シブキノ葉ヲ煎シ其汁ヲ撒布スルモ効アリ

右島根外二郡役所答申

發生ノ初ニ當リテ膠、黏、漆、漆膏及粘土等ヲ塗抹セル木板ヲ以テ蟲ニ觸レハ其ノ粘力ノ爲メニ體ハ不自由トナリ捕殺スル容易ナリ
又魚類ノ腐敗セルモノ或ハ魚腹ノ鹽辛一升ニ水四升許ヲ溶シ一旦沸煎セシメ放冷ヲ待テ草蓆ノ類ニテ注クトキハ此虫ノ忌避スルノヨナラス又肥料トモナルヘシ

右松江市役所答申

農報第一號

アセビ木(鐵金紫トモ云フ)ノ葉ヲ剥キ桶ニ入レ熱湯ヲ注キ之ニ木灰ヲ混シ暫時ニシテ之カ汁ヲ取リ菜島ニ撒布スレハ害虫大概死ス

右能義郡役所答申

一地蚕(ヨトウ)(ゴウシヤウ)
此虫一寸五分許ニ長スレハ地中ニ於テ蛹化シ后蛾トナリテ植物ノ下部又ハ葉ニ産卵ヲ日中ハ多ク根際ノ土中ニ潜伏シ植物ノ莖ニ登リテ嫩芽ヲ咬ム

右島根外二郡役所答申

豫防驅除法

根際ヲ穿テ捕殺シ又石灰煤等ヲ早朝若クハ夕刻被害地ニ撒布ス

右島根外二郡役所答申

作物ノ畦畔ヲ淺シ堀上ケ古竹及藪ヲ布キ其害ヲ避ケ或ハ種子ニ少量ノ硫黄末ト煤ヲ混シテ播付ケ又ハ日々圃場ヲ見廻リ其被害作物ニ就キ根際ヲ掘リ該虫ヲ採殺スルノ外良法ナレ

右松江市役所答申

一 鱒蟻(キヲウシ)

八十八夜頃ヨリ入梅頃土中ニ蟻患シ植物ノ根ヲ喰フ其害甚シ

右島根外二郡役所答申

驅除法

(一) 茄子類ハ此虫ノ好ムモノナレハ之ヲ截斷シテ畑ノ周圍敷ケ所ニ置キ其上ヲ藪藪等ヲ掛ケ置クトキハ此處ニ集ル其時藪火ヲ焚テ燒殺ス
(二) アセビノ木ノ葉ヲ粉末トナシ少量ヅ、種子ノ元ニ置クハ該虫來ラスト云フ

(三) 畑ノ四圍溝ヲ堀リ水ヲ溜メ置ケハ來ラス

右島根外二郡役所答申

一 瓜虫(方) (シウアンムシ)

此虫ハ南瓜、胡瓜、西瓜等鹹菓類ヲ害スル羽虫ニシテ日中飛來テ葉芽ノ軟部ヲ蝕害ス

豫防驅除法

(一) 此ノ虫ハ最モ日蔭ヲ忌ム故ニ發芽後暫ク周邊ニ葉ノ付着シタル木枝ノ類ヲ以テ日光ヲ覆フヘシ
(二) 傘ノ類ヲ蓋テ作物ヲ覆フハ其裏ニ止リ飛去ラス之ヲ捕殺スヘシ

農報第一號

(三) 小板等適宜ノモノニ粘(モナ)ヲ塗り振り回スルハ之ニ附着ス
(四) 手網ヲ以テ捕殺スルモ便ナリ
右島根外二郡役所答申 (未完)

● 杉檜栽培實驗講義

若槻佐一郎述

第一章 苗木ニ關スル事

栽種法

杉ハ秋彼岸ヨリ四十日下リ扁柏ハ卅日下リ採種スルヲ普通トス尤モ土地ト氣候トニヨリ多少早晚アルヘシ杉種ハ降雪マテ脱散セサルモノナレハ季節ヲ失ハサル様注意採種スヘシ種ヲ採ルニハ樹幹ニ負傷セサル様下方ノ枝十分六ヲ切り落シ枝端結果アル部分一尺位ニ切斷シ之ヲ陰所ノ空氣流通能キ所ニ越テ布キ立並ヘ乾キテ鱗球ノ開口シタルキ種子ヲ脱シ之ヲ廣間ニ溢紙ヲ布キ其上ニ散布ノ陰乾ニシテ充分乾キタルキ筈ヲ以テ精糞スルナリ又遠方ノ山ニテ採種スルキハ切り落シタル枝ヨリ直チニ種球ノミ採取シ之ヲ陰乾シテ其開口シタルキ採取スルヲ前ニ同シ杉ノ鱗球山盛一升ヨリ種量一合ヲ得其數二万五千粒位豐熟シタル大粒ハ二万二三千粒扁柏ハ一合ノ數二万二千粒位ヲ通例トス然レハ此種

悉ク發生スルモノニアラズシテ一升ノ種子ヨリ完全ナル苗木凡ソ一万本ヲ得ヘシ又結果少キ年ニハ全枝ノ球果悉ク採取セザレハ需用ヲ充ス能ハス如斯時ハ上方全樹十分ノ四ノ枝ヨリハ竹製割鋏ヲ以テ枝端ヲ剪採スヘシ而シテ採種スルニハ須ラケ左ノ數項ニ注意スヘシ
一 母樹ハ若木ハ不可ナリ百年前後ノ喬樹ヲ擇ブベシ是レ予ガ多年試驗ノ結果ナリ
二 異狀不勢ノ樹ヨリ採種スヘカラス
三 鱗球非常ニ夥多ナルモノヨリ採種スヘカラス是レ材色悪シキモノ多ケレハナリ
四 綠色枝葉ハ樹木ノ肺及胃ノ働キヲナスモノナレハ全枝十分六以上ヲ伐切スヘカラス其度ヲ失スル時ハ樹木大ニ衰弱シ生長ヲ停止スルノナラス甚シキニ至ラハ遂ニ枯死スルニ至ルモノナレハナリ
割鋏ノ製法 周圍凡ソ五寸回位把握ニ便ナル長サ適宜ノ竹ヲ用ヒ先端ハ左右ヨリ削リ之ヲ割リテ嘴ヲナレ嘴ハ左右稍長サヲ異ニス内邊ハ適宜ニ削リ八寸位下部ヲ圓本ノ葉ヲ以テ紬ヒタル繩篋メ三回シテ長嘴ノ背ニ於テ角結ヲナス此角結ハ採種ノ際長嘴ノ目標トシ枝端ヲ挾ムニ便

スルモノトス

種子貯藏法

種子ハ薄延若クハ具坐等ニ一斗以内ヲ一屯トシ籠ク括リ空氣流通能キ乾燥ノ軒裏ニ吊リ置クヘシ水車其他水器ノ發散スル所ハ深ク忌ムヘシ

苗床ヲ論ス

苗床ハ從來白田ニスルヲ普通トセシカ子感スル所アリ水田ヲ供用スルヲ工夫セリ其利害左ノ如シ

一畝ニテ苗ヲ作ルキハ春ノ乾燥ト夏ノ旱魃ニヨリ苗木ヲ損スル勢ナカ

ラス而シテ之ニ灌水スルニハ多クノ人工ヲ要セサルヘカラス然ルニ水

田ニ之ヲ設タルキハ灌水スル事自在ニシテ大ニ人夫ヲ省クヲ得

二苗床ニハ鼠ノ害勢ナカラス大ニ當業者ノ苦ム所ナルカ水田ニテハ

其周圍ニ溝ヲ穿テ深サ二寸位水ヲ溜メ置クキハ決シテ該獸ノ侵害ス

ルヲナク大ニ人夫ヲ減シ苗木ハ最も安全ニ生育ス

三旱魃ノ際ハ施與シタル肥料ノ溶解遲緩ニシテ其効ヲ發表スルヲ少シ

然ルニ水田ハ灌溉自在ニシテ常ニ適度ノ滋潤ヲ得肥料ハ充分働キ苗

木最も能ク生長ス水ヲ用フルハ播種ヲ終リタル間日ヨリ四方ノ溝ニ

農報第一號

農報第一號

溜メ秋末土龍ノ害ナキ頃ニ至リ除キ去ルヘシ

四雜草ハ苗木ノ負ケタル機時々除去セサルヘカラス然ルニ旱魃ノ際ハ

之ヲ抜キ取ルニ際シ動モスレハ地ヲ動シ幼苗ヲ枯損スルコトアリ然

ルニ一夜間水ヲ灌漑スルキハ最も安全ニ除艸スルヲ得就中重粘性

ノ土地ニ於テ然トス

五再作ノ際ハ灌水ノ効特ニ顯著ニシテ灌水スルト否トハ其發育ニ關ス

ル最も大ナリ而シテ水田ハ此洪澤ニ浴スルヲ得

六水田ニテハ苗ノ直根延長セス根多ク簇生シ移植容易ニシテ且生活

シ易シ

以上六項ノ事實ヲ看來ラハ水田ノ最も苗床ニ適當スル事ヲ知ルヲ得ヘ

シ而シテ水田ハ水ノ進退自由ニシテ旱魃ト雖モ水源涸渴セサル地ヲ擇

フヘシ地質ハ粘土ヲ好マス土交リノ砂土ヲ可トス地勢ハ北向ヲ佳ト

スレハ何レニテモ妨ナシ

苗床ノ整地

早稻ヲ作り收穫ノ后ハ土地乾燥スルヲ待テ人糞ヲ注キ直チニ耕シ土ヲ打碎キ周圍ニハ上口二尺底幅一尺位深キハ底土二寸位穿ツテ度トシ

テ溝ヲ作り其堀リ上ケタル土ハ全面ニ擴散シテ乾シ置キ又晴天ヲトシ人糞ヲ澆キ直チニ糶キ返シ斯ノ如クスルヲ秋三四春三四ニシテ全ク床地ヲ整理ス

苗床造法

苗床ヲ造ルハ春ハ彼岸後ヲ通常トス尤モ土地ノ寒暖年ノ氣候等ニヨリ多少異ナルヘケレハ要スルニ土地乾燥セハ成ヘク早キヲ佳トス之ヲ造ルニハ土ヲ能ク打チ碎キ床地ノ状態ニ隨ヒ邊隅ノ徒廢セサル様幅四尺溝幅二尺長サハ適宜ニ區畫シ町幅ニ溝地ヲ堀リ上ケ高サ四寸位ノ壟ヲ作り幅四寸厚サ八分長サ四尺五寸ノ地均板ヲ持チ締密ニ壟土ヲ平ラシ壟幾通アルモ四方ヨリ眺メ高低ナキ様均一ニスヘシ此ノ如クスルハ漫ニ美ヲ好ムニアラス旱魃ノ際水灌クハ平等ニ滋潤ヲ得セシムルニ便スレハ也此地平シ終レハ種覆ノ爲メ板ヲ以テ壟土ノ細土ヲ一様ニ片側ヘ削リ落シ若シ少キ草根アレハ注意除去スルヲ要ス

播種法

(種蒔用土ハ秋苗床ト反對ナル色ノ土ヲ取リ軒内ニ乾シ置クナリ)

播種ノ際ハ前年秋取リ置キタル種蒔用土ヲ取リ出シ一坪ニ付三升ノ割ヲ以テ庭ノ上ニ量リ置キ之ニ適量ノ種子ヲ混合シ少シク分水ヲ與フヘ

農報第一號

農報第一號

シ其適度ハ「シツタリ」ト濕氣ヲ有ナ手ニテ蒔リハ指間ヨリサヲト散注スル位ヲ度トス此水濕ヲ與フルハ種子ト土ト相偏セシメサルカ爲ナリ混和土ハ必ラス床土ト異色ノモノヲ擇フヘシ是レ播種ノ際種子ノ厚薄ヲ見易ケレハナリ土ノ調和了レハ之ヲ適宜ノ小桶ニ入レ苗床ニ運搬シ覆土ノ攪キ落シナキ方ニ進ミ良種ナレハ一坪壟幅四尺ナレハ長サ九尺ヲ以テ一坪トス三合下等ノ種ナレハ五合位ノ比例ヲ以テ懸ロニ播キ付クヘシ此時混和土ハ其色床土ト異ナレハ種子ノ厚薄ハ一見能ク識別シ得ヘケレハ耕ナキ様注意スヘシ播キ了レハ前ニ播キ落シアル土ヲ手ニテ丁寧ニ振り掛ケ混和土ノ稍見ユル位ヲ度トシテ平均ニ土ヲ覆フヘシ此覆土ハ混和土ト其色異ナレハ能ク其厚薄ヲ見別シ務テ不同ナキヲ要ス若シ不同アレハ發芽等シカラサレハナリ而シテ地均板ヲ以テ手心ヲ決シ甲乙ナキ様一方ヨリ漸次輕ク打チ締ムルヲ法トス是レ水氣ヲ平均ニ保チ澆リニ之レヲ發散セシメス種子ノ發芽ヲシテ均一ナラシムルニ在ルナリ

苗床日覆ノ事

冬日農家閑暇ノ際葦草ヲ編製シ置キ播種了レハ之ヲ覆ヒ其上ニ杭木竹

竿等ヲ載セ置クヘシ氣候ノ寒暄ニ由リ迅速アレハ凡ソ十四五日ニシテ
 發芽スルモノナレハ其頃ニ至レハ日々種ヲ揚ケテ之ヲ檢シ發生スルヲ
 見レハ直ニ苦ヲ除クヘシ若シ之レヲ忘ルハ嫩芽苦ニ穿入シ之ヲ除
 クハ脱根或ハ切斷等其害ヲ免レサルモノナリ而シテ盤ノ兩側一間毎ニ
 杭ヲ打チ長サ四尺五寸ノ横竹ヲ括リ其上ニ長竹ヲ三條ニ架シ取除キタ
 ル萱苦ヲ其上ニ覆フヘシ屋根(覆苦ヲ云フ)ト盤トノ間二尺ヲ度トス而シテ
 其屋根裏花壇盤ヲ云フ)等ノ塵芥ヲ掃除シ東南西ノ周邊ニハ屋根端ニ藪
 苦ヲ吊シ以テ日光ノ直射ヲ防ク之レヲ取リ除クニハ土用已ニ謝シ暑氣
 稍減シタルハ微雨ノ日ヲトスヘシ若シ漫ニ之ヲ取リ除キ即日ヨリ炎熱
 甚レキハ苗木衰弱スルモノナレハ必ラス曇雨ノ日ヲ擇ヒナスヘシ苦
 ヲ除キ一日乃至二日間烈シク日光ノ直射セサルトキハ苗ノ勢力固定爾
 後晴夫ナルモ著ク枯衰スルノ患ナシ
 萱苦製造法 長サ適宜幅四尺五寸ニシテ繩ヲ以テ四通編ミ一編ミニ萱
 三本ツヽヲ加ヘ次編ニ於テ屈折シ必ラス其本末ノ交互スル様製スヘシ
 麥奴トハ農家カ折角丹精シテ培養シタル麥ノ實ヲスシテ黒種トナル病

●麥奴豫防話

農學士 澤野 淳

ノ事ヲアリマス此病ノ出來ル原因ニ就テハ昔ノ人ハ大抵其年ノ氣候若
 クハ肥料ノ加減ニアルモノ、如ク信シテ居リマシタカ今ハ農ノ學問モ
 追々進歩シテコノ病ノ原因ハ全ク學名ヲ「ゆすちら」と稱スル一屬ノ穀
 炎菌ニシテ其年ノ氣候若クハ肥料ノ加減ノ如キハ唯其病勢ノ加フルト
 衰フルトニ關係スルモノナアルコトカ明ニナリマシタレ故ニ此病ノ
 原因トナルヘキ穀炎菌ノ孢子ヲ除クハ如何ナル年ニ如何ナル肥料ヲ施
 スモ決シテ黒種ノ生スルモノナアリマセン外國ニテハ數十年前ヨリ學
 理ヲ應用シテ麥種ニハ種々ノ豫防藥ヲ混合シ害菌ノ孢子ヲ殺シテ播種
 致シテ居リマス本邦ニテモ外國ノ方法ニ習ヒ種々ノ豫防ヲ施シテ試驗
 セシニ中ニハ随分効能ノアルモノモアリマシタナレトモ何分藥品ヲ施
 シテ豫防スルコトハ本邦ニテ一般農家ニ行ハレ得ヘキコトナリマセ
 シテ故ニ農業者ハ固ヨリ農事ノ改良ニ熱心ナル人々ハ其簡便ナル豫
 防法ヲ發見セント種々ノ試驗ヲ爲シツヽアリマシタカ明治四年頃老農
 船津傳次平氏ハ農商務省ノ御用エテ岐阜縣ヲ巡回中或農談會ニ臨マレ
 タルトキ談話偶々麥奴豫防ノコトニ及ヒシニ會員中麥種ヲ灰汁ニ浸セ
 ハ之ヲ豫防シ得ヘシト説ク者カアリマシタナレトモ當時此説ヲ信スル

農報第一號

者ハ罕レテアリマシタ然ルニ船津氏ハ翌年右ノ法ヲ舊駒場農學校ニ於テ大小麥ノ種子ニ就キテ試驗セシニ果シテ其効驗ノ著明ナコトカ判然シマシタ爾來近年マテハ麥種ヲ灰汁ニ浸シテ豫防スルヲ最モ簡易ニシテ且ツ効能ノ大ナル方法トシテ居リマシタ然ルニ明治廿二年ノ頃噠馬國ノ農學士某ハ大麥ノ種子ヲ華氏百三十度内外ノ温湯ニ五分時間浸セハ麥種ニハ無害ニシテ麥粒ニ付着スル穀炭菌ノ胞子ハ死滅スルヲ以テ麥奴豫防ニハ著ルキ効アルコトヲ發見シ之ヲ世ニ公ニ致シマシタ仍テ西ヶ原ノ農事試驗セラレシニ其成績ハ顯著ナル効能ノアルコトヲ確メマシタ即チ左ニ記スハ昨年豫防サレタル試驗ノ成績ヲアリマス

麥種ヲ五分時間浸シタル湯ノ温度
 各五畦中ニ生シタル
 黑穗ノ數
 一本
 無シ

華氏百二十四度
 同百二十七度
 無シ

無豫防(湯ニ浸キタルモノ)
 千八百四十七本

右試驗ニ用ヒタル麥種ハ前年甚シク麥奴ヲ生シタル畑ヨリ收穫シタル大麥「こるでんゆらん」ニシテ之ヲ豫防スルニハ水一斗ニ食鹽四升ノ割合ニテ製リタル鹽水ニテ麥種ヲ精選シ塩氣ヲ洗ヒ去リテ灰汁ノマシ豫防メ用

農報第一號

意シタル温湯中ニ五分時間浸シ薄ク煎ニ續ケ太陽ニ晒シ乾カセシモノニテアリマス

右ノ豫防法ハ極メテ簡便ニシテ且ツ効驗モ著明ナレトモ唯寒暖計ヲ使用セテハナラヌト云フ不便カアリマス現今普通農家ニシテ百二十度以上ノ温度ヲ計ルヘキ寒暖計ヲ所有スル者ハ甚ク稀テアリマスナレトモ追々農事ノ改良ヲ爲サントスルニハ寒暖計ノ一個位ハ是非備置タキモノト考マス設一家ニ一個ヲ有セサルモ數名ノ共有トナサハ僅ニ五十錢内外ノ代價ノモノテアリマスカラ一家二三錢多クモ十錢モ出シ合ヘハ購フコトノ出來ルモノテアリマス又五分時間ヲ計ルニハ手ノ脈ヲ數フレハ別ニ時計ヲ用フルニ及ヒマセン即チ一分時間ニ七十回ノ脈ヲ打人ナレハ五七……三百五十ヲ數フレハ五分時間トナル割合テアリマス

温度豫防法ハ前條記載スルカ如ク大麥ニハ効驗著明ナルモ小麥ニハ毫モ効ヲ奏シマセンカラ小麥ノ麥奴豫防ニハ矢張コレマテノ如ク灰汁豫防法ニ依ルヨリ他ニ良法ハアリマセン左ニ記スルハ昨年西ヶ原ノ農事試驗場ニ於テ施行サレタル試驗ノ成績テアリマス

小麥種ヲ浸シタル灰汁ノ濃淡
 各四畦ニ生シタル黑穗ノ數

木灰一升水一升ノ割合ニテ取リタル灰汁 七十一本
木灰一升水二升ノ割合ニテ取リタル灰汁 百九十四本
無毒防(灰汁ニ浸サス) 五百五十四本

此試驗ニ用ヒラレタル小麥種ハ前年甚シク麥奴ヲ生シタル畑ヨリ收穫シタル「ド、オ、ストラリー」ト稱スル西洋種ニシテ之ヲ豫防スルニハ七月中旬ヨリ九月中旬ノ間ニ小麥種ヲ蘆朮水ニテ浸種シ直ニ前記ノ灰汁ニ浸シ(種ヲ浸スニハ成ル可ク冷キ場所ニ於テ)ス四十八時間乃至六十時間ヲ經テ之ヲ取リ出シ薄ク蒸ニ漬ケ太陽ニ晒シテ成ル可ク速ニ乾燥シ秋ノ播種期マテ俵ニ入レテ保存シタル者ヲアリマス此ノ如ク灰汁豫防法ハ大麥トモニ効驗著明ナルモ其効驗アルハ果シテ如何ナル理由ノ存スルアリテ然ルカ其所含ノ「アルカリ」ニ歸スルカ又他ニ原因ノアルカヲ判明ナラシムルノ目的ニテ各種ノ「アルカリ」溶液ヲ製シ灰汁ト同一ノ方法ニテ小麥種ヲ豫防シテ試驗サレタルニ其結果ハ灰汁ト同様ノ効驗ヲ顯ハシマシト即チ左記ノ通りテアリ升

「アルカリ」溶液ノ強弱 各二粒ニ生セシ黒穂ノ數
甲水一貫目ニ苛性加里七枚三分ヲ溶解ス 三本

乙同三枚七分ヲ溶解ス 二十四本

丙水一貫目ニ苛性曹達三枚七分ヲ溶解ス 五本

丁同一枚九分ヲ溶解ス 二十二本

戊水一貫目ニ炭酸加里四十一枚二分ヲ溶解ス 十八本

己同二十一枚ヲ溶解ス 二十五本

以上ノ成績ニ據レハ灰汁豫防ノ大小麥ニ效能アルハ其所含ノ「アルカリ」ノ作用ニアルカ如シト雖モ甚ニ甚タ不思議ナルハ設ヒ麥種ヲ灰汁若シクハ「アルカリ」溶液ニ浸スモ一度其麥種ヲ能ク乾燥スルニアラテハ更ニ效能ノナキコトヲアリマス斯ル疑點ハ勿論小麥稈麥ノ一層簡便ナル豫防法ニ就キテハ目下農事試驗場ニ於テ試驗中ナレハ來年度ノ試驗成績ニテ判然スルコトモ多カルヘシト信シマス尙麥奴豫防ニ關スル試驗ノ詳細ナル報告ハ本年中ニ出版成ルヘシ農事試驗成績第四報中ニ記載アリテコノ報告書ハ東京府下ノ書店ヨリ販賣スル等ノ趣ナレハ有志ノ人ハヨク書ヲ閱覽アリテ然ルヘシ

●適切ナル麥奴豫防法

麥奴ヲ豫防スル方法ハ種々アリテ或ハ藥品(丹毒液)ニ浸種スヘシト云ヒ

或ハ夏土用ニ至リ木灰一升ヲ桶ニ入レ之レニ沸湯二升ヲ注入シ能ク攪
拌シテ凡ソ一夜位ニテ其上部ニ澄シタル水丈ケヲ汲ミ取り之レニ麥種
ヲ浸シ置ク一晝夜位ニシテ其位置ハ冷所ニ置クヘシ之レヲ取揚ケ空
氣ノ流通スル場所ニテ一二日許リ陰乾シ然ル後日光ニテ充分乾燥セシ
メテ儲藏シ期節ニ至リ種下スヘシト云ヒ或ハ華氏百二十七度ノ温湯ニ
五分時間浸種スヘシト云ヒ(此法ハ小麥ニハ其効ナシ又百三十六度以上
ノ熱湯ニテハ害アリ)或ハ人尿ニ浸種スヘシ或ハ寒水ニ浸ハシムル等ノ
說アリ何レモ無効ノ說ニハアラサルヘキモ簡易適切ナルハ夏期土用干
シ法ニ如ク者ナシ之レハ日光ノ最烈シキ日ヲ選ミ一日干セハ先ツ虫害
モナク麥奴モ減退スル請合ナリト(京都府農會報告ニ見ユ)

● 螟虫浮塵子驅除法

驅虫ハ一村ニ二百名トシ之レヲ八組ニ分テ各委員ヲ設ケ村長之レヲ指
名スル一トシ夜七時ヨリ十時マテ驅除ニ從事セシムヘシ点火誘殺ヲ行
フニ當リ火ヲ苗代邊ニ燃スハ却テ他ヨリ虫ヲ誘引スルノ虞レアリ故ニ
近クシテ十間遠クシテ廿間苗代ヲ離レテ火ヲ燃スヘシ而シテ此火ハ可
成小ナクスヘシ大ナル火ニハ虫ハ飛ヒ掛ラサルナリ且ツ右ノ誘殺ヲ行

フキハ小兒ヲ苗代ノ方ニ置キ彼レヲ携ヘタル捕虫袋ヲ以テ火ヨリ
逃ケ來ル虫ヲスクハシムヘシ然レハ袋裏ニ捕ラヘラレスシテ逃ケ去ル
モノハ再ヒ火ヲ見テ之レニ投シテ死スヘシ稻株ヲ燒キ棄ツルハ宜シカ
ラス青葉ノキヨリ卵子ヲ捕殺スヘシ又卵子ハ庭ノ秣草ニモアリ近所ノ
藪ニモアリ漸々孵化スル故驅除ノ功ヲ衰スルハ少クモ四年ヲ要スヘク
決シテ一年ヤ二年ヲハ望ミ難シ去レハ各組ハ時々交代シテ驅除ニ從事
シ勞少クシテ功多カラシムヘキナリ云々トハ福岡縣會議事堂ニ於テ林
達里氏ノ演說ナリ

● 煙草虫驅除法

煙草虫ヲ生セシメサル様豫防スルハ甚タ困難ナルモノニシテ又到底爲
シ能ハサルモ發生後簡易ニ驅除セント欲セハ殺虫菊花生ノ粉末ヲ施ス
ハ何レモ之レヲ除ク一ヲ得ヘシ該粉末ハ官許ヲ得テ發賣スルモノナル
ガ一袋定價貳錢ナリ

● 秋ノ再移轉ニ就テ

廣島縣下安藝郡海田市町桑樹一介ハ多年稻作改良ニ刻苦シ終ニ簡易ナ
ル一法ヲ發明シ數年ノ實驗ヲ經テ愈好果ヲ得タルヲ確認シ初メテ之ヲ

世ニ發表スルニ至レリ其法ノ要點ハ稻苗ノ長スル凡ソ二寸許ニシ率テ
二本ヲ以テ一株ト爲シ之ヲ苗代面積ノ凡三倍ノ地ニ假ニ移植シ再ヒ尋
常ノ本植ヲ爲ス然レモ株ハ前回移植ノ儘トスルニ過キスシテ他ハ舊來
ノ法ニ異ラス而シテ其二回移植ノ主要タル苗根未タ蔓延錯綜セス土壤
マタ固着セサル間引取リテ苗根ヲシテ傷害ナカラシムルニアリ但全人
ノ調査ニ依レハ二回移植ノ爲メ要スル人夫ハ普通法ヨリ多キヲ男一人
女四人ナリト云フ其本年ノ試作ニ係ル坪刈ノ成績ハ

中稻(海野四石)

改良 收粉

二升七合五勺(七百五十匁)

收米

一升七合五勺(七百匁)

普通 收粉

一升八合四勺(四百六十匁)

收米

九合六勺(三百七十匁)

晚稻(出雲)

改良 收粉

二升七合五勺(六百四十匁)

收米

一升四合一勺(五百三十匁)

普通 收粉

一升七合四勺(四百十匁)

收米

八合三勺(三百匁)

(備考)收粉ハ能ク乾カシテ芒ヲ撰テ除キタリ、一坪ニ付キ三十六株トス
舊法ニ比シ稻株ニ小根甚多クシテ赤色ナリ發育ノ景況ハ第二回本植
後十日ニシテ舊法三十日經過セシモノニ優レリ、誠ハ普通ヨリ太クシ
テ其次々舊法ヨリ長スル二寸乃至三寸又葉ノ一坪ニ付キ舊法ハ二把
ヲ得ルモ新法ハ三把ヲ得ルナリ、粉精附強クシテ脆弱ナル種類ト離脱

●液肥施用ニ就キ

第一圃地ニ液肥ヲ施セハ土壤ヲ濕潤ナラシメ機分カ其ノ中ノ養分(專ラ
硝酸ヲ云フ)ヲ溶解シテ之ヲ植物根ニ與ヘ又液肥溶解養分ハ土壤ノ成
分ト結合シテ一種不溶解ノモノトナル之ヲ吸收作用ト云フ此作用ニ
ヨリ土壤ニ保蓄セラレタル養分ハ降雨ノ爲メニ流失サレサレトモ植
物根ニ據リテ能ク溶解吸收セラル、ヲ常トス

第二圃地ニ液肥ヲ施シテ後直ニ降雨アル時ハ養分ハ未タ其土壤ニ吸收
保蓄セラル、速ナキカ故ニ多少損失スヘシ然レトモ施肥後一日以上
ヲ經過シテ降雨アレハ損失スルコトナシ養分ノ吸收保蓄力ハ粘土ニ
強クシテ砂土ニ弱シ然レトモ大慮ノ土壤ハ此力ニ不足ナキヲ常トス
第三日光直射シテ圃地ノ熱セラル、時ニ液肥ヲ施セハ其中ノ安母尼亞
ハ機分カ飛散シテ自然窒素養分ノ損失アルヘシ
第四圃地ニ液肥ヲ施ス、ハ晴天ニシテ乾燥ナル時ヲ可トス然ルトキハ

養分ノ吸收作用甚速ニシテ損失ノ恐ナク且ツ其効ヲ奏スルコト早カ
 ルヘシ朝ト夕トハ何レニテモ可ナレトモ事ヲ夕ヲ以テ優レリトス
 第五酸性ノ液肥ハ作物ニ有害ナリ然レトモ少シク其根ヲ距離ヲ遠クシ
 テ液肥ノ稀薄ナルモノヲ施スハ害ナカルヘシ液肥ハ十分ニ腐敗スレ
 ハ安母尼亞ヲ生スルタメ亞爾加里性トナルモノナルカ故ニ此時是ヲ
 施用スルヲ良好トス

第六液肥ヲ灰ニ混合スレハ貯藏運搬施用等ニ便利ナレトモ是等ノタメ
 多少安母尼亞ノ飛散スル憂アリ故ニ液肥ト灰トハ別ニ施用スルニ如
 カス而シテ此施用ノ前後ハ何レニテモ可ナレトモ液肥ヲ先ニシテ灰
 ヲ後ニスルヲ便利ナルヘシ其日數ハ通例一日以上ヲ隔レハ足レリト
 ス

●大小麥ノ移植

船津傳治平

予往年駒場農學校ニ於テ試ニ大麥及小麥ノ苗ヲ仕立テ、蕪菁蘿蔔青芋
 桑苗等ヲ收穫ヲ得タリ之ニ因テ所々巡回ノ際蕪菁蘿蔔等ノ跡地ハ勿論
 乾燥不充分ナル稻田ノ跡地等ヲ打越シ溝鑿形ニ畦行ヲ造ル其乾クヲ待
 テ土塊ヲ打碎シ其場ニ植ウル時ハ普通ノ收穫ヲ得ルノヨナラス土質變

化シテ翌年稻作ノ際勞力ヲ省キ且稻モ亦能ク成長シテ收穫ヲ増スコト
 必定ナリト説示セリ而シテ近頃廻國ノ際其模様ヲ聞クニ大小麥ノ苗植
 ハ爲スヘキモノニアラス如何トナレハ乾キノタメ枯ル、アリ霜ノタメ
 損スルアリ幸ニシテ其害ヲ免カルコトアルモ大概赤色トナリ成長宜カ
 ラス杯ト唱フル者アリ因テ其施行シタル方法ヲ取調ヘタルニ唯苗床又
 ハ小溝ヲ設ケテ水肥ヲ注キ或ハ散布シ其上ニ播種シ少シク覆ヒ土ヲ爲
 シテ苗ヲ仕立テ之ヲ引抜キテ移植セシモノナリ是予カ説示ノ方法トハ
 大ニ相違セリ因テ再ヒ移植法ヲ陳述セシコトアレハ以テ左ニ記述ス「移
 植ノ麥苗ヲ作ルハ地方ノ播種期ヨリ五七日早ク畑地ニ播クモノトス假
 リニ一段歩ニ要スル大麥ノ種六升トスレハ之ニ人糞一斗二升程注キ攪
 拌シテ米糠一斗七八升ヲ加ヘ攪拌シ草木灰四斗程混和シテ而シテ籠ニ細
 繩ヲ穿キタルモノヲ以テ丁寧ニ摩擦シ恰モ金平糖ノ様ナルモノトス之
 ニ尿尿等ヲ注キ製シタル堆積肥大麥ニハ濕分ノ多キ堆積肥モ敢テ妨ケ
 リ落セハ崩ル位ノ濕分ヲ度ナトス八石小麥ナレハ程ヲ混和シ七十五
 分多キ時ハ生ハ損シアルモノナリ八石小麥ナレハ程ヲ混和シ七十五
 分程ノ地ニ點播七點徑ハ二寸スルモノトス此ノ如ク注意シテ點播セシ苗
 ハ根ニ肥土ノ塊ノ附クモノナルヲ以テ俗ニ鉢附苗ト云フカ如シ故ニ少

ノ乾キ又ハ霜等ニ蒔ムモノニアラス扱其點播ノ距離ハ大概播行ト々々ノ間ハ一尺トス點々ノ隔ヲハ五寸トス然レハ一步ニ付七十二株ナリ(前)ニ云フ七十五分ニハ又植行々々ノ間ハ二尺トシ株間ヲ一尺トスレハ一步ニ十八株即チ一反歩ニハ五千四百株ヲ要ス次ニ移植ノ期ハ一粒ノ發芽六七葉ニナリシ頃ヨリ翌年一月中旬迄ニ植ルモノトス移植ノ際又普通ノ肥料ヲ施用セハ普通ノ畑ニテ大麥ハ四石小麥ナレハ壹石七八斗位ノ收穫アルコト疑ヒナカルヘシ然トモ誤テ苗畑ヲ狭ク設クル時ハ隨テ收穫モ減スヘシ注意セザルヘカラス

因ニ曰蕪菁及蘿蔔等ノ間大小麥ヲ播種スルモノ少ナカラス然ルニ其收穫ハ大麥ニテ一石小麥ニテ六七斗ヲ出サルヘシ前法ニ因テ移植セハ必ス前件ノ收穫アルヘシ

● 茄子栽培法

播種法ハ他ノ植物ノ間ニ一本宛各所ニ植付ケ成長最モ宜シキモノハ二番成リヲ一類留メ置キ其他ハ花ヲモ開カシメス摘ミ採リ留メ置キタル分黄色ニ熟シタルハ採リ上ケ收實法ハ二様アリ一ハ生シテ肉ヲ割キ實ヲ洗取リ充分ニ乾シテ紙ノ袋ニ入レ貯フ方法ナリ一ハ柿ノ皮ヲ剥ク如

クニン皮ヲ剥キ陰干トナスナリ而スルト無病ノモノハ白色ヲ帯ヒテ乾燥シ又有害ノモノハ黒色ヲ帯フルモノナレバ其白色トナリタル者ヲ貯ヒ置キ播種前取出シテ肉ヲ割キ水ニ浸シ種實ヲ採ル方法ナリ此兩法中前法ヲ可ナリト思ハル何トナレハ病害ガ少シニテモ肉部ニ含有スルハ假令少シノ害アル者ニテモ肉ト早ク離サレバ爲メニ黴毒ヲ全類ニ傳染セ遂ニ良種子ヲ得ザルニ至ラン尤後法ニヨリ採取シテ白色トナリタルモノヨリ完全ナルハナシ併シ何レノ法ニヨルモ子實ノ外面純黄色ヲ呈シタルモノ、外種子用ニ適セズ煤色ノ斑点又ハ黒色ノモノハ決メ好結果ヲ得サルナリ然シテ種子用ノ分ヲ他ノ植物ノ間ニ植ユルヲ可トスルハ假令一時ニ病害ヲ發スルモ他ニ傳染スルヲ防ク爲メノ手段ニシテ二番成ヲ採ルハ凡テ植物ハ未成ノモノハ宜シカラサルナリ又一本ニ一夥ヲ留ムルトキハ子實ノ勢分カ一類ニ集マル故肥滿ノ子實トナルナリ又茄子ハ舊地ヲ忌ムモノ故開墾地等ノ新地ニ植ヘサレハ立枯ヲ生ズ其立枯豫防法ハ茶粕又ハ藍滲ハ非常ニ特効アリト云フ

● 茄子ノ色變セス生ノ儘貯フル法

農友ノ實驗談ニヨレハ茄子ノ色ヲ變セスシテ永ク貯藏セントセバ其果

ニハ少シモ人手ニ觸レザル様手袋ヲ用ヒ無疵ノ果ヲ擇ミ取り鑊又ハ他
ノ及ヲ以テ其莖ヲ切斷シ其莖ニ糸ヲ付ケテ之ヲ石ニテ沈ミテ懸ケ直様
澁壺(柿ノ澁水ヲ云フ)ニ入レテ密閉シ置クハ翌春ヨリ何時之レヲ食ス
ルモ美味ニシテ生ノ儘ニ異ナルヲナシト而シ沈ミ方淺キトキハ其効ナ
レト云フ

●食物貯藏法

石川縣金澤市上本多町御亭ノ平岩才一郎氏ノ發明ニテ昨年七月十一日
付ヲ以テ十五ヶ年ヲ期限トス特許セラレタル食物貯藏法ハ食物ヲ罐内
ニ納メ是ヲ(寒天石花菊其他コレニ均シクモノ)ヲ溶解シ注入シ蓋ヲ以テ
密閉シ貯藏スルノ法ニ係リ其目的トスル所ハ罐内ノ空氣ヲ容易ニ排出
シ得ルト及ヒ食物ノ凡ソノ形體ヲ永久安全ニ維持セシメ得ルトノ二ニ
アリ此發明ハ至極輕便ニシテ頗ル好結果ヲ得ヘキモノトス即チ烏獸魚貝
野菜菓實類ノ一切ノ食物ヲ取リテ或ハ湯煮シ或ハ適宜ノ味ヲ加ヘ是ヲ
罐内ニ納メ溶解セシメタル寒天ヲ注クハ流動體ノ故ヲ以テ器中ニ充
滿シ更ニ空隙ナカルヘク從ヒテ食物ノ空氣ニ觸ルゝ恐レナキヲ以テ假
令水時ニ涉ルモ寒暑ヲ經ルモ腐敗スルコト更ニナク又コノ寒天ハ冷氣

ニ遇ヒテ忽チ凝固スル性ナルカ故ニ罐内ノ食物ハ爲ニ保持セラレテ決
シテ動搖スルコトナク從ヒテ天然ノ美形ヲ損スルコトナキモノトス且
コノ寒天ニモ適宜鹽砂糖醬油其他肉汁雞卵等ヲ混化シテ加味スル時ハ
愈ソノ味美ニシテ主タル食物ノ味ヲ一層佳ナラシムルノ功アルモノト
ス尤モ罐ノ物質及ヒ密封スルノ法ハ在來ノ罐詰法ト異ナルコトナシ寒
天ノ中ニ食物ヲ入レテ成ル所ノ調理法ハ既ニ世ニ知ラレタル事實ナリ
トス故ニ其發明トシテ特許ヲ得タル區域ヲ揭クレハ溶解シタル寒天マ
タハ之ト均シキ用ヲナスヘキモノヲ以テ罐内ニ滿タシ以テ食物ヲ貯藏
スヘキ罐詰法ニ在リト云フ

●葡萄蛾驅除法

葡萄成熟ノ期ニ際シ蛾多ク群集シ來リ果實ノ液汁ヲ吸收スルヲ最モ甚
シ此驅除法ハ夏季晴穩ノ夜ヲトシテ黄昏ヨリ十時頃マテ葡萄園及其近
傍ノ樹木ニ酒ト黒砂糖ヲ適宜ニ混合シタル液汁ヲ塗リ付ケ置クハ蛾
之レニ群集スルヲ以テ其集リタルモノヲ捕殺スヘシ又同時ニ園中處々
ニ火ヲ点シ蛾ノ誘殺法ヲ行フヲ良シトス

● 玄米播種成績ニ付キテ

大坂府野口郡太氏ハ明治廿六年三月兵庫縣神戸取引所ニ於テ全國玄米品評會開會ノ節特別賞等賞ヲ得タル玄米(肥後國)ヨリ出品中稻號名白藤ノ見本ヲ少ク貨受ケ其ノ玄米ヲ一週間水ニ漬ケ置キ五月四日通常苗代ヘ播下シ發生後六月廿五日稻株ヲ三拾六株ニシテ私立試驗場ヘ植付タルニ其後生育普通ニシテ十月廿八日蒞取リ收穫粉米貳升餘ヲ得タリト依テ自後粉種ノ不足ヲ生シタル節ハ玄米ニテモ種子ニ差支ナシトノナリ

● 養鶏ノ好飼料

養鶏事業ノ得失ハ全ク飼料費ノ多少如何ニアリ飼料常ニ美ナレハ從テ鶏類ノ發育宜シク且ツ産卵數モ亦多カルヘシト雖モ得失ノ價ハサルヲ如何セシ養鶏家此嘆ヲ免カレナラシガ鹿兒島縣始良郡加治木神宮喜之助氏ノ實驗談ニヨレハ養鶏ノ好飼料ハ新穀ナリ新穀ハ如何ニ下地劣畑ト雖も糞ヲ糞種シ無肥料無手數ニテ尙ホ相應ノ收穫アリ且ツ家禽ノ好飼料タルヲ聞キ種子ヲ求メテ宅地ノ隅ニ殘ル處ナク蒔キ附ケ置キシニ果シテ聞クカ如ク雜草ノ中ヨリ草ト出穂シテ意外ノ收穫アリタレハ爾來

毎年種ノ下敷ノ傍等餘地下畑ニ撒付テ以テ飼料ニ供シ茲ニ始メテ養鶏ノ利ヲ見ルニ至レリト又新穀ハ米穀類中ノ最も收穫多キ者ニテ若シ之レヲ町圃ニ培養スルハ一畝歩一石ノ收穫アリトテ同地ニテハ一名一石獲トモ呼ヘリ人間ノ食料トシテハ餘リ實スヘキ者ニアラサルモ鳥類ハ雀ヲ始メ蓋タ之レヲ飼ハ食メレハ家禽ノ飼料ニハ誠ニ有益欠ク可カラサルヲ實驗スト云フ

● 出雲農作物被害額

客年十一月本縣訓令ニヨリ縣下各郡市役所ヨリ調査ノ上本縣廳ニ進達シ縣廳ニ於テ此程調査ヲ了セシ客年十月風水災被害見積價格ハ出雲國三百五十七萬一千六百十二圓十二錢三厘石見國百四萬三千七百四十三圓六十九錢二厘隱岐國十八萬五千五百二十一圓三十八錢二厘總計五百十七萬六千七百七十五圓七十九錢九厘ニシテ内農產物ニ係ル被害見積價格ハ實ニ二百四萬七千九百四十一圓ヲ占ム今出雲國ニ係ルモノヲ種別スレハ左ノ如シ

米 十五萬八千五百〇五石
大豆六千八百二十五石

此見積價格九十四萬一千二百六十四圓
此見積價格三萬二千八百八十七圓

小豆一千三百九十二石 此見積價格八千六百四十一圓
 粟 四百三十二石 此見積價格一千三百〇六圓
 蕎麥二千九百〇七石 此見積價格七千二百七十圓
 甘藷四百十四万八千〇八十五貫匁 此見積價格六万四千四百四十二圓
 綿 十七万一千二百九十四貫匁 此見積價格五万一千三百八十九圓
 楮 九千二百三十八貫匁 此見積價格二千三百一十一圓
 桑 二十一万一千九百八十九貫匁 此見積價格一万二千七百二十二圓
 人參六千八百九十九貫匁 此見積價格一万三千七百九十八圓
 煙草一万七千三百三十貫匁 此見積價格四千四百四十二圓
 右ノ外被害見積價格六万五千五百九十圓以上合計見積價格百二十万五千七百六十二圓ナリ

●各府縣種牡牛馬頭數

農商務省ノ調査ニ據レハ明治廿四年ノ届出ニ係ル各府縣ノ種牡牛ノ頭數ハ内國種八百四頭外國種三百十頭雜種百三十四頭總計壹千貳百四拾八頭ニシテ種牡馬ハ内國種三千八百二十頭外國種七十七頭雜種二百廿二頭總計四千百十九頭ナリ尤茨城、山梨、福島、熊本ノ四縣ハ種牡牛ヲ飼養スル

スル者ナク京都、大坂、三重、山口、徳島、香川ノ二府四縣ハ種牡馬ヲ飼養スル者ナシト云フ(官報)

●全國米產額

明治廿五年全國米產額合計ハ四千百三十七万八千九百五十六石ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ三百二十五万五千四百八石ノ増額ニテ即八分五厘ニ當リ又既往十三ヶ年平均產額ニ比スレハ七百十三万四千六百二十四石ノ増額ニテ二割八厘ニ當レリ又此產額ヲ粳糯米ハ三百七十八万二千四百六十四石陸米ハ三十六万三千二百五十九石ナリ

●農學校及獸醫學校

| 府縣名 | 校名 | 位置 | 校長氏名 |
|-----|--------|------------|------------|
| 北海道 | 札幌農學校 | 札幌區北二條西二丁目 | (心得) 佐藤昌介 |
| 大坂府 | 農學校 | 東成郡鶴橋村岡 | 棚橋衛平 |
| 長崎縣 | 獸醫學校 | 長崎市岩原郷 | 高嶺秀四郎 |
| 宮城縣 | 宮城農學校 | 名取郡茂ヶ崎村 | (心得) 石井新太郎 |
| 岩手縣 | 岩手獸醫學校 | | 牧野終太 |

岩手縣 岩手農事講習所
 石川縣 農學校
 鳥取縣 農學校
 山口縣 山口農學校
 高知縣 農學校

盛岡市
 羽咋郡東上田村字火打谷
 久米郡社村大谷村
 吉敷郡大内村
 高知市北門筋

百十六
 恩田 鐵彌
 齋藤 十郎
 吉田 長治
 (心得) 赤羽 雄一
 牛村 一氏

●安來地主組合規則

- 第一條 本組合ハ有志地主ノ集合ニシテ協心同力勉メテ舊來ノ宿弊ヲ矯メ前途ノ進運ヲ圖リ農業上ノ改良ヲ計ルヲ以テ主旨トス
- 第二條 事業ノ目的ハ概テ左ノ如シ
- 一 改良農作ノ普及ヲ計ル
 - 二 米質種類ヲ選定シ不良種類ヲ除去スル
 - 三 製米方及製俵法ヲ改正一定スル
 - 四 實宛小作人ノ爲メ特ニ肥料ノ貸附方法ヲ設ケル
- 第三條 組合中別ニ役員ヲ置カス當分組合員ノ内發起人ヲ以テ事ヲ處スヘシ
- 第四條 組合員ハ一切組合決議ニ違反スヘカラス若シ違反ノ事アルハ

- ハ組合費三分ノ一以下ノ過怠金ヲ課スルヲアルヘシ
- 第五條 本組合費金ハ關係所有田地價ヲ以課當スルモノトス
- 第六條 實地施行方法ハ別ニ手續細則ヲ設ケ施行ス
- 第七條 組合會議ハ發起人ノ見込ヲ以臨時ニ之ヲ開ク故ニ定會ヲ定メス

實施手續

- 第一條 農作改良方普及セシムル事
- 安來ハ後小路壹組納屋町壹組飯島村前後ヲ三組ニ川尻壹組宮内壹組加茂今村壹組此組中ニ委員幾名ヲ設ケ平素實地ニ就キ勸誘指揮スルモノトス第一摘穗第二種粉水浸第三苗代仕立方其他尙モ改良方ニ係ル一切ノ手續
- 第二條 米質改良ノ事
- 在來不良種類即チ(登本艸)(ツクナリ)類ハ一切禁止シ(小作自用ノ分ハ)年々良種ヲ選定シ成ルヘク一定ノ種類ヲ採ルヘシ
- 第三條 製米諸方ノ事
- 第一種類ヲ混交セサルヲ第貳千立ヲ能クシ生干ノ稻ヲ以テ製スル

ヲ嚴禁ス第三粉米又ハ粉壳多キ米ハ一切之ヲ許サヌ第四漸次改良干立ニ倣ハシムル事

第四條 倣ハ舊式ニ倣ヒ四十八手長三六寸ニシテ古倣ヲ用ユヘカラス但上倣ハ之ヲ廢ス

第五條 收納米取立ノ事

米ヲ一等二等三等ノ三級ニ分チ一等米ハ倣ニ付一升ノ獎勵米ヲ與ハ三等米ハ倣ニ付一升ノ込米ヲ求ム第二等ハ正米ヲ以テ受取ルヘシ之レヲ例セハ一等米ハ其村ニ於テ最上ヲ標準トシ種類及ヒ干立製法共ニ佳良ナルヲ探ルニ等ハ干立製法良キヲ探リ種類ハ之ヲ精選セス(但本州ハ除クナリ)三等ハ其次キナルモノヲ標準トス但米質濕氣ヲ帶ヒ又ハ粉米粉殼多キモノハ一切之ヲ除却ス
各組合中ヨリ(六名ヲ)定ム以テ定ム)定名ツ、鑑定人ヲ出シ組合中ハ收納定日ヲ設ケ鑑定人立會ノ上米ノ等級ヲ議定スヘシ但豫テ標本米ヲ定メ置クヘシ
鑑定人ハ相當ノ日當ヲ給ス
右相定ム

明治廿一年十月

●荒島村地主組合規則

第一章 目的

第一條 本組合ハ有志地主ノ組合ニシテ協心同力勉メテ舊來ノ惡弊ヲ矯メ將來ノ進運ヲ圖リ農業上ノ改良ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第二條 事業ノ目的ハ概テ左ノ如シ

- 一 米作改良ノ普及ヲ計ル
- 二 米質種類ヲ撰定シ不良ノ種類ヲ除去スル
- 三 製米方及製倣法ヲ改正スル
- 四 貧窮小作人ノ爲メ特ニ肥料貸方法ヲ設クル

第二章 役員

第三條 組合中ニ組長壹名副組長壹名理事壹名委員九名及検査人壹名ヲ置キ組合事務ヲ處辨ス

但當分無給ノ

- 一 組長ハ本會一切ノ事務ヲ總理シ定期會議ノ時ハ議長トナルヘシ
- 一 副組長ハ組長ヲ輔佐シ組長不在ナルトハ代理タルヘシ
- 一 幹事ハ組長ノ指揮ヲ受ケ本會事務ヲ幹理スルモノトス

一 委員ハ組長幹事ノ指揮ヲ請ケ本會事務ヲ分擔スルモノトス
 但組合會員中ヨリ推選ス
 一 検査人ハ毎年春四查秋十十一月二月履入稻種精量方及秋收納米ノ等級其他ノ事務ヲ取扱ハシム
 但相當給料ヲ遣ス尙他所ノ住人ナルヲ要ス

第三章 集會

第四條 組合ニ定期臨時ニ別ツ

定期會ハ春秋貳期トス

臨時會ハ會員五名以上ノ請求ニ依リ之ヲ開クモノトス

第四章 義務

第五條 組合員ハ一切組合決議ニ違反スヘカラス若シ違反ノコアルハ組合員ノ決議ニ因リ組合費十分ノ一以上十分ノ三以下ノ過怠金ヲ課スルモノトス

第六條 本組合費ハ關係所有田地價ヲ以テ課當スルモノトス

但定期會毎ニ報告スルモノトス

第五章 補則

第七條 本規約改正ハ會議ノ決議ヲ以テ更正ス
 第八條 實地施行方法ハ別ニ手續細則ニ設ケ施行ス

●荒島村有志地主組合規則實施方法

第一條 米質改良方法

在來不良種類ノ内一本脚等ノ類ハ一切嚴禁シ年々良稻ヲ撰定シ成ヘシ一定ノ種類ヲ採ヘシ

第二條 製米方法

第一 種類ヲ混交セサルコト

第二 干立ヲ能クシ生干ノ稻ヲ以テ製スルヲ嚴禁ス

第三 粉米又ハ糊壳多キ米ハ一切之ヲ許サス

第三條 製米方法

製米ハ舊式ニ倣ヘ四十八手長壹尺八寸ニシテ古式前年ノ分ヲ用ユ

第四條 收納米取立方法

製米ヲ一等二等三等ニ分テ

一等米ハ一俵ニ付一升ノ獎勵米ヲ與フ

二等米ハ正米ヲ以テ受取ヘシ

三等米ハ俵ニ付壹升ノ込米ヲ求ム
但實地惡田ヲ除ク外一等米ハ掛米高ノ大凡十分ノ三ヲ下スコトヲ
得ス

假令ハ一等米ハ其村ニ於テ最上ヲ標準トシ種類干立製法共ニ佳良ナ
ルヲ採ル

二等米ハ干立製法良ナルヲ採ル種類ハ之ヲ精選セス

三等米ハ其次キナルヲ採ル

但兼テ其標準米ヲ定メ置ヘシ

第五條 該規約ハ明治二十七年ヨリ二十九年マテ三ヶ年間ヲ限リ施行
ス

●勸農社々則

第一章 總則

第一條 本社ハ米麥作改良ノ方法ヲ研究シ收穫ノ増殖ヲ圖ルヲ以テ目
的トス

第二條 本社經營ノ業務ニ就キテハ社長總ヘテ其責ニ任ス

第三條 本社ハ勸農社ト稱シ福岡縣筑前國早良郡入部村大字重留ニ設

置ス

但分社ヲ設クルノ必要アルハ適宜ニ之ヲ置ク

第四條 本社員タルラントスルモノハ其職業ノ如何ニ拘ラス第六條ノ
手續ヲ爲スヘシ

第五條 本社ノ社員ハ左ノ三種ニ區別ス

名譽社員

特別社員

通常社員

第一項 名譽社員ハ貴顯紳縉又ハ學識名望アル人ニシテ特ニ本社ヨ
リ入社ヲ請タルモノヲ云フ

第二項 特別社員ハ社費トシテ毎年一月限リ金壹圓ヲ出シ本社ノ議
事ニ參與スルモノヲ云フ

第三項 通常社員ハ社費トシテ毎年一月限リ金三拾錢ヲ出シ本社ノ
議事ニ關セサルモノヲ云フ

第六條 總テ社員タルモノハ本社ノ事業ヲ參觀シ米麥作改良上ニ付質
問スルヲ得

第七條 入社セントスルモノハ特別ノ資格ニ應シ社費ヲ添ヘ左ノ書面ヲ差出ヌ可シ

| |
|----------------------------------------|
| 入社願 |
| 拙者義農事研究志願ニ付特別社員トシテ入社致度御社則等嚴重可相守候此段相願候也 |
| 何府何國何市何町何番地 |
| 族籍職業 |
| 年月日 |
| 氏名印 |
| 勤農社長林遠里殿 |

第八條 社員ニハ其種類ニ隨ヒ左ノ雛形ノ如キ證票ヲ付與ス

| |
|--------------|
| 表面 |
| 勤農社 名譽特別社員之證 |
| 通常社員之證 |

農報第一號

| |
|-------|
| 裏面 |
| 年 月 日 |
| 何 某 |

朱印

第九條 社員事故アリ退社セントスルキハ其理由ヲ記載シ証票ヲ添ヘ届出ヘシ

第十條 總テ社員タル者本社ノ妨害トナルヘキ所爲アルカ又ハ社則ヲ履行セサル者ハ除名ス

第十一條 本社ノ會計ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ據ル

第十二條 第貳章 役員

本社ニ左ノ役員ヲ置ク

- 社長 一名
- 理事 二名
- 學師 若干名
- 會計掛 若干名
- 書記 若干名

農場幹事 若干名
耕作掛 若干名

第一項 社長ハ本社一切ノ事務ヲ總理シ米麥作改良ノ方法ヲ教授ス
第二項 理事ハ社長ノ指揮ニヨリ社務ヲ監理シ社長不在ノ時ハ其事
務ヲ代理ス

第三項 學師ハ主トシテ學理ノ教授ヲ擔當ス

第四項 會計掛ハ本社ノ出納事務ヲ擔當ス

第五項 書記ハ文書ノ往復及庶務ヲ擔當ス

第六項 農場幹事ハ農場ノ實業及生徒ノ勤惰ヲ監督ス

第七項 耕作掛ハ農場ノ耕作ヲ擔當ス

第十三條 社長ハ社主自ラ其任ニ當リ役員ハ社長之ヲ特撰ス

第三章 農場

第十四條 農場ニ於テハ主トシテ米麥作改良ニ關スル實業ヲ教授ス

第十五條 本社々員ニシテ入場セント欲スル者ハ親族證人ヲ立テ左ノ

願書ヲ差出スヘシ

但入場人員ハ三百名迄トス

入場願

拙者米麥作改良法研究志願ニ付入場致度
此段相願候也

何府何國何市何町何番地

年月日

何 某

勸農社長林達里殿

第十六條 實地教導ニ要スル田畑ハ生徒ノ多少ニヨリ二拾町步乃至五
十町步ヲ準備シ置テ

第十七條 農場ニハ大中小農ニ應スル厩宅ヲ構造シ夫々家計ノ程度ヲ
設ケ之レヲ實修セシム

第十八條 農場ニ於テ教授スル科目左ノ如シ

- 一 米麥作改良法
- 二 牛馬耕鑄法
- 三 作土改良法
- 四 農業ニ關スル學理
- 五 植物栽培試驗法
- 六 肥料製造法
- 七 農具製造法

但米麥開製及農具製造其他灌水排水等ハ時ニ應シ晝夜ノ別ナク

教授スルモノトス

第十九條 農場ニ於テ試験シタル成績ハ印刷ノ上社員一般へ報告ス
第二十條 農場ニ於テ學理ノミヲ研究セントスルモノハ前記入場手續
キニ準シ其旨申出ツヘシ

但科目及規則等ハ學師ノ定ムル所ニ據ル

第二十一條 農場ノ學期ハ一ケ年トシ毎年始業ハ三月一日又ハ十月一
日ヨリ終業ハ翌年二月二十日又ハ九月二十日迄トス

第二十二條 試験ヲ分テ卒業試験臨時試験ノ二種トス

第二十三條 卒業試験ハ學期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ社長ノ
見込ヲ以テ之ヲ行フ

第二十四條 卒業後尙ホ二年又ハ三年間入場ノ志願アルモノハ其望ミ
ニ應ス此場合ヒニ於テハ二年又ハ三年季ノ特別卒業證書ヲ與フルモ
ノトス

第二十五條 卒業改良法ニ從事シ其成績著シキモノハ臨時試験ヲ行ヒ
卒業證書ヲ與フルヲアルヘシ

但試験及第者ハ一等二等三等ノ三種ニ區別シ左ノ雛形ニ準シ卒業

證書ヲ授與スヘシ

第 號 證

本社農場何等ノ成績ヲ得テ卒業候事
年月日 勸農社長林 遠里印

第二十六條 農場ニ於テ二等以上ノ成績ヲ得タル卒業生ハ實業助手ト
シテ各地へ派遣セシムルヲアルヘシ
第二十七條 實業助手トシテ派遣ノ節ハ左ノ委囑書ヲ附與ス

何府何國何市何町
何縣何郡何村
第 號 何 某
何府ノ招聘ニ據リ米麥作助手トシテ本年何
月ヨリ何年何月迄同縣何郡へ出張ヲ委囑ス
年月日 勸農社長林 遠里印

第四章 生徒心得

第二十八條 本社々内ニ寄宿舎ヲ設ケ生徒ハ總テ寄宿セシム
但本社近傍居住ノ者ハ通學ヲ許ス

第二十九條 寄宿舎ニ生徒取締ヲ置ク

第三十條 生徒ハ専ラ勤勉節儉ヲ旨トシ苟モ怠惰ニ流レ奢侈ノ行爲アルヘカラス

第三十一條 休日ハ外出ヲ許スト雖モ生徒取締ヲ經テ農場幹事ニ届出ツヘシ

第三十二條 祭日及休日ト雖モ農事繁劇ノ際ハ休業ヲ與ヘス但シ異日臨時休業セシムルモノトス

第三十三條 生徒ハ授業料ヲ納ムルヲ要セス

第三十四條 生徒ノ食費及寢具筆紙墨ノ類ハ自辨トス

第五章 集會

第三十五條 本社ノ集會ヲ定期會、農話大集會、農話小集會、ノ三種ニ分ツ

第三十六條 定期會ハ每年春季一回之ヲ開キ特別社員以上相會シテ本社前期ノ出納ヲ調査シ其他社業ニ關スル諸般ノ議事ヲナスモノトス

第三十七條 農話大集會ハ每年春秋ノ二季各種社員相會シ試験ノ成績ヲ報告シ尙米麥作改良ニ係ル諸般ノ事ヲ談話スルモノトス

第三十八條 農話小集會ハ本社最寄ノ各社員相會シ演說及質問討論等ヲナスモノトス

第三十九條 各會ノ期日ヲ定ムルヲ左ノ如シ
定期會ハ每年從一月十五日至一月十七日

農話大集會ハ春季從三月二十日至三月廿二日
秋季從九月廿三日至九月廿五日

農話小集會ハ毎月從一日至二日

但暴風雨ノ節ハ順延トス

第四十條 各會トモ時宜ニ依リ臨時會ヲ開クヲアルヘシ

第四十一條 會頭ノ職務ハ社長又ハ社長ノ指名シタル者之ヲ行フ

第六章 救手監督

第四十二條 救手監督ハ各地ヘ派遣シタル救手實業ノ成績及品行ヲ監督シ社長ニ復命スルモノトス

第四十三條 救手監督ハ本社役員ノ内ヨリ選舉シ社長之ヲ命スルモノトス

第四十四條 派遣救手監督ニハ左ノ證票ヲ附與ス

第 號

何 某

勸農社(何役)

派遣ノ助手監督トシテ何縣地方へ巡回ヲ委嘱ス

年月日

勸農社長林 遠里印

福岡縣筑前國早良郡入部村

社主 林 遠里

●勸農社擴張主旨書

國家富強ノ基礎ハ農工商ノ三業ニ在ルヤ固ヨリ論ヲ待タズ然レハ各國
 氣候同カラズ風土相異ナリ地ノ肥瘠業ノ適否自ヅカラ國狀特殊ノ別ヲ
 爲ス況ヤ古來國本トシテ務ムル所富強ノ實力際リテ重キヲ爲スモノア
 ルニ於テアヤ英ノ商ヲ以テ國ヲ利シ米ノ工ニ頼リテ富ヨリ致ス皆ナ是
 レ其國狀特殊ノ實力ナリ今ヤ各國經濟的戰爭ノ時代ニ屬ス此時ニ當リ
 世ニ漫然富國強兵ヲ説クベケンヤ宜ク其國狀特殊ノ實力ヲシテ發達進
 歩セシムルノ道ヲ講セザルヘカラス不夫レ我國特殊ノ實力ハ何乎農業

即チ是レナリ抑モ我國氣候ノ温ナル風土ノ美ナル地味肥腴ニシテ米作
 ニ適ス振古瑞穂ノ國ト稱ス其實ニ於テ誠ニ然カリ古來農ヲ以テ國本ト
 爲シ國家生存ノ實ヲ此ニ取リタルモ固ヨリ其所ナリ其レ然カリ我國ノ
 實業ハ農業其主ニシテ工商ハ則チ其客タリ製造ト云ヒ貿易ト云ヒ其源
 ハ則チ農産ニ發セサルモノ甚ダ稀レニシテ農間ノ盛衰ニ由リ以テ工商
 ノ消長ヲ爲ス農ノ誠ニ國本タル其レ明カナラスヤ今日我國特殊ノ實力
 此ニ在テ存スル一豈ニ疑ヒテ容レンヤ故ニ此實力ノ發達進歩ヲ謀ルハ
 則チ國家富強ノ道ニ於テ最モ急務タリ就中米麥作ヲ改良シ其收穫ヲ增
 益スルハ其功極メテ著大ナリトス試ミニ思ヘ我國人口月ニ歳ニ増加ス
 ト雖生産ノ力之レニ伴ハズ殖産ノ道徹々トシテ振ハズ國家貧弱ナラザ
 ラント欲スルモ豈ニ得ヘケンヤ人口多キヲ加フト雖一國ノ土地廣キヲ
 加フルモノニアラザレバ外國ニ移住シ外國ト貿易シ以テ生産力ノ増益
 ヲ謀ルカ如キ固ヨリ今日ノ要務ナリト雖力ヲ我國特殊ノ實力ニ致シ其
 收穫ヲ増加スルハ則チ力ヲ用ル易クシテ功ヲ收ムル大ナルモノナリ其
 結果タル一國ノ版圖ヲ廣ムルト相同シ之レヲ稱シテ一種ノ擴地法ト云
 フヘシ國家富強ノ繁ル所實ニ大ナリトス余ノ勸農社ヲ起ス亦之レガ爲

農報第一號

メナリ抑モ余無似ノ身ヲ以テ夙ニ稻作改良ノ方法ヲ研究シ之レヲ實地ニ經驗スルヲ多幸ニ聊カ發明スル所アリ爾來自カラ老ヒノ至ルヲ忘レ一身ヲ此業ニ委シ東奔西走斯ニ年アリ幸ニシテ其法漸次各地ニ行ハレ今ヤ三府三十餘縣ノ多キニ及ブ而シテ來リテ敷ヘテ請ヒ迎ヘテ業ヲ受クル者陸續相續シ茲ニ本社擴張ノ必要ハ實ニ迫レリ且ツ余雖キニ農商務省ノ命ヲ奉シ歐米諸邦ヲ巡視セシニ各國皆テ其國特殊ノ實力ヲ發達スルヲ務メザルハ莫シ於是乎余ハ益々米麥作改良ノ一大急務タルヲ感セリ本社ノ擴張豈ニ其レ已ムヘケンヤ願レバ初メ本社ヲ創立スルヤ雖キニ余ノ各地方巡遊中岩村石川縣北垣京都府原山口縣山田鳥取縣篠崎新潟縣ノ諸知事余ノ微衷ヲ諒知セラレ若干金ヲ惠マレタリ余之レヲ受ケテ以テ本社ノ基本金ト爲セリ今ヤ本社ヲ擴張スルニ當リ固ヨリ巨額ノ資金ヲ要シ余一人微力ノ能ク支ツル所ニ非ス之レヲ四方ノ有志諸君ニ告ケ其贊助ヲ乞フノ已ムヲ得サルニ至レリ四方愛國ノ諸君子幸ニ余ガ微衷ノ注ク所ヲ諒察セラレ國家ノ爲メニ此舉ヲ贊成セラレンヲ切望ノ至リニ堪ヘサルナリ

義捐金取扱手續

農報第一號

一本社擴張ノ旨趣ヲ贊成アリテ金圓義捐セララル、諸君ハ其多少ニ拘ラス其員數及ヒ住所氏名等ヲ本社へ通報ヲ乞フ

一義捐金ハ當分福岡第十七國立銀行若クハ本社事務所へ送付ヲ乞フ現金又ハ証券等到達ノ上受領證ヲ呈シ併セテ新聞紙上ニ廣告スヘシ

一義捐金ハ本社事務所及敷場生徒寄宿所建築其他實業ニ要スル農具牛馬等購入諸費ニ充ツ

農商務省告示第七號

左記ノ農事試驗場支場ニ於テ來ル七月十五日ヨリ土壤、肥料農產物、農產製造品其他農業上ニ關係アル物料ノ分析依頼ニ應ス

明治二十七年五月二十日

農商務大臣子爵榎本武揚

農事試驗場廣島支場

廣島縣沼田郡祇園村大字北下安

農事試驗場宮城支場

宮城縣名取郡茂ヶ崎村大字長町

農商務省告示第拾九號

農事試驗場ニ分析ヲ依頼スル者ハ左ノ心得書ニ依ルヘシ

明治二十六年十二月十二日

農商務大臣伯爵後藤藤次郎

分析依頼者心得

號一第報農

一分析ニ要スル供試品ノ數量ハ左ノ區別ニ從ヒ差出スヘシ
但場長又ハ支場長必要ト認ムルトキハ増加セシムルコトアルヘシ
土壤

肥料

- (甲) 油粕、糠、乾鰯、鯢、鯨、油、骨、炭、石灰、草木灰ノ類 五百匁
- (乙) 骨粉、骨灰、骨炭、石灰、草木灰ノ類 百匁
- (丙) 人造肥料 五十匁乃至五百匁
- (丁) 堆肥ノ類 五十匁
- (甲) 穀類其他子實ノ類 百匁
- (乙) 稗皮、麸ノ類 百五十匁
- (丙) 稿稈ノ類 同
- (丁) 根菜ノ類 八百匁
- (戊) 葉菜ノ類 六百匁
- (己) 果實ノ類 七百匁
- (庚) 生草ノ類 五百匁
- (辛) 乾草ノ類 百五十匁
- (壬) 以上ノ外植物莖葉ノ類(乾燥セルモノ) 同

農産物

(癸) 同上

(乾燥セルモノ) 五百匁

農産製造品

- (甲) 砂糖、澱粉、麪粉、脂、油茶、蜜、烟草、乳油、乾酪ノ類 二十匁乃至百匁
- (乙) 亞爾備保兒、釀造飲料ノ類 四合

水

- (甲) 定性分析ヲ要スルトキ 二升
- (乙) 定量分析ヲ要スルトキ 五升

二分析ヲ依頼セントスル者ハ第一號書式ニ依リ依頼書ヲ作り供試品ヲ添ヘテ所轄農事試験場ニ申出ラヘシ
三場長若クハ支場長ニ於テ分析ヲ爲スノ必要ナシト認ムルモノ又ハ事故アリテ分析ヲ爲シ能サルトキハ依頼ニ應セサルコトアルヘシ
四場長又ハ支場長ヨリ分析ノ依頼ニ應スル旨ヲ通知シタルトキハ第二號書式ニ依リ手数料納付書ヲ作り明治二十六年勅令第二百三十號ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ
五供試品ハ分析施行ノ後殘餘ヲ生スルモ返戻セサルモノトス
六分析ノ依頼ニ應セサル供試品ハ通知ノ日ヨリ二週間以内ニ其返戻ヲ請求スルモノアルトキハ運賃先拂ヲ以テ發送ス

號一第報農

第一號書式

分析依頼書

一 供試品名

二 生産地若クハ製造地名

三 生産人若クハ製造人名

四 分析ヲ要スル成分

右定性(又ハ定量)分析御依頼仕候間御許可相成度候也

年 月 日

職業

氏 名印

現住所

農事試験場長又ハ農事試験場何支場長宛

第二號書式

此處ニ登記印紙ヲ 貼用ス指印スヘシ 分析手数料納付書

何年何月何日付ヲ以テ御依頼仕置候何々分析ノ備御許可相成候ニ就

テハ右手数料納付仕候也

年 月 日

職業

氏 名印

現住所

農事試験場長又ハ農事試験場何支場長宛

●大日本農會ヨリ各地老農ニ質セン問題

第一 全國一般農事上最第一ニ着手スヘキモノハ何ナルヤ

第二 其府縣ニ於テ農事上第一ニ着手スヘキモノハ何ナルヤ

第三 成ルヘシ耕地ノ賣買又ハ質入等ヲ爲サ、ル様スルニハ何等ノ救

護法ヲ設クヘキヤ

第四 農業銀行及農業保險會社設立ノ方法

第五 全國農家ノ負債償却方法

第六 全國農家貯金ノ活用方法

第七 種子交換ノ方法

第八 全國農家ヲシテ肥料購買ノ途ヲ容易ナラシムル方法

第九 將來肥料ノ増加ヲ計ル方法

第十 全國農家一般ニ牛馬ヲ飼養セシムルノ方法

第十一 諸般ノ公事成ルヘク簡易ヲ主トシ農家ヲシテ時間ヲ徒費セシ

メサル方法

第十二 將來棉花ノ輸入ヲ防ク方法

第十三 將來砂糖及大豆ノ輸入ヲ防ク方法

第十四 漆樹ヲ蕃殖スルノ方法

第十五 年中間斷ナシ農業ニ從事シ能ハサル地方ノ農家ニ適當ノ事業ヲ授クルノ方法

第十六 人口ノ過多ナル地方ノ者ヲシテ内外ヲ論セス確實ニシテ容易ナル移住ヲ爲シ得サシムルノ方法

以上諸項ハ臨時農事大會ヲ當秋又ハ來春開設スル時ノ問題ト爲スヘキ質問ナルカ故精々研究調査之レアリタキ事

明治二十七年 月 日

大日本農會幹事長前田正名

第十回出雲有志地主農談會談話摘要

明治二十七年五月三日松江市末次松崎水亭ニ於テ開會ス出席會員佐藤喜八郎野津傳三郎森脇甚右衛門織原高次郎山内佐助後藤忠一郎大島新四郎松本敬次郎太田茂市桑原羊次郎青山勘兵衛澤田城之助櫻井三郎右衛門木幡久右衛門古津元市藤原武太郎川上次之助三島佐次右衛門等ナリ○(會長)本日ハ圖ラズ會員諸君ノ參集遲延セシ爲メ開會時刻遅クナリシガ案スルニ本日ハ不幸ニシテ暴風起リ殊ニ雨マテ加ハリシニヨリ之ニ支ヘラレテ出ツルヲ止メタル人杯アルニヨレルナラント思ハル然レハ是ヨリ開會スヘシ扱テ本會モ段々回數進々今回ハ第十回目トナリシカ大体本會カ抱持スル主題タル今更事新シク喋々スルノ必要ナキモ追々規模モ擴張シタキニヨリ聊カ辨シニ抑モ維新以來諸外國ト物貨ヲ貿易スルヲトナリシニ付テハ商工業其他大ニ面目ヲ改メシモ農業ニ至テハ幾分カ進歩セシモ他業ニ比スレハ甚タ後レ居レリ是レ種々ナル原因アルヘシト雖モ要スルニ地主小作トモニ舊習ヲ墨守シ精勵ノ氣力ニ乏シキト一致力ノ必要ヲ感スルモノ少ナキカ故ナラン何トナレハ我國ノ習慣トシテ地主自ラ耕耘ノ勞ヲ執レルモノ甚タ少ナクシテ多クハ小

作ニ托シテ放任スルコトナルニヨリ小作ノ頑固ナル己カ土地ニアラキル故當手ノ都合ノミヲ計リ將來田圃ノ衰頹スルヲ顧慮セサルノ傾キアルモ之ヲ獎勵スルノ法ヲ欠キ地主團結シテ改良法ヲ講スル力乏シケレハナリ元來農ハ國ノ本ニシテ西哲ハ之ヲシテ國ノ父母ナリトモイヘリ然ラハ則チ農民タルモノ十分精勵以テ改良進歩ノ道ヲ講セサルヘカラス而ルニ斯ノ如ク遲々トシテ進歩セサルハ遺憾ノ至リナリ就中我農國ニ於ケル地質ノ如キハ先ツ全國ノ中等以上ニ位セリトノコトハ既ニ學士ノ明言スル所ナルカ余モ奥州邊迄巡見セシニ如何ニモ其中等以上ニ居レルモノナルコトヲ認メタリ豈ニ幸福トイハサルヲ得ンヤ夫レ斯ノ如ク幸福ナル土地ヲアリナカラ増殖ノ法ヲ講スルモノ乏シク且ツ惡米ニシテ出雲米トイヘハ兎角聲價ヲ得ルニ難シ最モ近來ハ追々改良ニ盡力スル人出來シヲ以テ以前ノ如キトハ少シク異ナレトモ既ニ昨年秋季會ノ際陳述セシ如ク人民ノ員數タル追々増加スルニモ拘ハラヌ米麥ノ收穫ハ其割ニ増加セサルカ此儘ニテ押シ行クトキハ如何ナル慘狀ヲ呈スルニ至ルヤモ測ルヘカラス故ニ地主タルモノ唯タ其日ノ安キヲ是求ムルノ傾ヲ止メ一致共同奮習ヲ除キ小作ヲ獎勵シテ以テ改良進歩ヲ謀ル

ハ實ニ今日ノ急務タリ見ヨ社會事物ノ改良進歩タル全体上ヨリシテ下ニ及ホスヲ常トス然レハ地主ニシテ改良ナケレハ逆テモ小作等ノ改良進歩スル道理ナキナリ而シテ之カ方法ヲ講スルハ本會ノ義務ナルニ何時モ出席員甚タ少數ニシテ而カモ時トシテハ郡ニヨリ一名モ出席スル人之ナキコトアルカ全体本會ヘ加盟セラレタル所以ノモノタル農事ノ改良進歩ハ同心協力ニアラスンハ得ヘカラストノコトヲ感セラレシ上ナリシト思フ然ルニ斯ノ如クナルハ實ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナレハ將來諸君充分最寄ノ會員御誘導ノ上可成多數出席アランコトヲ希望ス西哲イヘルアリ同心協力ハ世運ノ開進ヲ驗スル尺度ナリト宜ナル哉此言豈ニ服膺セスシテ可ナランヤ又曰ク此際諸君ニ御謀リ致シ度キモノアリ他ナシ本會ノ費額ヲ變更セントスルコト則チ是ナリソレ本會現時ノ會費タル第八回通常會ノ際各幹事カ實本金融置方調査委員ノ資格ニテ提出セラレタル意見ニノ一回壹圓宛ナルカ抑モ委員諸君カ斯額ニ確定セシ所以ノモノタル本會ニハ既ニ實本金融置シテ三千圓ヲ積立ントノ計畫アルカ果シテ斯額ニ滿ツルニ至ラハ其利子ニテ支辨シ得ラルヘケレハ別ニ徵收スルノ要ナケレヨソレマテノ間ハ若干ノ會費ヲ徵セサルヲ

得ス左レハ先ツ一回登園宛トシ此内幾分ハ事業費ニモアテ若シ實費支
 辨ノ殘餘アルトキハ實本金ニ編入セントノコトナリシ然ルニ本會員ノ
 員數タル既ニ一百名以上ニ達セシカ百名分ヨケニテモ年ニ二回ツ、徵
 收スルニヨリ貳百圓ノ會費ヲ得ルコトナルカ即今ノ場合ヲ以テスレハ
 斯ノ如キ金額ハ之ヲ要セザレハ先ツ五拾錢宛トスルモ猶ホ幾分カ殘餘
 ヲ生スル位ナルヘシト思フ故ニ今回ヨリ當分更ニ實費ヲ徵收スルコト
 ナスカ又ハ實費ニテハ或ハ厘毫ノ端數ヲ生スルコトアリテ計算上煩ハ
 レケレハイツツ五拾錢宛ニナスカノ二途ニ就キ選ハントスルカ若シ五
 拾錢宛トスルモ上述ノ如ク幾分カ殘餘アルヘシト思フ然レハ將來ハ年
 ニ四回宛農報ヲ發刊スルニヨリ是マテトハ異ナレリ而シテ會費支辨ニ
 關スル計算書ハ秋會ニ於テ各員ノ御覽ニ供スヘシ實ニ本問題ニシテ果
 レテ諸君ノ賛成ヲ得實行スルニ至ラハ一ケ年二回ノ會費ヲ一度ニ徵收
 セント欲スルニヨリ大ニ手數ヲ省略スルノ便益アルナリ(大田)(三島)共
 ニ會長ノ意見ヲ賛成ス(會長)然ラハ決テ採ラン余カ意見ニ同意ノ諸君ハ
 舉手セラレヨ惣員舉手可決(會長)本年ヨリ年々四回宛農報ヲ出スコトナ
 リ居レルカ之ニ載スヘキ事柄タル本會談話ノ要點ハ勿論會員諸君ノ經

驗若クハ發明セラレシ有益ナル事柄又ハ農事ニ關スル諸雜誌中必要ノ
 事柄是レ雜誌トイフモ却々數多キモノニテ其我輩ニ必要ナル事項タル
 何レニソルカ全體ヲ通讀セザレハ之レヲ見出スコト能ハス左レハトテ
 全體ヲ通讀スルコトハ却々容易ノ業ニアラサルヲ以テ版權ニ抵觸セザ
 ル限リ之レヲ抜摘セントスルニヨレリ又タ研究セント欲セラル、モノ
 アレハ其ノ旨趣ヲ書面ニ掲ケテ會長ヘ出サルレハ會長ハソレ、其ノ
 途假令ハ地質ニ關スル事柄ナレハ相當學士ヘ耕耘上ニ關スル事柄ナレ
 ハ熟練ナル實業家若シクハ學士等ヘ問合セテ答辨ヲ得タルモノ等ヲ以
 テセントスソレ本報記事ノ大要タル斯クノ如クナレハ諸君研究ヲ要セ
 ラル、コトアレハ直チニ申出テシ、ハ勿論其ノ他見聞上尙クモ我輩
 ノ爲メ利益トナルヘキコトハ忌憚ナク精々報導セラレンコトヲ望ム而
 シテ其ノ編纂監督ノコトハ桑原羊次郎氏ニ依頼セリ然ルニ桑原氏ノ熱
 心ナル先去ハ態々育種場ヘ參リ終日何カノ研究ヲセラレタリトノコト
 ヲナリ又本年ハ創始ノコト故威ハ三回ヨリ發兌スルコト能ハサルヤモ
 測リ難キニヨリ豫メ御斷リ申置クヘシ(桑原)只今會長ヨリ農報ノコトニ
 付咄シアリシカ余ハ農事ニハ不案内ニテトテモ其編纂ノ任任ニ當ル

能ハキルモ止ムナク遂ニ監督ノ一肯諾セリ依テハ其編輯書記ニハ先ツ
 佐々木智最ナル人ヲ以テシ又育種場ニ居レル田中房太郎及ヒ三成愛次
 郎ノ兩氏ニ材料蒐集等ノ一ヲ依頼シ又長島靜氏ナル人ニ就キ此編纂ニ
 對シ助力セラレンコトヲ依頼セシニ受込ミ吳レシカ全體コレハ縣廳農商
 係ニ勤務シ居レルヲ以テ縣下農産物ノ一ニ付テハ餘程委シキ人物ナル
 ニヨリ好都合ナリ又農學士中村鐵太郎氏ニモ助力ヲ請ハント思フ而シテ
 其掲載スヘキモノハ重モニ地主ニ利益アル事柄ヲ以テセントノ考案ニ
 テ即チ先刻會長ヨリ述ヘラレシ如ク農事ニ關スル諸雜誌統計及ヒ報告
 書等ニ就キ其版權ニ抵觸セサル限り之ヲ採擷セントスルニアリ却說育
 種場ニ於テハ客年九月ノ頃ヨリ各町村長ニ照會シテ米麥ニ生スル害虫
 ノ種類及ヒ其驅除法等ヲ取調ヘシモノアルカ是レハ地主ニ知ラレムル
 ハ最も利益ヲ奏スヘシト認ムルヲ以テ掲載セント欲スルニ其紙數タル
 殆ント三百頁モ之アルニヨリ右田中房太郎及三成愛次郎ノ兩氏ニ依託
 レテ其中ノ必要ナル點ノ一ヲ採擷セシムル考ナルカ活字ヲ以テスルモ
 猶ホ二十頁位ハ之アルヘシト想ハルナリ而シテ本農報ニ於ケル紙數ノ
 一定セサルヘキコトニ付一言シ置ンニ全體營利ノ爲メニスルモノニテ假

令ハ一ヶ月ニ何回發兌シ一冊ノ價若干トイフ如キモノナレハ埋クサノ
 爲メ或ハ不必要ナル事項杯ヲモ掲載スルコトナキニシモアラサルニヨリ
 自然粗製濫造ノ弊ヲ生スルニ至ランモ測ルヘカラサルモ本報ノ如キハ
 然ラサルニヨリ時トシテ版權ナキ右雜誌等ヨリ採擷セサルモノ又ハ會
 員ヨリ送ラレハ質問及ヒ之ニ對スル辨明又ハ高論卓說實業家其他ヨリ
 蒐集セル論說等多ケレハ隨テ紙數増加スヘキニヨリ百頁トカ若クハ百
 五十頁トカニモナルコトアルヘケレハソノ數少ナケレハ或ハ僅カ四五
 頁ニ止マルコトモアルナラント思ハルナリ又金錢ノ一ニ付テモ若シ上
 述ノ如キ件ノ一ナレハ敢テ格別ノ費用ヲ要セサルヘキモ若シ東京等ヨ
 リ論說研究書等送り越セル際ニハ若干ノ費用ヲ投セサルヲ得ス然レハ
 本報タル會員計リニ配ルモノニシテ所謂活版ヲ以テ筆寫ニ授クルニ過
 キサルモノナレハ可成多分ノ費用ヲ要セサル様ナサント思フナリ且ツ
 先刻會長ヨリ續々述ヘラレシ如ク尙クモ農事上利益トナルヘキモノト
 認メラルハアラハ精々申出ララレンコト希望シテ止マサル所ナリ諸君ソ
 レ之ヲ諒セラレヨ(三島)左様ニ結構ナルモノヲ出スハ本會ノ名譽ノ一ナ
 ラス吾々會員ヲ始メ各地主ノ爲メ最モ利益トナルコトナレハ至極賛成ナ

ル雜誌ノ振草事項ヨリ成ルヘク諸君ノ實驗上有益ト認メラル、トヲ掲載スルモ可ナラント思フニヨリ充分申出アラン、トヲ望ム(桑原)補欠ノ爲メ猶ホ一言センニ余ハ縣下有名ノ老練家ニ就キ親ク實驗談ヲ聽聞シ第一回農報ニ掲出セント欲スルヲ以テ頻リニ訪問イタシタシ思ヘトモ他ノ用務ニ支ヘラレテ果スト能ハス依テ佐々木習最氏ヲシテ此任ニ當ラシメントス是レ此人物ハ速記者ナルニヨリ若シ高論卓説ヲ抱持スル老練家ニシテ原稿ヲ起スヲ厭フ如キアラハ詳細ナル談話ヲ乞ヒ直チニ筆記シテ持返ラシメ其必要ト認ムル、トハ悉ク登錄セシメント欲スルニアリ(會長)將來本會ノ備付品トシテ農事雜誌中最モ必要ト認ムルモノヲ購入セント欲スルカ如何ノモノヤ諸君ノ意見ヲ徵セン(桑原)如何ニモ雜誌中ニハ往々我輩ヲ益スル記事アルモノ故果シテ購入セハ本會ノ爲メ定メテ利益トナルナラン且ツ本日ノ如ク會員參集ノ遲刻ニ及ヘルト定時參會者ニ對シテ其開會迄ノ閱讀ニ供セハ開ニ苦ムノ憂ナカルヘケレハ旁以テ好都合ナルヘシト思惟ス故ニ余ハ之ヲ贊成スヘシ(三島)余モ贊成スヘシ而シテ其種類ハ會長ニ一任スヘキニヨリ必要ト認メラル、トモノヲ購入セラレタシ○此際各員贊成ス(會長)第五回通常會ノ際會員布野

虎之助氏ヨリ本會付屬小作納米品評會設置ノ、トニ關シ建議書ヲ提出セラレシモ不幸ニ成立サリシカ是ハ實ニ好計畫ナルモ總テ品評會ナルモノニ於テハ兎角弊害アリト聞ク於是乎日本農會其他トモ年々米麥品評會ヲ開設スルニ付テハ嚴重ナル取締法ヲ設ケ居ルトノ、トナルカ如何ニモ左モアルヘキ、トナレハ本會ニ於テモ相當取締法ヲ設ケ以テ開設スル、トトナサハ弊害ナクシテ全ク小作獎勵ノ實ヲ舉クル様ナルヘシト思フ就テハ其取締方法ヲ講シタキモ本會員ニ附隨スル小作人ノ員數タル實ニ夥多ナルヘケレハ却々容易ノ業ニアラス故ニ余ハ寧ロ極メテ簡易ナル法即チ本會開會ノ際會員各自カ其所有地ノ產米ヲ持出シ以テ品評スルトイフ如キ、トナレハ容易ニ行ハルヘシ而シテ斯ル、トナレハ費用ノ如キモ決シテ多分ニハ要セサルヘシト思惟スルナリ是レ諸君以テ如何トナス(桑原)布野君ヨリ提出セラレシ建議タル、トノ旨趣ハ如何ニモ宜シケレハ熟考スルニ言フヘクシテ實際行ヘ難キ、トニ付遺憾ナカラ成立サリシナリ(會長)該建議ノ旨趣タル只今モ申セシ如ク如何ニモ好ケレハ餘程面倒ナル仕懸ケ故不幸ニモ成立サリシ依テ余ハ彼ノ如キ愚見ヲ提出セシカ御互ニ作米ノ持寄リトイフ如キ譯ニテ品評會ヲ開設スルコトナ

レハ好都合ナラント思フ諸君此簡易法ニ付御妙案モアラハ御咄シアラ
 シト望ム(三嶋)ソノ品評會開設ノコトハ本會ニ取リ最モ好キコナルヘシ
 ト思惟スルモ何分今日ハ郡部ヨリノ出席員甚タ少ナキニヨリ此コトハ後
 會ノ際提出シ可否ヲ決スルコトセラル、モ可ナラント思惟ス(會長)農事
 振興策ノコトニ付テハ御謀リモ致度又諸君御高見モアラハ承リタキ所ナ
 ルカ或ル書ニ據ルニ西洋ニ於テ農會ト唱フルモノハ資産家並ニ學識徳
 行經驗等ニ富メル上流者ノ結合ニ成立テ其軌ル所ノ主義タル直接ニハ
 農業ノ進歩ヲ圖リ間接ニ該地方ノ隆盛ヲ期スルニアリ而シテ其會員ナ
 ルモノハ各自義務トシテ大ニ腦力ヲ費ヤシ美果ヲ收ムルヲ以テ目的ト
 ナスト試キニソノ軌リ居ル所ノ要件ヲ採擷セハ一ニ學理ニ基キ經驗ニ
 依リ確認シタル總テノ農事改良ノ普及ヲ圖ル事ニ農事ノ利益ヲ圖ル
 爲メ農業諸般ノ事ヲ其筋へ具申スル事三ニ農産物共進會ニ關スル規約
 ノ實行ヲ體察スル事四ニ博ク農事業ニ關スル著書及ヒ雜誌類ヲ集メ以
 テ實地ノ進否ヲ試驗講究スル事五ニ地方實地農學校ト密接ノ關係ヲ有
 スヘキ事六ニ他地方ニ於ケル農會ト交通シテ利益ヲ收ムル事七ニ農業
 試驗場ト氣脈ヲ通スル事八ニ雜誌ノ發兌又ハ農事改良ノ演說等必要ア

ル場合ニ於テハ之ヲ舉行スル事等ナリトス嗚呼盛ナリト謂ツヘシ左レ
 ハ我國ノ如キニ於テモ狀態ニ適スル所ノ良法ヲ設ケ以テ其振興策トナ
 スヘキカ當然ナレハ諸君奮テ之レカ考案ニ努メラレ果シ良案アラハ忌
 憚ナク吐露セラレシコト望ム○此際餘程時刻移リシヲ以テ本日ノ談話
 ハ此ニ止メタリ○五月四日午前開會(太田)昨日會長ヨリ米ノ品評會開設
 ノコトニ付談話アリシカ各町村有志カ開設スル品評會若クハ共進會ニ關
 スル事柄ニ付少シク異ナレハ諸君參考ノ爲メ陳センニ全體共進會ナリ
 品評會ヨリ其關係地ノ區域廣大ナル程參觀人ノ員數モ亦多キ筈ニ付隨
 テ利益ノ及フ所大ナルヘキ道理ナルカ其利益ノ多キタケソレマケマタ
 弊害モ起リ易キモノナリ是レ余ハ親シク實驗セル所ニシテ此弊害タル
 實ニ忌ムヘク嫌フヘキモノナレハ努メテ之ヲ矯正スルノ道ヲ講セサル
 ヘカラス然レモ是レ却々容易ノ業ニアラズ依テ余ハ熟考スルニ其弊害
 タル未然ニ防クニ如カスト思ハル即チ其關係地區域ヲシテ可成狹小ナ
 ラシムルニアラナリ故ニ之ヲ開設セントナラハ先ツ二町村位ヲ一區域
 トナス可ナリトス而シテ其費用ハ町村費ニテ支辨シ貰フカ又ハ幾分ノ
 補助ヲ受ケ餘ハ之ヲ關係者ニシテ負担スルトイフ如クシテ可ナラント

思惟スルナリ(澤田)開ク所ニ據レハ小作人中或ル地主ニ於テハ上米ヲ納ムレハ相當ナル賞品ヲ與フルニヨリ精々上米ヲ持行カサルヘガラサルモ或ル地主ニ於テハ如何ニ上米ヲ納ムルモ決シテ賞米ヲ與ヘサルニヨリイッソ懸米ヲ持行クヘシトイフ可キ弊害アリトノリナルニヨリ地主ト小作間ニ於ケル關係ハ各郡トモ一定ニシテ之ヲ矯正セント欲スルガ諸君ハ以テ如何トセラル、ヤ(會長)御説ノ如ク雲國各郡トモ一樣ニイタシタキ考ナルモ此事タル却々容易ノ業ニアラサルニヨリ漸進主義ヲ執ルヨリ外致シ方ナカルヘシト思惟スルナリ○又曰ク余ハ小作納米持寄リノ上本會員ニテ品評スルコトセハ至テ簡易ニシテ其獎勵法トナラントノ考案ヲ有スルヲ以テ昨日之レカ要旨ヲ述ヘシ際三島君ノ御説トシテ本日ハ郡部會員ノ出席少ナキニヨリ此コトハ後會ヲ待テ決スルコトナス方可ナラントノコトナリシガ今回ノ如ク會員ノ參集少ナキコトハ多分ナカラント思フモ若シ同會ニ出席スルコト能ハサル諸君ハ必ス其開會前マテ之ニ對スル御意見且ツ前述ノ農事振興策ニ關スル御意見ヲモ併セテ書面ニテ申出テラル、様ナヤント欲スルナリ○此際各員之ヲ贊成セシニ付會長ノ意見ニ決ス

出雲有志地主農談會加盟員報告

島根郡本莊村大字別莊

中村虎太郎

出雲郡出東村

勝部本右衛門

同郡久木村

勝部才太郎

同郡直江村大字下直江

土江福十

同郡久木村

多久田藤一郎

同郡同村

三代愛三郎

意宇郡意東村

一瀬市兵衛

同郡津田村

永井 洵

同郡根屋村

後藤忠一郎

同郡出雲郷村

佐藤忠之助

楯縫郡平田町

大谷 宗藏

同郡東村

角 常三郎

仁多郡阿井村

岩田榮十郎

農談會資本義捐金報告

金貳拾圓也

同拾圓也

右及報告候也

五月三日

本間團一郎

川上次之助

會長

佐藤喜八郎

出雲國有志地主農談會員御中

明治二十七年七月卅一日印刷
明治二十七年八月十五日發行

(非賣品)

島根縣松江市殿町百十三番地

編輯兼發行者

佐々木習最

島根縣松江市内中原百四十番地

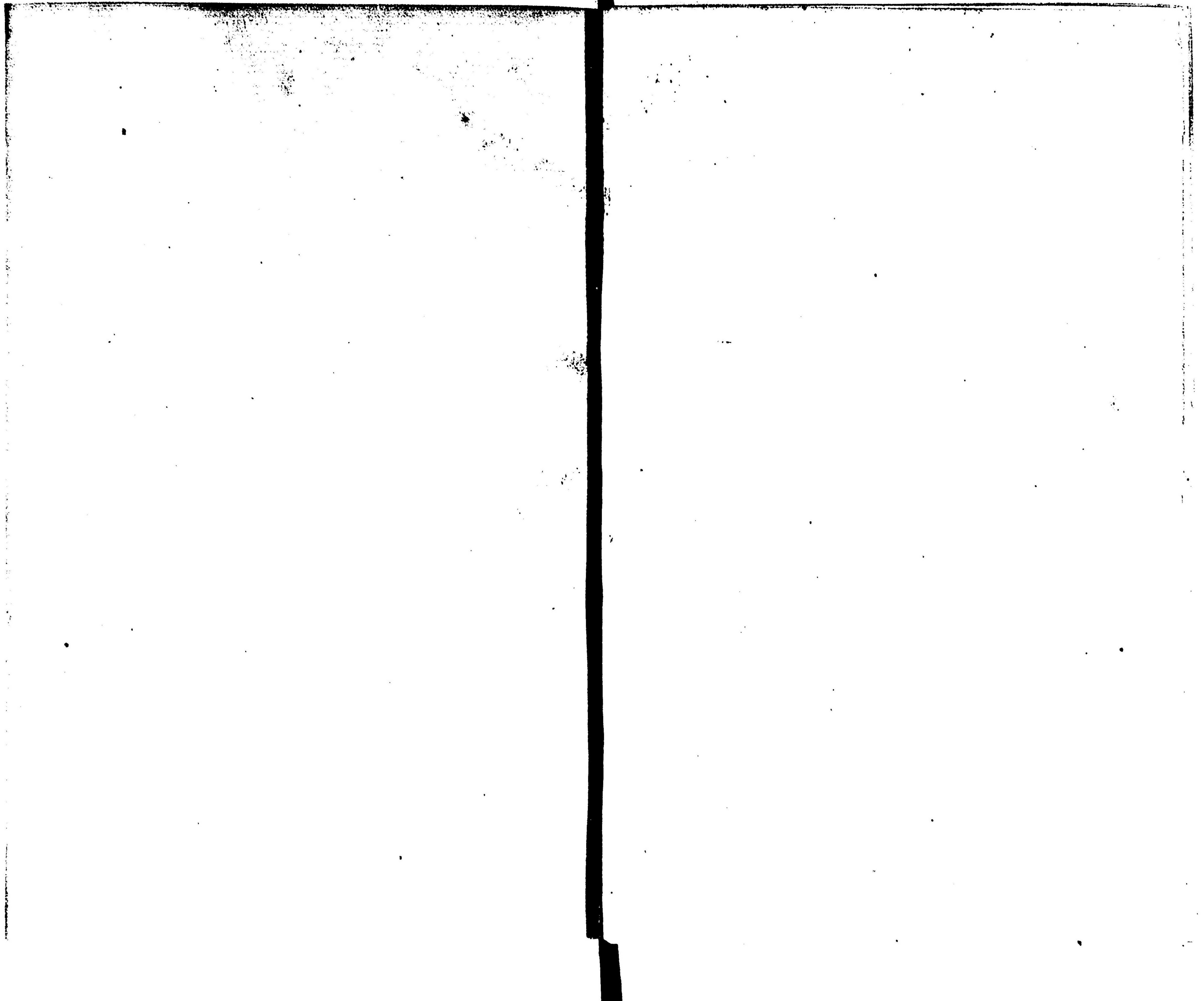
印刷者

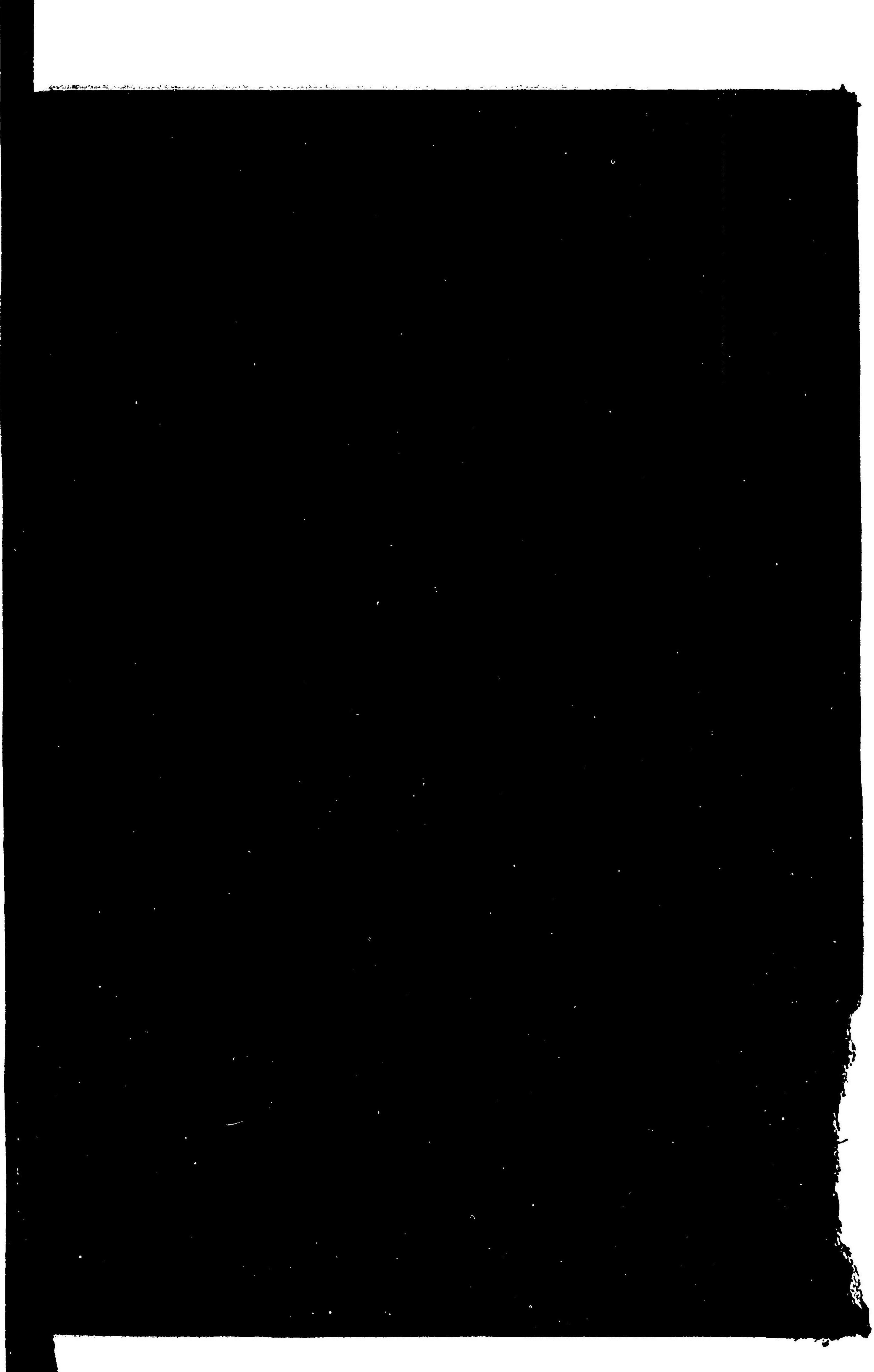
勝部修

島根縣松江市白湯本町五十八番地

印刷所

白濁活版所





042848001-6
44-289

農報 第1, 2号

出雲有志地主農談会

M27

BDJ- 708

